

学校教育専修

開設科目	学校教育総合研究 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	西村正登他				

●授業の概要 わが国の学校教育の諸問題を教育学、障害児教育、幼児教育の各分野から総合的に考察し、今後の課題について検討する。／検索キーワード 学校、教育

●授業の一般目標 (1) 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育についての概要と課題を理解する。(2) 障害児教育や障害児心理についての概要と課題を理解する。(3) 幼児教育についての概要と課題を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育についての概要と課題が理解できる。思考・判断の観点：1. 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する思考力や判断力を高めることができる。関心・意欲の観点：1. 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する関心や意欲を高めることができる。態度の観点：1. 日常生活の中で学校教育の諸問題について主体的に考えることができる。

●授業の計画(全体) 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育の各分野を専門の教員が分担して授業する。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーションと教育哲学
- 第 2 回 項目 教育哲学
- 第 3 回 項目 教育史
- 第 4 回 項目 教育史
- 第 5 回 項目 教育方法学
- 第 6 回 項目 教育方法学
- 第 7 回 項目 教育社会学
- 第 8 回 項目 教育社会学
- 第 9 回 項目 教育制度
- 第 10 回 項目 教育制度
- 第 11 回 項目 障害児教育
- 第 12 回 項目 障害児教育
- 第 13 回 項目 幼児教育
- 第 14 回 項目 幼児教育
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法(総合) 各授業担当の教員が評価したものを総合して平均値を出す。

●教科書・参考書 教科書：使用しない。各教員がプリント等を準備する。／参考書：使用しない。

●メッセージ 授業には欠席しないようにして下さい。

●連絡先・オフィスアワー 各授業担当の教員

開設科目	学校教育総合研究 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	堂野佐俊・熊谷信順・福田廣・名島潤慈・田邊敏明・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

●授業の概要 我が国の学校教育の諸問題について、各担当教官の専門領域の観点から、現代の研究動向を踏まえて、総合的に検討する。／検索キーワード 学校教育、心理学、教育相談

●授業の一般目標 各担当教官がそれぞれの立場で論じる今日の学校教育の諸問題に関して、理解を深め、自己の観点に立って検討・消化する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 発達心理学の観点から 内容 堂野 佐俊 授業外指示 レポート
- 第 2 回 項目 社会心理学の観点から (I) 内容 熊谷 信順
- 第 3 回 項目 社会心理学の観点から (II) 内容 熊谷 信順 授業外指示 レポート
- 第 4 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 大石 英史
- 第 5 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 大石 英史 授業外指示 レポート
- 第 6 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 木谷 秀勝
- 第 7 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 木谷 秀勝 授業外指示 レポート
- 第 8 回 項目 教育心理学の観点から (I) 内容 田邊 敏明
- 第 9 回 項目 教育心理学の観点から (II) 内容 田邊 敏明 授業外指示 レポート
- 第 10 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 恒吉 徹三
- 第 11 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 恒吉 徹三 授業外指示 レポート
- 第 12 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 名島 潤慈
- 第 13 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 名島 潤慈 授業外指示 レポート
- 第 14 回 項目 学習心理学の観点から (I) 内容 福田 廣
- 第 15 回 項目 学習心理学の観点から (II) 内容 福田 廣 授業外指示 レポート

●成績評価方法 (総合) 各担当教官により、提出されたレポートの評価を中心に、全体としての評価を算出する。

●教科書・参考書 教科書：特に指定されたものはなし。／参考書：その都度指示されます。

●メッセージ 「学校教育総合研究：II」は、心理学関係の教官が担当します。

●連絡先・オフィスアワー 各担当教官の研究室

開設科目	教育哲学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	西村正登				

●授業の概要 シュプランガーの生涯と教育哲学について学習し、理解を深める。特にシュプランガーの教育哲学を構成する要素を分析した上で、それらが体系的にどのように構築されているのかについて考察する、また、教育学の固有性がどのような点にあるのかについても理解を深め、教育の本質的な意味について探究する。／検索キーワード シュプランガー、教育哲学、教育学の固有性

●授業の一般目標 1. シュプランガーの生涯について学習し、理解する。 2. シュプランガーの教育哲学について学習し、体系的に理解する。 3. 教育学の固有性について理解し、考察を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. シュプランガーの生涯について理解できる。 2. シュプランガーの教育哲学を体系的に理解できる。 3. 教育学の固有性について理解できる。 思考・判断の観点： 1. シュプランガーの生涯からその生き方を学び、考察を深める。 2. シュプランガーの教育哲学を通して、教育の本質的な意味についての考察を深める。 関心・意欲の観点： 1. シュプランガーの生涯や教育哲学から、人物研究への関心や意欲を高める。 態度の観点： 1. 教育哲学研究に対する意欲的な態度を形成する。 技能・表現の観点： 1. 授業を通して考察したことを表現する能力を高める。

●授業の計画（全体） シュプランガーの生涯と教育哲学を関連させながら理解できるように、両者のバランスをとってシラバスを構成し、授業計画を立てた。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 シュプランガーの生涯（1） 内容 誕生～青年期
- 第2回 項目 シュプランガーの生涯（2） 内容 ベルリン大学学生期
- 第3回 項目 シュプランガーの生涯（3） 内容 ライプチヒ時代
- 第4回 項目 シュプランガーの生涯（4） 内容 ベルリン大学教授期
- 第5回 項目 シュプランガーの生涯（6） 内容 独裁政治の時代
- 第6回 項目 シュプランガーの生涯（7） 内容 チュービンゲン時代
- 第7回 項目 シュプランガー教育学の哲学的構造（1） 内容 精神科学的教育学の哲学的構造
- 第8回 項目 シュプランガー教育学の哲学的構造（2） 内容 主観的精神、客観的精神、規範的精神の相違
- 第9回 項目 シュプランガー教育学の哲学的構造（3） 内容 6つの価値類型と個性類型
- 第10回 項目 シュプランガー教育学の哲学的構造（4） 内容 基礎陶冶・職業陶冶・一般陶冶
- 第11回 項目 教育学の自律と固有性（1） 内容 ヘルバルト教育学の批判
- 第12回 項目 教育学の自律と固有性（2） 内容 ナトルプ教育学の批判
- 第13回 項目 教育学の自律と固有性（3） 内容 教育学の固有性とは何か
- 第14回 項目 教育学の自律と固有性（4） 内容 教育学の学問としての自律
- 第15回 項目 まとめ 内容 授業の整理とまとめ

●成績評価方法（総合） 毎時間、院生に分担してレポートさせ、それを基にしながら全員で討論を深めていく。筆記試験は行わないが、授業でのレポートと理解力、表現力等を総合的に判断して評価する。

●教科書・参考書 教科書：シュプランガーの教育学・倫理学・宗教学に関する研究, 山 英則・西村正登, 日本教育研究センター, 1998年

●メッセージ 授業ではレポーターを決めて毎時間発表してもらいます。レポーターはテキスト以外の関連文献もよく調べてプリントにまとめて下さい。

●連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A棟3階 教育哲学研究室

開設科目	教育哲学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	西村正登				

●授業の概要 シュプランガーの教育の3つの概念について学び、教育の本質について考察する。また、学校教育の方法原理について学習し、理解する。さらに、シュプランガーの教員養成論の形成過程とその内容をプロイセン文部省や教員連盟との政治的な関係の中で把握し、近代ドイツ教員養成史の中に位置づけながら、その意義と限界について考察する。／検索キーワード シュプランガー、教育の3つの概念、学校教育の方法原理、教員養成論

●授業の一般目標 1. シュプランガー教育学の3つの概念について学び、理解する。 2. 学校教育の方法原理について学び、理解する。 3. シュプランガーの教員養成論の形成過程について学び、理解する。 4. シュプランガーの教員養成論の内容について学び、理解する。 5. シュプランガーの教員養成論の意義と限界について考察する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. シュプランガー教育学の3つの概念について理解できる。 2. 学校教育の方法原理について理解できる。 3. シュプランガーの教員養成論の形成過程について理解できる。 4. シュプランガーの教員養成論の内容について理解できる。 思考・判断の観点： 1. シュプランガー教育学の3つの概念を通して、教育の本質についての考察を深めることができる。 2. シュプランガーの教員養成論の意義と限界について考察を深めることができる。 関心・意欲の観点： 1. シュプランガーの教員養成論を通して、教員養成に対する関心や意欲を高めることができる。 態度の観点： 1. 教育を哲学的に考察する態度を高めることができる。 技能・表現の観点： 1. 授業で学んだことを討論し、自分の考えを表現する技能を高めることができる。

●授業の計画（全体） 前期の教育哲学特論で学んだシュプランガーの教育哲学を基礎にして、学校教育論や教員養成論のような実践的問題を中心にシラバスを構成し、授業計画を立てた。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念（1） 内容 発達の援助
- 第2回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念（2） 内容 文化財の伝達
- 第3回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念（3） 内容 良心の覚醒
- 第4回 項目 学校教育の方法原理（1） 内容 郷土科の原理
- 第5回 項目 学校教育の方法原理（2） 内容 共同社会的教育の原理
- 第6回 項目 学校教育の方法原理（3） 内容 内界覚醒の原理
- 第7回 項目 シュプランガーにおける教員養成論の形成過程（1） 内容 プロイセン文部省との関係
- 第8回 項目 シュプランガーにおける教員養成論の形成過程（2） 内容 国民学校教員団体との関係
- 第9回 項目 シュプランガーにおける教員養成論の形成過程（3） 内容 シュプランガーのギムナジウム教員養成論と国民学校教員養成論の相違
- 第10回 項目 シュプランガーの教員養成論（1） 内容 陶冶の概念
- 第11回 項目 シュプランガーの教員養成論（2） 内容 学問・技術・陶冶
- 第12回 項目 シュプランガーの教員養成論（3） 内容 総合大学・工科大学・教育者養成大学
- 第13回 項目 シュプランガーの教員養成論（4） 内容 教育者養成大学のカリキュラム
- 第14回 項目 シュプランガーの教員養成論（5） 内容 教育者養成大学における理論と実践の統合
- 第15回 項目 まとめ 内容 授業の整理とまとめ

●成績評価方法（総合） 筆記試験は行わないが、院生が分担して毎時間レポートし、討論しながら授業を進めていく。レポートの内容と表現力を中心にして評価を行う。

●教科書・参考書 教科書：シュプランガーの教育学・倫理学・宗教学に関する研究, 山 英則・西村正登, 日本教育研究センター, 1998年

●メッセージ 毎時間レポーターにまとめて発表してもらいますので、発表する内容に関連した文献もよく調べておいて下さい。

●連絡先・オフィスアワー masaton @ yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	教育史特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	福田修				

●授業の概要 古代から現代までを視野におき、日本の現代教育の諸問題との関連を踏まえ、特に近代の教育の歴史的展開を考える。文献講読。／検索キーワード 日本教育、近代、歴史的展開

●授業の一般目標 日本の教育の歴史的構造・展開を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本の教育の歴史的構造・展開が説明できる。思考・判断の観点：授業で取り上げた問題について、自分の考えをわかりやすく論理的に説明できる。関心・意欲の観点：教育問題を歴史的に考察しようとする。態度の観点：教育について継続的に考え議論を積み上げることができる。

●授業の計画（全体）文献を講読する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標、進め方。テキストの指定。評価方法
- 第2回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第3回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第4回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第5回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第6回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第7回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第8回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第9回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第10回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第11回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第12回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第13回 授業外指示 テキストの予習 授業記録 レジюме
- 第14回 項目 まとめ 授業記録 レジюме
- 第15回 項目 予備

●成績評価方法（総合）毎回の発表内容を評価する。欠席回数が授業実施回数の3分の1以上に及んだ場合は単位は認められない。

●教科書・参考書 教科書：第1回目の授業で指定する。

開設科目	教育史特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	福田修				

- 授業の概要 日本の近代公教育の特質を明らかにし、現代との連続・非連続の問題を考える。／検索キーワード 日本近代公教育
- 授業の一般目標 日本の近代公教育の特質についての深い理解を得る。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 日本の近代公教育の特質について説明できる。
- 教科書・参考書 教科書： 第1回目の授業で指示する。

開設科目	教育メディア特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	林徳治				

- 授業の概要 教授・学習過程（授業）において、「わかる」、「楽しい」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割について学修する。さらにパソコン、インターネット、衛星や電話回線利用などによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計-実施-評価による授業技術を学習する。
- 授業の一般目標 授業での児童生徒と教師間におけるコミュニケーション活動の改善をめざした「わかる」、「楽しい」授業づくりにおける教育メディアの意義や役割を学び、これらを活用した教育方法・技術について教育実践学の見地より探究する。具体的な項目は以下の通りである。1. 教育メディアの特性を理解し、各々の教材作成ができる 2. 授業の分析（数量的、質的）ができる 3. プレゼンテーション技術（表現伝達）について改善できる
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：メディアを介したコミュニケーション能力 思考・判断の観点：論理的、批判的な思考力と判断力 関心・意欲の観点：教育メディアに対する興味関心 態度の観点：自発的、独創的に取り組む姿勢 技能・表現の観点：メディアを利用したプレゼンテーションの実施・評価を通しての実践力
- 授業の計画（全体） 授業（コミュニケーション）における教育メディアの意義や役割を習得した上で、主にプレゼンテーション技術の習得をめざした自己表現伝達技術の設計・実施・評価を行う。このプロセスを通してメディア利用の教材開発手法、プレゼンテーション訓練方法（マイクロプレゼンテーション）、評価方法・内容について習得する。
- 成績評価方法（総合） 小テスト／授業内レポート，宿題／授業外レポート，発表（プレゼン）や授業内での製作作業，出席等を総合して評価する。
- 教科書・参考書 教科書：情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術，林徳治，ぎょうせい，2000年；情報教育の理論と実践，林徳治・宮田仁，実教出版，2002年
- 連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	教育メディア特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	林徳治				

- 授業の概要 プリント教材、OHP、ビデオ、パソコンなどさまざまな教材教具としての教育メディアを活用した教材開発やプレゼンテーション技術（表現伝達能力）の演習を通して実践力を習得する。プレゼンテーションの訓練法としてマイクロプレゼンテーションを実施する。さらにパソコンを利用したマルチメディア教材の開発やホームページによる遠隔学習用Web教材の作成を行う。
- 授業の一般目標 1. パソコンなど各種教育メディアを活用した教材作成ができる 2. 自己表現術としての効果的なプレゼンテーションができる 3. インターネットを利用したWeb学習を体験し、遠隔学習の特徴を理解できる 4. 遠隔講義を体験し、その特性を理解できる
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：メディアを介したコミュニケーション能力 思考・判断の観点：論理的、批判的な思考力と判断力 関心・意欲の観点：教育メディアに対する興味関心 態度の観点：自発的、独創的に取り組む姿勢 技能・表現の観点：メディアを利用したプレゼンテーションの実施・評価を通しての実践力
- 授業の計画（全体） 1. プレゼンテーション技術について 2. マイクロプレゼンテーションの設計-実施-評価演習 3. 遠隔講義の計画-実施-評価 4. パソコンなど各種教育メディアを活用した教材作成演習
- 成績評価方法（総合） 小テスト／授業内レポート，宿題／授業外レポート，発表（プレゼン）や授業内での製作作業，出席等を総合して評価する。
- 教科書・参考書 教科書：情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術，林徳治，ぎょうせい，2000年；情報教育の理論と実践，林徳治・宮田仁，実教出版，2002年
- メッセージ 本科目は、教育メディア特論を履修した者が望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	教育方法学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	杉山緑				

●授業の概要 近年の教育方法学研究に関する文献を購読し、受講者全員でディスカッションする。話題提供のため受講者は輪番でレポートする。

●授業の一般目標 現代教育方法学の研究動向と課題について理解を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 学習した内容を的確に表現できる。 思考・判断の観点：1. 学習した内容を論理的に整理できる。 関心・意欲の観点：1. 教育方法学の諸課題について関心を広げる。 態度の観点：1. 討論において積極的に発言できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション 内容 目標・ねらい、授業方法、評価方法等について説明する。

第2回 項目 文献読解1

第3回 項目 文献読解2

第4回 項目 文献読解3

第5回 項目 文献読解4

第6回 項目 文献読解5

第7回 項目 文献読解6

第8回 項目 文献読解7

第9回 項目 文献読解8

第10回 項目 文献読解9

第11回 項目 文献読解10

第12回 項目 文献読解11

第13回 項目 文献読解12

第14回 項目 文献読解13 授業外指示 報告集作成のための資料作り。

第15回 項目 まとめ 内容 報告集作成。

●成績評価方法 (総合) レポート内容、発表意欲・態度等を総合的に判断する。

●教科書・参考書 教科書：未定、

●メッセージ 事前の学習と講義中の発言がなにより大切です。積極的な取組を期待します。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部3F 電話：083-933-5452 メール：ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日10:00～12:00

開設科目	教育方法学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	杉山緑				

●授業の概要 現代教育方法学の諸対象の中から受講者自身が設定したテーマについて資料収集・調査等を行い、レポート及びディスカッションする。

●授業の一般目標 設定したテーマを追求することを通して教育方法学的研究力量を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 学習内容について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 学習内容を自己の視点で論理的に整理できる。 関心・意欲の観点： 1. 教育方法学研究の動向と今日的課題について関心を広げる。 態度の観点： 1. 提示された課題に対して意欲的に発言できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 受講者によるレポート・討論 1
- 第 3 回 項目 受講者によるレポート・討論 2
- 第 4 回 項目 受講者によるレポート・討論 3
- 第 5 回 項目 受講者によるレポート・討論 4
- 第 6 回 項目 受講者によるレポート・討論 5
- 第 7 回 項目 受講者によるレポート・討論 6
- 第 8 回 項目 中間まとめ
- 第 9 回 項目 受講者によるレポート・討論 7
- 第 10 回 項目 受講者によるレポート・討論 8
- 第 11 回 項目 受講者によるレポート・討論 9
- 第 12 回 項目 受講者によるレポート・討論 1 0
- 第 13 回 項目 受講者によるレポート・討論 1 1
- 第 14 回 項目 受講者によるレポート・討論 1 2
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法 (総合) レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。欠席が3分の1を超えた場合には単位認定を行わない。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 3 F 電話：0 8 3 - 9 3 3 - 5 4 5 2 メール：ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	教育制度特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	佐々木司				

●授業の概要 教育制度について、毎回指定文献（和文・英文）をすべての参加者が読んできて議論する。主にアメリカと日本の学校を取り扱う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 日本の学校の特徴1
- 第3回 項目 日本の学校の特徴2
- 第4回 項目 日本の組織の特徴1
- 第5回 項目 日本の組織の特徴2
- 第6回 項目 義務教育制度1
- 第7回 項目 義務教育制度2
- 第8回 項目 学校選択制度1
- 第9回 項目 学校選択制度2
- 第10回 項目 学校選択制度3
- 第11回 項目 学校評価制度1
- 第12回 項目 学校評価制度2
- 第13回 項目 まとめ1
- 第14回 項目 まとめ2
- 第15回 項目 まとめ3

●メッセージ 授業の詳細については、第1回目の授業（オリエンテーション）で詳しく伝える。相当量の予習を前提としている。

開設科目	教育制度特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	佐々木司				

●授業の概要 教育制度について、各自調査研究を行い発表する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション、テーマの検討
- 第2回 項目 テーマの決定、調査研究の方法 検討
- 第3回 項目 調査方法の決定・スケジュールリング
- 第4回 項目 報告と討議
- 第5回 項目 報告と討議
- 第6回 項目 報告と討議
- 第7回 項目 中間まとめ
- 第8回 項目 報告と討議
- 第9回 項目 報告と討議
- 第10回 項目 報告と討議
- 第11回 項目 プレゼンテーション準備
- 第12回 項目 プレゼンテーション準備
- 第13回 項目 プレゼンテーション準備
- 第14回 項目 発表
- 第15回 項目 反省

●メッセージ 授業の詳細については、第1回目の授業（オリエンテーション）で詳しく伝える。調査研究・発表というひとつのプロジェクトを遂行する意志がある者を受講者として想定している。

開設科目	教育社会学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	田中理絵				

●授業の概要 現実の教育現象および教育問題に関して、受講者の興味関心に従ってテーマを設定し、文献講読を行う。／検索キーワード 教育問題

●授業の一般目標 教育現象に関する社会学的研究方法の基礎を習得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：学術用語、先行研究へ精通 思考・判断の観点：正しい論理性を習得 関心・意欲の観点：熱意を持って参加してほしい 態度の観点：日頃から関連事象に関する情報についてアンテナを張り巡らしてほしい 技能・表現の観点：正確な読解に基づく確かなプレゼンテーションを展開できる

●授業の計画（全体） 教育事象に関する書籍・論文を受講者全員で読解していく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員紹介、講義内容の説明、分担当決めなど

第2回 項目 演習（1）

第3回 項目 演習（2）

第4回 項目 演習（3）

第5回 項目 演習（4）

第6回 項目 演習（5）

第7回 項目 演習（6）

第8回 項目 演習（7）

第9回 項目 演習（8）

第10回 項目 演習（9）

第11回 項目 演習（10）

第12回 項目 演習（11）

第13回 項目 演習（12）

第14回 項目 演習（13）

第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合）(1) 演習中の発表、質疑応答の様子と(2) 課題を総合的に評価する。

●教科書・参考書 教科書：各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。／参考書：各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。

●メッセージ 大学院の授業ですので、テーマに関わる文献を自主的に講読し、独自に調査して発表する意欲が欲しい。

●連絡先・オフィスアワー ta-na@yamaguchi-u.ac.jp, phone & fax: 933-5442, 研究室：教育学部3階教育社会学研究室, オフィスアワー：水曜の10:30-12:30

開設科目	教育社会学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	田中理絵				

- 授業の概要 現実の教育現象および教育問題に関して、受講者の興味関心に従ってテーマを設定し、文献講読を行う。／検索キーワード 教育問題
- メッセージ 大学院の授業ですので、テーマに関わる文献を自主的に講読し、独自に調査して発表する意欲が欲しい。

開設科目	社会教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	田代直人				

●授業の概要 生涯学習の観点から、社会教育の各分野等の課題を中心に説明し、問題提起をする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 生涯学習の提唱と 発展をめぐる課題
- 第3回 項目 生涯学習推進の背景をめぐる課題
- 第4回 項目 生涯学習の概念をめぐる課題
- 第5回 項目 社会教育の概念をめぐる課題
- 第6回 項目 少年教育の課題
- 第7回 項目 青年教育の課題
- 第8回 項目 成人教育の課題
- 第9回 項目 高齢者教育の課題
- 第10回 項目 職業能力開発の課題
- 第11回 項目 社会体育の課題
- 第12回 項目 社会教育施設の課題
- 第13回 項目 社会教育計画の課題
- 第14回 項目 社会教育行政の課題
- 第15回 項目 まとめ

●教科書・参考書 教科書：社会教育の理論と実践, 田代直人編著, 樹村房, 1994年

開設科目	社会教育特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	田代直人				

●授業の概要 生涯学習の観点から、社会教育の今日的な重要課題に関してテーマを設定し、検討する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 テーマの設定（1）
- 第2回 項目 テーマの設定（2）
- 第3回 項目 レポートと検討（1）
- 第4回 項目 レポートと検討（2）
- 第5回 項目 レポートと検討（3）
- 第6回 項目 レポートと検討（4）
- 第7回 項目 レポートと検討（5）
- 第8回 項目 レポートと検討（6）
- 第9回 項目 レポートと検討（6）
- 第10回 項目 レポートと検討（7）
- 第11回 項目 レポートと検討（8）
- 第12回 項目 レポートと検討（9）
- 第13回 項目 レポートと検討（10）
- 第14回 項目 まとめ（1）
- 第15回 項目 まとめ（2）

開設科目	国際理解教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	石井由理				

●授業の概要 国際理解教育の用語、歴史、理念、含まれる事項、実践事例等について講義する。文献やビデオ、エクササイズを用いて受講者が批判的思考ができるように支援する。／検索キーワード 国際理解教育、ユネスコ、異文化理解

●授業の一般目標 国際理解教育の理念や誕生の背景、現状について知る。メディアが伝える他文化に関する情報に対して、批判的な視点をもって判断をできる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：国際理解教育についての知識を広げる。国際理解教育の複雑さについて理解する。地球システムの中にいる自分を認識する。思考・判断の観点：国際理解教育について自分の意見をもつことができる。批判的思考ができる。関心・意欲の観点：国際理解教育の視点をもって自分の生活スタイルに関心をもってみつめなおす。授業で紹介された事例以外にも自分で関心のある分野を発展的に研究する。態度の観点：ユネスコの提唱する「平和の文化」に参加しようとする態度をもつ。技能・表現の観点：討議に参加し、自分の意見を論理的に述べるができる。自分の関心のあるテーマを見つけ、調査し、レポートにまとめることができる。

●授業の計画（全体） 国際理解教育とは、定まった定義があるのではなく、時代や場所によって様々な変遷をとげるものだということを、文献や映像を通して学ぶ。また、自分もその変遷の中にいる参加者だという自己認識を、討議やエクササイズを通して高める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 国際理解教育とは何か 内容 授業説明国際理解教育に関連のある概念
- 第2回 項目 国際理解教育という概念の形成 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第3回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第4回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第5回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1960年代の社会背景
- 第6回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1970年代の時代背景と1974年国際教育勧告
- 第7回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1974年勧告後の各国の実践努力
- 第8回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1980年代ブルントラント委員会
- 第9回 項目 1990年代から現在 内容 1990年代の社会背景
- 第10回 項目 1990年代から現在 内容 コソボの学校
- 第11回 項目 1990年代の教育政策 内容 ノルウェー、イギリス、日本の例
- 第12回 項目 マスメディアと国際理解教育 内容 ルワンダでの虐殺
- 第13回 項目 マスメディアと国際理解教育 内容 日本の事例映画の例
- 第14回 項目 マスディアと国際理解教育 内容 映画の例
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 中間および期末のレポートによる

●教科書・参考書 教科書：プリント等を使用／参考書：異文化コミュニケーション教育、青木順子、溪水社、1999年；国際理解教育、永井滋郎、第一学習社、1989年；イギリスのグローバル教育、木村一子、勁草書房、2001年；南北問題と開発教育、田中治彦、亜紀書房、1994年

●連絡先・オフィスアワー 教育学部2階200-（1）室 オフィスアワーは初回授業時に伝達

開設科目	国際理解教育特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	石井由理				

●授業の概要 前期で学んだ国際理解教育の基本的な知識を、いくつかの事例についての学習を通してさらに深めるべく受講者の学習を支援する。／検索キーワード 国際理解教育

●授業の一般目標 国際理解教育の理念や実践についての知識を深め、自分自身の意見を持つことができる。国際理解教育に含まれる地球的視野とはどのようなことかについて、その概念を理解できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：国際理解教育とは何かを理解できる 国際理解教育の地球的視野を学ぶための特定の事例についての知識を広げる。思考・判断の観点：国際理解教育とよばれる分野の複雑さの背景を自分の意見として述べられる。批判的な思考ができる。関心・意欲の観点：自分の知らなかった事柄について、関心をもち、それに対する自分の意見を述べるができる。態度の観点：自分を他者との相対関係の中で見ようとする態度を持つ。技能・表現の観点：自分の意見を論理的に記述することができる。

●授業の計画（全体） 文献を批判的に読み、ビデオなどを通してさらに事例を理解することによって、国際理解教育の考え方に関する理解を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 グローバル化について
- 第3回 項目 グローバル化について
- 第4回 項目 グローバル化について
- 第5回 項目 グローバル化について
- 第6回 項目 オーストラリアの事例
- 第7回 項目 オーストラリアの事例
- 第8回 項目 オーストラリアの事例
- 第9回 項目 オーストラリアの事例
- 第10回 項目 オーストラリアの事例
- 第11回 項目 オーストラリアの事例
- 第12回 項目 多様性と普遍性
- 第13回 項目 多様性と普遍性
- 第14回 項目 多様性と普遍性
- 第15回 項目 多様性と普遍性

●成績評価方法（総合） 学期末のレポートによる

●教科書・参考書 教科書：初回授業に指示

●連絡先・オフィスアワー 教育学部2回200－(1) オフィスアワーは初回授業に伝達

開設科目	障害児教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	松田信夫				

●授業の概要 特殊教育諸学校（養護学校）並びに小学校・中学校の特殊学級に在籍する障害児への教育の意義、教育史、制度、教育課程等について、その今日的課題と今後の展望を含めつつ講義する。学校教育現場等での具体的な指導事例や取り組みの内容について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の高度な融合をはかる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 障害児教育の歴史的経緯（古代～中世）
- 第 2 回 項目 障害児教育の歴史的経緯（近代～現代）
- 第 3 回 項目 J.Piajet の発達理論に基づく障害児の成長・発達
- 第 4 回 項目 成長・発達と環境との交互作用
- 第 5 回 項目 児童思想の歴史と人間観
- 第 6 回 項目 教育の原理としての「個に応じた指導」
- 第 7 回 項目 教師と社会～アンケート結果の分析～
- 第 8 回 項目 教師の資質
- 第 9 回 項目 児童の一生を見通した指導観の確立
- 第 10 回 項目 「生活単元学習」の理念と教育実践
- 第 11 回 項目 「総合的な学習の時間」の理念と教育実践
- 第 12 回 項目 「交流学習」の理念と教育実践
- 第 13 回 項目 学校教育終了後の人生を見通した指導
- 第 14 回 項目 障害児教育界の先人の実践～近藤益雄～
- 第 15 回 項目 （予備）

開設科目	障害児教育特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	松田信夫				

●授業の概要 受講者がこれまで主体的に関心をもち、あるいは学校教育現場等で取り組み続けてきた内容に関する専門的文献（例「特殊教育学研究」「発達障害研究」「教育心理学研究」等）をもとに、その内容を詳細に発表し、全員で討論する。この学習活動を通し、障害児への教育的指導の具体について演習する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 自閉性障害を伴う子どもの相互作用成立要因に関する分析的研究（発表例）
- 第2回 項目 注意欠陥・多動性障害及びその疑いのある児童生徒への教育的対応（発表例）
- 第3回 項目 自閉症児におけるまなざしからの心の読みとり（発表例）
- 第4回 項目 注意欠陥・多動性障害及びその疑いのある児童生徒に関する調査
- 第5回 項目 自閉症児における共感獲得表現助詞「ね」の使用の欠如：事例研究（発表例）
- 第6回 項目 多動性障害と診断された小学校1年生男児の入院治療（発表例）
- 第7回 項目 言語・コミュニケーションの発達と心の理解（発表例）
- 第8回 項目 注意欠陥・多動性障害への教育的アプローチ（発表例）
- 第9回 項目 発達障害児のコミュニケーション指導における情動的交流遊びの役割（発表例）
- 第10回 項目 注意欠陥・多動性障害への教育的アプローチ（発表例）
- 第11回 項目 自閉症幼児における鏡像認知（発表例）
- 第12回 項目 重症児施設訪問教育における集団指導の効果（発表例）
- 第13回 項目 ある重度精神遅滞を伴う自閉症者の就労後の発達の変容（発表例）
- 第14回 項目 重症心身障害者の期待に「ゆらし」刺激が及ぼす影響（発表例）
- 第15回 項目（予備）

開設科目	障害児指導法特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	松田信夫				

●授業の概要 養護学校、特殊学級、通常学校（学級）における指導の実際について、実践事例をもとに検討し、個に応じた指導の望ましいあり方について、その今日的課題と今後の展望を含めつつ講義する。なお、指導事例や取り組みの内容については視聴覚機器等で具体的に紹介しつつ、理論と実践との高度な融合をはかる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（1）～言語指導法の変遷～
- 第2回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（2）～言語の特質～
- 第3回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（3）～文脈と理解～
- 第4回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（4）～文脈の習得と言語の習得～
- 第5回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（5）～一般幼児の言語発達のプロセス～
- 第6回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（6）～障害児学級における指導（1）～
- 第7回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（7）～障害児学級における指導（2）～
- 第8回 項目 個別の指導計画（1）～歴史的経緯～
- 第9回 項目 個別の指導計画（2）～事例の分析～
- 第10回 項目 総合的な学習の時間（1）～歴史的経緯～
- 第11回 項目 総合的な学習の時間（2）～事例の分析（一般学級）～
- 第12回 項目 総合的な学習の時間（3）～事例の分析（障害児学級）～
- 第13回 項目 学習障害児等への指導（1）～学習障害児等への指導の必要性～
- 第14回 項目 学習障害児等への指導（2）～事例の分析～
- 第15回 項目 （予備）

開設科目	障害児職業指導特論	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	某				

●授業の概要 障害児の進路選択や職業指導についての基本的考え方について概説し、具体的な課題を取り上げ考察する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 障害児の進路をめぐる課題
- 第 2 回 項目 特別支援教育 1
- 第 3 回 項目 特別支援教育 2
- 第 4 回 項目 地域での障害者 支援 1
- 第 5 回 項目 地域での障害者 支援 2
- 第 6 回 項目 学校教育における職業指導 1
- 第 7 回 項目 学校教育における職業指導 (2)
- 第 8 回 項目 職業リハビリテーション 1
- 第 9 回 項目 職業リハビリテーション 2
- 第 10 回 項目 障害者雇用に関わる諸施策
- 第 11 回 項目 事業所等における課題
- 第 12 回 項目 地域福祉に関わる諸施策
- 第 13 回 項目 障害者の自立 1
- 第 14 回 項目 障害者の自立 2
- 第 15 回 項目 障害児者の職業指導の課題

開設科目	障害児心理学特論I	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	某				

●授業の概要 障害児の心理について、発達心理学的観点から概論し、発達を促す様々な指導方法について考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 障害児の発達
- 第2回 項目 発達における障害の影響
- 第3回 項目 認知発達指導法(1)
- 第4回 項目 認知発達指導法(2)
- 第5回 項目 認知発達指導法(3)
- 第6回 項目 応用行動分析(1)
- 第7回 項目 応用行動分析(2)
- 第8回 項目 応用行動分析(3)
- 第9回 項目 TEACCHプログラム(1)
- 第10回 項目 TEACCHプログラム(2)
- 第11回 項目 動作法(1)
- 第12回 項目 動作法(2)
- 第13回 項目 動作法(3)
- 第14回 項目 インリアルアプローチ、受容交流法等
- 第15回 項目 障害児の発達指導をめぐる課題

開設科目	障害児心理学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	某				

●授業の概要 障害児心理学特論 I を踏まえて、障害児の発達指導に関わる文献を講読する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (1)
- 第 2 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (2)
- 第 3 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (3)
- 第 4 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (4)
- 第 5 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (5)
- 第 6 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (6)
- 第 7 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (7)
- 第 8 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (8)
- 第 9 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (9)
- 第 10 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (10)
- 第 11 回 項目 障害児の発達指導に関する事例 検討 (1)
- 第 12 回 項目 障害児の発達指導に関する事例 検討 (2)
- 第 13 回 項目 障害児の発達指導に関する事例 検討 (3)
- 第 14 回 項目 障害児の発達指導に関する事例 検討 (4)
- 第 15 回 項目 障害児の発達指導に関する事例 検討 (5)

開設科目	障害児心理学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	障害児臨床心理学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	吉田一成				

開設科目	幼児教育方法特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	桑原昭徳				

- 授業の概要 近代以降現代に至るまでの我が国の幼児教育の歴史と方法を概観し、倉橋惣三の業績を中心に子どもの接し方や環境構成、保育の形態等の幼児の教育方法を論じる

開設科目	幼児教育方法特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	桑原昭徳				

- 授業の概要 幼児との接し方、幼児の自主性と指導のあるべき姿、指導の原理と原則、幼児教育と小学校の連携、幼児教育と生活科の関連等の具体的な問題について演習する。

開設科目	幼児教育思想特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	荘司泰弘				

●授業の概要 幼児教育学の思想家（ルソー、ペスタロッチー、フレーベル、モンテッソーリ、シュタイナー）を紹介する／検索キーワード 幼児教育 思想史

●授業の一般目標 児童を指導することを基準にした教育学と、幼児を発見学習者としてとらえ、援助するという方法を採用した幼児教育学の違いを理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 幼児教育の各思想家の主旨を説明できる。 思考・判断の観点：1. 援助を基準に思想を分析できる。 関心・意欲の観点：1. 児童と幼児の質的差異をふまえ、問題意識を高めることができる。 態度の観点：1. わからないことは積極的に質問できる。 技能・表現の観点：1. 考察した結果を文章や口答で適切に表現できる。

●授業の計画（全体） 授業は、基本的に各幼児教育思想家の思想と時代背景の解説という形式で進行する。教育学から幼児教育が分かれた理由を考察し、分析するために、毎回授業中に質問し、口答で自分の理解度を示してもらおう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 ルソーの思想と時代背景 内容 ルソーが『エミール』で表明した自然による教育シュトルム・ウント・ドランク主義を解説し、彼の性善説の提唱が教育学との岐路となったことを説明する。

第2回 項目 ルソーの幼児教育思想の影響 内容 ルソーが思想の基礎とした性善説と自然哲学観が子どもの人権に光を投げかけ、人間教育の原点として、ペスタロッチー、フレーベルへと受け継がれたことを解説する。

第3回 項目 ペスタロッチーの思想と時代背景 内容 ペスタロッチーが『隠者の夕暮れ』で表明した人間性を踏みにじられている子ども達への同情と彼の教育実践とクラシーク主義を解説し、彼の提唱した居間の教育を分析する。

第4回 項目 ペスタロッチーの幼児教育思想の影響 内容 ペスタロッチーの小学校教育に限界を感じたフレーベルが児童とは質的に異なる幼児の教育に向かうために彼と袂を分かった経緯を解説し、人間教育への展開を分析する。

第5回 項目 フレーベルの思想と時代背景 内容 フレーベルの創始したキンダーガルテン（子どもの園）の思想とロマン主義を解説し、幼児教育のルーツとなった『人間教育』と『幼稚園教育学』に記された発想を分析する。

第6回 項目 子どもの園と教育遊具 内容 フレーベルの「子どもの園」の内容と彼の教育遊具を解説し、フレーベルの情操保育と創造性の関係を分析する。

第7回 項目 幼稚園教育学の伝搬と誤謬 内容 ペスタロッチーより受け継がれた人間教育の発想が、宗教改革によるプロテスタント思想と結びつき、キリスト教保育という分野に展開したことを解説する。

第8回 項目 フレーベルの幼児教育思想の影響 内容 幼児教育施設としての「子どもの園」が世界中に展開する経緯を解説し、ルソーから受け継がれてきた自然哲学観がモンテッソーリによって自然科学観に置き代わっていく経緯を分析する。

第9回 項目 モンテッソーリの思想と時代背景 内容 「準備された環境における自由の保障」といわれる彼女のメソッドを解説し、フレーベルの援助思想を科学的に展開した経緯を解説し、フレーベルの人間による援助と彼女の環境による援助の差異を分析する。

第10回 項目 子どもの家と教具 内容 フレーベルの教育遊具とモンテッソーリ教具、フレーベルの「子どもの園」とモンテッソーリの「子どもの家」を比較し、モンテッソーリの思想を解説する。

- 第11回 項目 モンテッソーリの幼児教育思想の影響 内容 ヘッドスタート やセサミストリートなどの早期教育の基準としてモンテッソーリメソッドが用いられたことを解説し、知的保育と自由の関係を分析する。
- 第12回 項目 シュタイナーの思想と時代背景 内容 フレーベルの後継者としてヴァルドルフ学校を創設した経緯と思想を解説し、フレーベルのロマン主義が人智学を基に組み替えられた感覚教育を分析する。
- 第13回 項目 シュタイナーの幼児教育施設 内容 モンテッソーリの知的早期教育の対角線上に、シュタイナーの情操的早期教育が位置している現状を解説し、早教育の問題を分析する。
- 第14回 項目 まとめ 内容 幼児教育思想家の思想を連続して確認し、現在の幼児教育への軌跡を分析する。
- 第15回 項目 まとめ 内容 現在の幼児教育施設と制度を解説し、幼児教育思想家の発想の再確認と展開の可能性を分析する。

●成績評価方法(総合) 1. 授業の開始時に毎回、出席状況表を提示し、記入して提出する。2. 授業時に毎回質問し、理解度を評価する。

●教科書・参考書 教科書：学生からの質問に応じ、適宜参考文献を指示する。／参考書：幼児教育思想家の代表的著書を紹介し、読み方の視点を指示する。 <http://froebel.child.edu.yamaguchi-u.ac.jp>

●連絡先・オフィスアワー メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	幼児臨床心理特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	白石敏行				

●授業の概要 幼児期におけるカウンセリングマインドの必要性およびその意義について講義する。／検索キーワード 幼児, 臨床心理学, カウンセリング, カウンセリングマインド

●授業の一般目標 幼児教育(学校教育)におけるカウンセリングマインドの必要性について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点: 幼児期の保育臨床に関する諸課題を説明することができる。 関心・意欲の観点: 他者との討議に積極的に参加することができる。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業記録 レジюме

第2回 項目 保育における心理臨床の今日的課題(1) 授業記録 レジюме

第3回 項目 保育における心理臨床の今日的課題(2) 授業記録 レジюме

第4回 項目 カウンセリングの理論と方法(1) 授業記録 レジюме

第5回 項目 カウンセリングの理論と方法(2) 授業記録 レジюме

第6回 項目 カウンセリングの理論と方法(3) 授業記録 レジюме

第7回 項目 保育におけるカウンセリングの実際(1) 授業記録 レジюме

第8回 項目 保育におけるカウンセリングの実際(2) 授業記録 レジюме

第9回 項目 保育におけるカウンセリングの実際(3) 授業記録 レジюме

第10回 項目 保護者に対するカウンセリング的アプローチ(1) 授業記録 レジюме

第11回 項目 保護者に対するカウンセリング的アプローチ(2) 授業記録 レジюме

第12回 項目 保育とカウンセリングマインド(1) 授業記録 レジюме

第13回 項目 保育とカウンセリングマインド(2) 授業記録 レジюме

第14回 項目 保育とカウンセリングマインド(3) 授業記録 レジюме

第15回 項目 まとめ 授業記録 レジюме

●成績評価方法(総合) 出席、授業への参加、および学期末のレポートをもとに総合的に評価する。

●メッセージ 幼児期の子どもに関心のある方の受講を望みます。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先: 933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 随時

開設科目	幼児臨床心理特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	白石敏行				

●授業の概要 乳幼児期の発達等に関する論文を購読し、討議することを通して、乳幼児の実態や研究方法等について検討する。／検索キーワード 幼児，臨床心理学，演習

●授業の一般目標 乳幼児期の実態および研究方法について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：乳幼児期に実態について説明することができる。 関心・意欲の観点：他者との討議に積極的に参加することができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 授業記録 レジューメ

第2回 項目 文献購読（1）

第3回 項目 文献購読（2）

第4回 項目 文献購読（3）

第5回 項目 文献購読（4）

第6回 項目 文献購読（5）

第7回 項目 実験・調査の方法（1）

第8回 項目 実験・調査の方法（2）

第9回 項目 実験・調査の計画

第10回 項目 実験・調査の実施（1）

第11回 項目 実験・調査の実施（2）

第12回 項目 実験・調査の分析（1）

第13回 項目 実験・調査の分析（2）

第14回 項目 実験・調査の分析（3）

第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合）出席、授業でも質疑応答、論文のプレゼンテーション等をもとに総合的に評価する。

●メッセージ 幼児期の子どもを理解したい方の受講を望みます。前期に「幼児臨床心理特論」を履修し、単位を取得していること。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先：933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	保育内容特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	荘司泰弘				
<p>●授業の概要 環境による教育という幼児教育の発想を講義し、実際に保育参加することで確認する。／検索キーワード 保育内容 保育参加</p> <p>●授業の一般目標 1. 援助の実際を体験し、幼児教育を理解する。 2. 発見学習環境の調整に興味・関心を持つ。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 環境や援助活動を分析する視点を深める。 思考・判断の観点：1. 子どもを中心に考察し、自分の見解を論理的に述べる力を身につける。 関心・意欲の観点：1. 発見学習環境への関心を深め、援助の発想を身につける。 態度の観点：1. 積極的に講義や保育参加に取り組むことができる。 技能・表現の観点：1. 考察した結果を文章や口答で適切に表現できる。</p> <p>●授業の計画（全体） 授業は講義の後、3回保育参加をする形式で進行する。各論として、環境による教育を確認し、発見学習活動の援助を確認し、保育者の資質を確認する。まとめとして、保育環境の調整の視点を確認する。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 環境による教育 内容 各論として、幼児教育を概説し、幼児教育は、指導（命令・干渉・制限）しない教育であるから、保育者は裏方として後方に引き、環境が前面に出て、幼児に働きかけるように配慮されていることを解説する。また、保育参加の方法を支持する。</p> <p>第2回 項目 保育参加(1) 内容 朝から昼まで保育参加し、子どもと一緒に遊びながら、環境構成をチェックする。</p> <p>第3回 項目 保育参加(2) 内容 20歳児として保育参加し、子どもとの関わりの中で発見学習環境をチェックする。</p> <p>第4回 項目 保育参加(3) 内容 保育の流れを理解して、異年齢児との交流を図り、異年齢児の交流環境のチェックをする。</p> <p>第5回 項目 発見学習活動の援助 内容 各論として、発見学習を概説し、学習環境は幼児の内面の創造的活動衝動を引き出すことを主にしなくてはならないというキンダーガルテン（子どもの園）の創始者、フレーベルの発想を解説する。</p> <p>第6回 項目 保育参加(4) 内容 子どもの内面に内在する創造活動衝動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの創造活動をチェックする。</p> <p>第7回 項目 保育参加(5) 内容 子どもの造形衝動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの造形活動をチェックする。</p> <p>第8回 項目 保育参加(6) 内容 子どもの表現衝動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの表現活動をチェックする。</p> <p>第9回 項目 保育者の資質 内容 各論として、教師と保育者の違いを概説し、「遊ぶ大人」として子どもと一緒に試行錯誤しながら活動する体験の積み重ねの意義を解説する。</p> <p>第10回 項目 保育参加(7) 内容 子どもが、必要とする時に必ず傍にいる保育者の活動に焦点を当て、保育参加しながら、保育者が保育の流れをどのようにしているかをチェックする。</p> <p>第11回 項目 保育参加(8) 内容 子どもが、良い、悪い、と判断する活動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの価値基準のゆらぎをチェックする。</p> <p>第12回 項目 保育参加(9) 内容 子どもが、試行錯誤しながら体験を積み重ねている活動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもが示す創造的退行現象をチェックする。</p> <p>第13回 項目 保育環境の調整 内容 まとめとして、子どもが自由に自発的に自己の内面の創造性を表現する活動として遊びを理解し、楽しさにこだわって遊ぶことが保育環境の調整の基準になることを解説する。</p>					

第14回 項目まとめ 内容 総まとめとして、フレーベルの教育遊具とモンテッソーリ教具を比較し、保育教材の視点を分析する。

第15回 項目まとめ 内容 総まとめとして、現代の保育材の状況を概説し、保育材選定の基準を確認する。

●成績評価方法(総合) 1. 授業の開始時に毎回、出席状況表を提示し、記録して提出する。2. 講義や保育参加の中で、適宜質問し、理解度について評価する。

●教科書・参考書 教科書：学生からの質問に応じ、適宜指示する。／参考書：学生からの質問に応じ、適宜読み方の視点を指示する。 <http://froebel.child.edu.yamaguchi-u.ac.jp>

●メッセージ 保育参加をお願いする園にあわせて時間帯を変更することがあります。

●連絡先・オフィスアワー メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	保育内容特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	荘司泰弘・桑原昭徳・白石敏行				

●授業の概要 3人の教官によるオムニバス形式で保育内容について検討し、保育を論じる／検索キーワード
保育内容 特論演習

●授業の一般目標 幼児教育、幼児心理の観点で保育内容を検討できる

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 幼児教育・幼児心理・保育内容の基礎知識を応用することができる
思考・判断の観点：1. 幼児教育・幼児心理・保育内容の3観点で総合的に考察することができる

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 言葉を中心とした保育内容 その1

第2回 項目 言葉を中心とした保育内容 その2

第3回 項目 言葉を中心とした保育内容 その3

第4回 項目 言葉を中心とした保育内容 その4

第5回 項目 フレーベル、子どもの園の紹介 内容 幼稚園の創始者フレーベルの思想と生涯を解説し、幼稚園の保育目的を確認する。

第6回 項目 フレーベル教育遊具の紹介と比較 内容 第1から第10までのフレーベル遊具を紹介し、作業具の概説をし、遊具と作業具でフレーベル教育遊具になることを確認する。

第7回 項目 モンテッソーリ、子どもの家の紹介 内容 子どもの家の創始者モンテッソーリの思想と生涯を解説し、子どもの家の保育目的を確認する。

第8回 項目 モンテッソーリ教具の紹介と比較 内容 モンテッソーリ教具を紹介し、早期教育や障害児教育への応用を確認する。

第9回 項目 幼児期の人間関係の発達と意義（1） 内容 幼児期の友だち関係の発達過程

第10回 項目 幼児期の人間関係の発達と意義（2） 内容 幼児期の友だち関係とそれ以降の対人関係の影響

第11回 項目 幼児期の人間関係の発達と意義（3） 内容 友だち関係に問題をかかえた幼児に対する支援（1）

第12回 項目 幼児期の人間関係の発達と意義（4） 内容 友だち関係に問題をかかえた幼児に対する支援（2）

第13回 項目 まとめ（1）

第14回 項目 まとめ（2）

第15回 項目 まとめ（3）

●成績評価方法（総合） 毎回授業の最初に出席調査票を配布し、出席状況を確認する。幼児教育・保育内容・幼児心理の各分野終了時にレポートを課す。

●教科書・参考書 教科書：各分野において適宜指示する。／参考書：各分野において適宜指示する。

●連絡先・オフィスアワー 荘司泰弘：083-933-5443 E-mail：froebe1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：各担当者に問い合わせること

開設科目	学校教育実践研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	吉田一成他				

- 授業の概要 学校教育に関する諸問題を教育学、心理学、障害児教育、幼児教育、情報教育、国際理解教育等の観点から実践的に考察する。／検索キーワード 学校、教育、実践
- 授業の一般目標 (1) 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解する。(2) 学校教育の諸問題について関心をもち、主体的に考えることができる。(3) 学校教育の諸問題を実践的な観点から研究する方法を学び、理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解できる。
 思考・判断の観点： 1. 学校教育の諸問題を実践的な観点から思考し、判断することができる。 関心・意欲の観点： 1. 教育についての実践的な関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点： 1. 教育についての実践的な態度を養い、高めることができる。
- 成績評価方法 (総合) 各担当教員が評価したものを総合して平均値を出す。
- 教科書・参考書 教科書： 使用しない。各授業担当教員が準備する。／参考書： 使用しない。
- メッセージ 授業には欠席しないようにして下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 各授業担当の教員
- 備考 集中授業

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	石井由理				

●授業の概要 国際理解教育とは何かを、ユネスコ、日本のユネスコ協同学校の実践、学校教育政策との関連から学びます。また、関連する分野（グローバル教育、開発教育、ワールドスタディーズ、平和教育、人権教育）などとの関係も学びます。

●授業の一般目標 国際理解教育は大変広い範囲の事柄を含むので、その中から学校教育に関連のあるテーマを選んで、そのテーマに関する文献を読むことを通して理解を深めます。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：歴史、用語、社会背景など、国際理解教育に関する基本的な事柄の知識を身につけ、文献の内容を理解することができる。思考・判断の観点：文献の内容を批判的に理解し、自分の立場の判断をできる。技能・表現の観点：自分の考えをわかりやすく記述および論述によって表現することができる。

●授業の計画（全体） 授業の前半は、国際理解教育に関する基本的な文献を読むことを通して、受講者にとって関心のあるテーマを見つける。後半は、そのテーマに即した資料を、受講者が中心となって読み進む。読んだ内容について、レジュメを用いてレポートする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション、文献紹介 内容 授業の方向性について説明

第2回 項目 文献講読

第3回 項目 文献講読

第4回 項目 文献講読

第5回 項目 文献講読

第6回 項目 文献講読

第7回 項目 文献講読

第8回 項目 文献講読

第9回 項目 文献講読

第10回 項目 文献講読

第11回 項目 文献講読

第12回 項目 文献講読

第13回 項目 文献講読

第14回 項目 文献講読

第15回 項目 文献講読

●成績評価方法（総合） 授業中に課したレジュメとレポートによって評価する。

●教科書・参考書 教科書：国際理解教育の理論的実践的指針の構築に関する総合的研究, 中西晃他, 非売品, 1998年

●メッセージ 問題意識をもって参加してください。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	桑原昭徳				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	佐々木司				

- 授業の概要 修士論文を指導する大学院生に対して、研究テーマの設定、研究方法の選択、関係先行研究のフォロー方法、論文執筆方法などを教える。
- メッセージ 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	荘司泰弘				

●授業の概要 実際には、5月にテーマを決定する。以後、各自のテーマにそって文献を入手し、ノートパソコンにデータを入力する。引用参考文献データを各自の保育体験や保育記録と結びつけながら、考察を入力する。毎週、入力状況をチェックし、適宜指示を与える。／検索キーワード 大学院 修士論文

●授業の一般目標 1. 各自が設定したテーマに関する不明な概念や発想を解明することができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 引用参考文献データを比較し、自分の体験と結びつけて理解を深める。 思考・判断の観点： 1. 子どもの活動を中心に考察し、論旨を組み立てる力を培う。 関心・意欲の観点： 1. 幼児に関する分野への関心を高め、子どもの立場を配慮した感性を身につける。 態度の観点： 1. わからない用語や概念を積極的に質問し、理解するまで説明を求めることができる。 技能・表現の観点： 1. 考察した結果を論理的に文章に表現できる。

●授業の計画（全体） 授業は入力したデータをチェックし、質疑応答する形式で進行する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 ノートパソコンの調整 内容 各自のノートパソコンをネットで結ぶ。修士論文の様式のフォーマットを入力する。

第2回 項目 インターネット 文献検索の仕方 内容 インターネットで文献を検索したり、各機関の図書館の蔵書検索のし方を確認する。

第3回 項目 研究テーマを決める。 内容 各自のテーマが適切かどうかチェックし、決定する。

第4回 項目 章題と節題を調整する。 内容 各章題と各節題を決め、入力する。

第5回 項目 引用・参考文献 データを入力する。 内容 引用・参考文献を該当する各節に入力し、データ化する方法を指示する。

第6回 項目 引用・参考文献 データを入力する。 内容 引用・参考文献を該当する各節に入力し、データ化する。わからない概念や用語を解説する。

第7回 項目 自分の見解を入力する。 内容 入力した引用・参考文献に該当する各節ごとに自分の考えを入力し、データ化する。各節の小結論を決め、小結論に向けて論旨を整える。

第8回 項目 自分の見解を入力する。 内容 入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第9回 項目 自分の見解を入力する。 内容 入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第10回 項目 自分の見解を入力する。 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第11回 項目 自分の見解を入力する。 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第12回 項目 自分の見解を入力する。 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第13回 項目 自分の見解を入力する。 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第14回 項目 自分の見解を入力する。 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第15回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

- 成績評価方法(総合) 指導教官が口答で質問し、理解度を評価する。
- 教科書・参考書 教科書：各自のテーマにそって数十冊指示する。／参考書：各自のテーマにそってインターネット検索し、数十件指示する。 <http://froebel.child.edu.yamaguchi-u.ac.jp>
- 連絡先・オフィスアワー メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	杉山緑				

●授業の概要 現代教育方法学の諸対象の中から、受講生各自が研究対象を設定し、資料収集・レポート等を行い受講生全員で検討・討議する。

●授業の一般目標 受講生各自が設定したテーマについて資料収集・精読・報告することを通して教育方法学研究の方法論を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 研究内容について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 研究内容を自己の視点によって論理的に整理できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業方法、評価方法等について説明する。

第2回 項目 受講生のこれまでの学習・研究成果の報告（1）

第3回 項目 受講生のこれまでの学習・研究成果の報告（2）

第4回 項目 受講生のこれまでの学習・研究成果の報告（3）

第5回 項目 研究テーマの設定

第6回 項目 受講生による研究成果の報告（1）

第7回 項目 受講生による研究成果の報告（2）

第8回 項目 受講生による研究成果の報告（3）

第9回 項目 受講生による研究成果の報告（4）

第10回 項目 受講生による研究成果の報告（5）

第11回 項目 受講生による研究成果の報告（6）

第12回 項目 受講生による研究成果の報告（7）

第13回 項目 受講生による研究成果の報告（8）

第14回 項目 研究成果のまとめ（1）

第15回 項目 研究成果のまとめ（2）

●成績評価方法（総合） レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。

●メッセージ 授業においては同じ研究者として対応します。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部3F 電話：083-933-5452 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日10:00～12:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	田代直人				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	田中理絵				

- 授業の概要 修士論文作成に向けて基礎的研究土台を固める。そのために、修士1年生では、優れた論文・書籍を読み込み、先行研究の精査、学術用語の習得を目標とする。／検索キーワード 仮説・検証、先行研究、分析力、読解力
- 授業の一般目標 研究土台を固め、修士論文のテーマおよび研究方法を決定。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：学術用語の習得、先行研究の精査・検証。思考・判断の観点：正しい論理性を習得する。関心・意欲の観点：日常生活の中で、研究テーマに係わるあらゆる事象にアンテナを張り巡らす。態度の観点：熱意を持って研究テーマを追究する態度を要する。技能・表現の観点：正しい論文の書き方を1年生の間に習得しておく
- 成績評価方法(総合) 平素の演習態度とプレゼンテーション能力、データ収集能力を総合的に判断する。
- 教科書・参考書 教科書：各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。／参考書：各自のテーマに沿った書籍・論文を適宜紹介します。
- メッセージ 修士の2年間はあっという間に過ぎます。2年生になったら修士論文の作成に没頭しなければなりませんので、1年生の間に、基礎的知識・データ・研究方法を習得しておきましょう。
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日2コマ目。ただし、アポイントを取れば適宜可能です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	白石敏行				

●授業の概要 修士論文作成のための文献講読および研究方法等の検討を行う。／検索キーワード 幼児、保育、発達

●授業の一般目標 自分の興味・関心のある領域について文献を報告するとともに、研究方法等を検討し、修士論文作成に役立てる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：自分の興味・関心ある領域に関する基礎的事項について説明することができる。 関心・意欲の観点：他者の意見にも耳を傾け、自分の意見を述べることができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読（1）

第3回 項目 文献講読（2）

第4回 項目 文献講読（3）

第5回 項目 文献講読（4）

第6回 項目 文献講読（5）

第7回 項目 研究方法の検討（1）

第8回 項目 研究方法の検討（2）

第9回 項目 研究方法の検討（3）

第10回 項目 文献講読（6）

第11回 項目 文献講読（7）

第12回 項目 文献講読（8）

第13回 項目 文献講読（9）

第14回 項目 まとめ（1）

第15回 項目 まとめ（2）

●成績評価方法（総合）出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

●メッセージ 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先：933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	西村正登				

●授業の概要 修士論文の研究テーマを設定し、研究に必要な文献調査を行い、主要な文献を解釈しながら読み進めていく。各自まとめたものを発表しながら討議し、教育哲学研究の方法を学ぶ。／検索キーワード 研究テーマ、文献調査、教育哲学研究

●授業の一般目標 1. 修士論文の研究テーマを決める。 2. 研究に必要な文献調査を行う。 3. 主要な文献を解釈しながらまとめ、研究発表する。 4. 研究を進めながら教育哲学の研究方法を学ぶ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 教育哲学の研究方法が理解できる。 思考・判断の観点： 1. 主要な文献を解釈しながらまとめ、研究発表することができる。 関心・意欲の観点： 1. 研究を進めながら教育学研究への関心や意欲を高めることができる。 態度の観点： 1. 問題意識をもって文献を調査し、研究テーマを設定し、探究していくことができる。 技能・表現の観点： 1. 文献を解釈しながらまとめ、適切な表現を使ってプレゼンテーションすることができる。

●授業の計画(全体) 修士論文の研究テーマを設定し、文献調査しながら研究を進め、まとめたものを発表し、討議しながら授業を進めていく。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究テーマの設定(1)
- 第2回 項目 研究テーマの設定(2)
- 第3回 項目 文献調査(1)
- 第4回 項目 文献調査(2)
- 第5回 項目 研究発表と討議(1)
- 第6回 項目 研究発表と討議(2)
- 第7回 項目 研究発表と討議(3)
- 第8回 項目 研究発表と討議(4)
- 第9回 項目 研究発表と討議(5)
- 第10回 項目 研究発表と討議(6)
- 第11回 項目 研究発表と討議(7)
- 第12回 項目 研究発表と討議(8)
- 第13回 項目 研究発表と討議(9)
- 第14回 項目 研究発表と討議(10)
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法(総合) 研究への意欲と態度、研究発表の内容と表現力、授業への出席状況等を総合的に判断して評価する。

●教科書・参考書 教科書： 使用しない。／参考書： 研究の内容に応じて受講者が準備する。発表者は研究の内容をまとめたプリントを準備する。

●メッセージ 教育や研究に対する問題意識をしっかりとって、研究テーマを設定して下さい。

●連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	白石敏行				

●授業の概要 修士論文作成のための文献講読および研究方法等の検討を行う。／検索キーワード 幼児、保育、発達

●授業の一般目標 自分の興味・関心のある領域について文献を報告するとともに、研究方法等を検討し、修士論文作成に役立てる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：自分の興味・関心ある領域に関する基礎的事項について説明することができる。 関心・意欲の観点：他者の意見にも耳を傾け、自分の意見を述べるができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読（1）

第3回 項目 文献講読（2）

第4回 項目 文献講読（3）

第5回 項目 文献講読（4）

第6回 項目 文献講読（5）

第7回 項目 研究方法の検討（1）

第8回 項目 研究方法の検討（2）

第9回 項目 研究方法の検討（3）

第10回 項目 文献講読（6）

第11回 項目 文献講読（7）

第12回 項目 文献講読（8）

第13回 項目 文献講読（9）

第14回 項目 まとめ（1）

第15回 項目 まとめ（2）

●成績評価方法（総合）出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

●メッセージ 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先：933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	林徳治				

- 授業の概要 プリント教材、OHP、パソコンなどさまざまな教育メディアを活用した教材を開発し評価できる基本的な能力を身につけます。そこでは、各種教育メディアの特性を理解し、他者からの評価による気づきを大切にします。また各自の研究テーマに沿ったトピックについて実際にマイクロプレゼンテーションを実施し、評価します。
- 授業の一般目標 1. 各種教育メディアの特性を理解できる 2. 各種メディアの特性に応じた効果的な教材を開発できる 3. 教材の評価法を知る 4. マイクロプレゼンテーションを体得する
- 連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	福田修				

- 授業の概要 修士論文作成に直結する課題について、教育史の立場から指導を行う。／検索キーワード 修士論文, 教育史
- 授業の一般目標 教育史の研究方法を理解し、専門的な学術論文が作成できる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：教育史の研究方法が説明できる。思考・判断の観点：収集した資料について多面的に検討し、客観的な分析ができる。関心・意欲の観点：教育に関する関心を深め、専門的な課題意識を高めることができる。態度の観点：ひとつの課題について、視野を深めながら長期的に追求することができる。技能・表現の観点：検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。
- 授業の計画（全体）7月までにテーマを設定し、先行研究を整理し仮説を立てて資料の調査に入る。
- 成績評価方法（総合）毎回の発表内容を中心に評価する。
- 教科書・参考書 教科書：なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	吉田一成				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	石井由理				

- 授業の概要 文献講読により国際理解教育と世界人権宣言、ウィーン人権会議の関連についての研究を指導する。／検索キーワード 国際理解教育
- 授業の一般目標 普遍的な人権概念の確立を目指しての世界の努力と成果について調査、理解し、自分の意見を述べる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：人権をめぐる国際的な会議等での議論についての知識を高め、理解を深める。思考・判断の観点：得た知識に基づいて、批判的思考ができる。自分の意見を述べることができる。関心・意欲の観点：さらに出てきた疑問について、意欲をもって調査を進める。技能・表現の観点：自分の意見を論理的な文章で記述できる。論文の形式を使って表現できる。
- 授業の計画（全体）主として文献の講読を通して国際社会における人権の認識と国際理解教育との関連を学ぶ。
- 成績評価方法（総合）レジュメおよび発表による
- 教科書・参考書 参考書：地球社会の人権論, 芹田健太郎, 信山社, 2003年
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部2階200-(1)室 事前のアポイントメントにより随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	桑原昭徳				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	佐々木司				

●メッセージ 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	荘司泰弘				

●授業の概要 実際には、1年前期からの研究作業を継続する。以後、各自のテーマにそって文献を入手し、ノートパソコンにデータを入力する。引用参考文献データを各自の保育体験や保育記録と結びつけながら、考察を入力する。毎週、入力状況をチェックし、適宜指示を与える。／検索キーワード 大学院 修士論文

●授業の一般目標 1. 各自が設定したテーマに関する不明な概念や発想を解明することができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 各自が設定したテーマに対する結論を述べることができる。

思考・判断の観点： 1. 子どもの活動を中心に考察し、論旨を組み立てる力を培う。 関心・意欲の観点： 1. 幼児に関する分野への関心を高め、子どもの立場を配慮した感性を身につける。 態度の観点： 1. わからぬ用語や概念を積極的に質問し、理解するまで説明を求めることができる。 技能・表現の観点： 1. 考察した結果を論理的に文章に表現できる。

●授業の計画（全体） 授業は入力したデータをチェックし、質疑応答する形式で進行する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第2回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第3回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第4回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第5回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第6回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第7回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第8回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第9回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第10回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

- 第11回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第12回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第13回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第14回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第15回 項目 自分の見解を入力する。内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

●成績評価方法 (総合) 指導教官が適宜、口答で質問し、理解度を評価する。

●教科書・参考書 教科書：各自のテーマに沿って、引用・参考文献を数十冊指示する。／参考書：各自のテーマに沿って、インターネット検索し、参考データを数十件指示する。<http://froebel.child.edu.yamaguchi-u.ac.jp>

●連絡先・オフィスアワー メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	杉山緑				

●授業の概要 現代教育方法学の諸対象の中から、受講生各自が研究対象を設定し、資料収集・レポートを行い受講者全員で検討・討議する。

●授業の一般目標 受講生各自が設定したテーマについて資料収集・精読・報告することを通して教育方法学研究の方法論を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 研究内容について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 研究内容を自己の視点によって論理的に整理できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業方法、評価方法等について説明する。

第2回 項目 研究テーマの設定

第3回 項目 研究成果の報告・討議（1）

第4回 項目 研究成果の報告・討議（2）

第5回 項目 研究成果の報告・討議（3）

第6回 項目 研究成果の報告・討議（4）

第7回 項目 研究成果の報告・討議（5）

第8回 項目 中間まとめ

第9回 項目 研究成果の報告・討議（6）

第10回 項目 研究成果の報告・討議（7）

第11回 項目 研究成果の報告・討議（8）

第12回 項目 研究成果の報告・討議（9）

第13回 項目 研究成果の報告・討議（10）

第14回 項目 研究成果のまとめ（1）

第15回 項目 研究成果のまとめ（2）

●成績評価方法（総合） レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。

●メッセージ 授業においては同じ研究者として対応します。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部3F 電話083-933-5452 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	田代直人				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	田中理絵				

- 授業の概要 調査を実施しデータを分析・考察する。その際、学術的知識の援用・獲得が必要となるが、文献の解読等によって修士課程1年次より引き続き行う。
- メッセージ 社会・教育現場へ還元可能なレベルの研究を行ってください。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	白石敏行				

●授業の概要 1年次に引き続き、修士論文作成のための文献講読および研究方法等の検討を行う。／検索キーワード 幼児、保育、発達

●授業の一般目標 自分の興味・関心のある領域について文献を報告するとともに、研究方法等を検討し、修士論文作成に役立てる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：自分の興味・関心ある領域に関する基礎的事項について説明することができる。 関心・意欲の観点：他者の意見にも耳を傾け、自分の意見を述べるができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読（1）

第3回 項目 文献講読（2）

第4回 項目 文献講読（3）

第5回 項目 文献講読（4）

第6回 項目 文献講読（5）

第7回 項目 研究方法の検討（1）

第8回 項目 研究方法の検討（2）

第9回 項目 研究方法の検討（3）

第10回 項目 文献講読（6）

第11回 項目 文献講読（7）

第12回 項目 文献講読（8）

第13回 項目 文献講読（9）

第14回 項目 まとめ（1）

第15回 項目 まとめ（2）

●成績評価方法（総合）出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

●メッセージ 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。1年次の「課題研究」の単位を取得していること。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先：933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	西村正登				

●授業の概要 全体構想に従って、各章、各節ごとに文章化しながら修士論文を作成していく。／検索キーワード 修士論文、論文作成

●授業の一般目標 1. 各章、各節ごとに作成した論文を修正しながら修士論文を仕上げていく。 2. まとめた論文を研究発表し、全員で討議しながら各自の研究を深めていく。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 論文の書き方や作法を理解できる。 思考・判断の観点： 1. 筋道を立てて論理的に考え、判断することができる。 関心・意欲の観点： 1. 論文を書きながら、自分の研究テーマに対する関心や意欲をさらに高めることができる。 態度の観点： 1. 筋道を立てて論理的に論文を書くことができる。 技能・表現の観点： 1. 文章によって論旨を明確に表現することができる。

●授業の計画（全体） 各自が各章、各節ごとにまとめて研究発表し、全員でそれを討議しながら授業を進めていく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 研究テーマの確認と発表者の決定

第 2 回 項目 研究発表と討議（1）

第 3 回 項目 研究発表と討議（2）

第 4 回 項目 研究発表と討議（3）

第 5 回 項目 研究発表と討議（4）

第 6 回 項目 研究発表と討議（5）

第 7 回 項目 研究発表と討議（6）

第 8 回 項目 研究発表と討議（7）

第 9 回 項目 研究発表と討議（8）

第 10 回 項目 研究発表と討議（9）

第 11 回 項目 研究発表と討議（10）

第 12 回 項目 研究発表と討議（11）

第 13 回 項目 研究発表と討議（12）

第 14 回 項目 研究発表と討議（13）

第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 研究への意欲と態度、研究発表の内容と表現力、授業への出席状況等を総合的に判断して評価する。

●教科書・参考書 教科書： 使用しない。／ 参考書： 研究発表の内容に応じて必要な参考書とプリントを発表者が準備する。

●メッセージ 毎時間の積み重ねが修士論文作成につながっていくよう、1時間1時間を大切にしてください。

●連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	林徳治				

- 授業の概要 マルチメディア教材（児童生徒、教師用）の開発および評価 遠隔学習用Web教材の開発および評価
- 授業の一般目標 パソコンを活用したマルチメディア教材を開発し実証できる 遠隔学習用Web教材を開発し実証できる
- 連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	福田修				

- 授業の概要 修士論文作成に直結する課題について教育史の分野から研究指導する。／検索キーワード 修士論文
- 授業の一般目標 教育史の研究方法を理解し，専門的な学術論文が作成できる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：教育史の研究方法が説明できる。 思考・判断の観点：収集した資料について多面的に検討し，客観的な分析ができる。 関心・意欲の観点：教育に関する関心を深め，専門的な課題意識を高めることができる。 態度の観点：ひとつの課題について，視野を深めながら長期的に追究することができる。 技能・表現の観点：検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。
- 授業の計画（全体） 7月までにテーマを設定し，先行研究の整理し仮説を立て資料の調査に入る。
- 成績評価方法（総合） 毎回の発表内容を中心に評価する。
- 教科書・参考書 教科書：なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	吉田一成				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	石井由理				

●授業の概要 前期に講読した文献をもとに、国際理解教育とは何かを文章にまとめます。また、平行して、受講者自身がさらに研究を深めたいことは何かを話し合い、研究課題をより明確にしていきます。

●授業の一般目標 国際理解教育に関する事柄のうち、受講者がもっとも関心のあるテーマを特定する。そのテーマについての調査を文献講読を中心として行う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：自分の関心のあるテーマが国際理解教育の中のどの位置にあるのかを理解し、関連する文献の内容を理解できる。思考・判断の観点：文献の内容について批判的に思考し、自らの立つ視点と照らしてどのような情報なのかを判断することができる。関心・意欲の観点：自らの関心をさらに他の文献、調査方法などを考えて深めることができる。技能・表現の観点：自らの主張を論理立ててわかりやすく記述、論述できる。

●授業の計画（全体） 受講者の関心のあるテーマに関し、より専門性の高い文献の講読を行う。また、テーマによっては文献講読以外の調査方法を計画する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション、文献の選定

第2回 項目 文献講読

第3回 項目 文献講読

第4回 項目 文献講読

第5回 項目 文献講読

第6回 項目 文献講読

第7回 項目 文献講読

第8回 項目 文献講読

第9回 項目 文献講読

第10回 項目 文献講読

第11回 項目 文献講読

第12回 項目 文献講読

第13回 項目 文献講読

第14回 項目 文献講読

第15回 項目 文献講読

●成績評価方法（総合） 授業中に行うレジюмеを用いた演習による。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	桑原昭徳				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	佐々木司				

- 授業の概要 修士論文を指導する大学院生に対して、研究テーマの設定、研究方法の選択、関係先行研究のフォロー方法、論文執筆方法などを教える。
- メッセージ 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	荘司泰弘				

●授業の概要 実際には、前期からの研究作業を継続する。具体的には、各自のテーマにそって文献を入手し、ノートパソコンにデータを入力する。引用参考文献データを各自の保育体験や保育記録と結びつけながら、考察を入力する。毎週、入力状況をチェックし、適宜指示を与える。／検索キーワード 大学院 修士論文

●授業の一般目標 1. 各自が設定したテーマに対する結論を述べることができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 各自が設定したテーマに対する結論を述べることができる。

思考・判断の観点： 1. 子どもの活動を中心に考察し、論旨を組み立てる力を培う。 関心・意欲の観点： 1. 幼児に関する分野への関心を高め、子どもの立場を配慮した感性を身につける。 態度の観点： 1. わからぬ用語や概念を積極的に質問し、理解するまで説明を求めることができる。 技能・表現の観点： 1. 考察した結果を論理的に文章に表現できる。

●授業の計画（全体） 授業は入力したデータをチェックし、質疑応答する形式で進行する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第2回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第3回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第4回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第5回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第6回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第7回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第8回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第9回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第10回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

- 第11回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第12回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第13回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第14回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第15回 項目 自分の見解を入力する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

●教科書・参考書 教科書：各自のテーマに沿って引用・参考文献を数十冊指示する。／参考書：各自のテーマに沿って、インターネットで検索し、参考データを数十件指示する。<http://froebel.child.edu.yamaguchi-u.ac.jp>

●連絡先・オフィスアワー メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	杉山緑				

●授業の概要 前期に引き続き、現代教育方法学の諸対象の中から、受講者各自が設定した研究対象について資料収集・レポートを行い受講者全員で検討・討議する。

●授業の一般目標 前期に設定した研究テーマの深化を図る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 研究内容について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 研究内容を自己の視点によって論理的に整理できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション・研究テーマの確認
- 第2回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（1）
- 第3回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（2）
- 第4回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（3）
- 第5回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（4）
- 第6回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（5）
- 第7回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（6）
- 第8回 項目 中間まとめ
- 第9回 項目 受講者による研究成果の報告・討議（7）
- 第10回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（8）
- 第11回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（9）
- 第12回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（10）
- 第13回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（11）
- 第14回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（12）
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。

●メッセージ 修士論文につながる授業なので、そのことを意識した学習を行うこと。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部3F 電話：083-933-5452 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	田代直人				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	白石敏行				

●授業の概要 前期に引き続き、修士論文作成のための文献講読および研究方法等の検討を行う。／検索キーワード 幼児、保育、発達

●授業の一般目標 自分の興味・関心のある領域について文献を報告するとともに、研究方法等を検討し、修士論文作成に役立てる。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 自分の興味・関心ある領域に関する基礎的事項について説明することができる。 関心・意欲の観点： 他者の意見にも耳を傾け、自分の意見を述べるができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読（1）

第3回 項目 文献講読（2）

第4回 項目 文献講読（3）

第5回 項目 文献講読（4）

第6回 項目 文献講読（5）

第7回 項目 研究方法の検討（1）

第8回 項目 研究方法の検討（2）

第9回 項目 研究方法の検討（3）

第10回 項目 文献講読（6）

第11回 項目 文献講読（7）

第12回 項目 文献講読（8）

第13回 項目 文献講読（9）

第14回 項目 まとめ（1）

第15回 項目 まとめ（2）

●成績評価方法（総合） 出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

●メッセージ 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。前期の「課題研究」の単位を取得していること。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先：933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	西村正登				

●授業の概要 修士課程1年前期で行った研究を発展させ、深めていく。文献をさらに読み進めながらまとめたものを発表し、それについて全員で討議しながら教育の本質について考察を深めていく。また、修士論文の全体構想を立て、章立てと節立てを行う。／検索キーワード 文献解釈、研究発表、討議

●授業の一般目標 1. 文献を解釈しながらまとめ、研究発表を行う。 2. 研究発表したものを全員で討議しながら議論を深める。 3. 修士論文の全体構想を立て、章立てと節立てを行う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 教育哲学の専門的な用語や概念が理解できる。 思考・判断の観点： 1. 文献を解釈しながらまとめ、研究発表を行うことができる。 2. 修士論文の全体構想を立て、章立てと節立てを行うことができる。 関心・意欲の観点： 1. 研究を進めながら、研究テーマへの関心や意欲を高めることができる。 態度の観点： 1. 研究発表したものを全員で討議しながら深めることができる。 技能・表現の観点： 1. 文献を解釈したものをまとめ、適切な表現を使ってプレゼンテーションすることができる。

●授業の計画（全体） 教育哲学の専門用語や概念を理解しながら、各自研究を進め、まとめたものを発表しながら全員で討議を深めていく。そして、修士論文の全体構想を立て、章立てや節立てを行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業の全体計画と発表者の決定
- 第2回 項目 研究発表と討議（1）
- 第3回 項目 研究発表と討議（2）
- 第4回 項目 研究発表と討議（3）
- 第5回 項目 研究発表と討議（4）
- 第6回 項目 研究発表と討議（5）
- 第7回 項目 研究発表と討議（6）
- 第8回 項目 研究発表と討議（7）
- 第9回 項目 研究発表と討議（8）
- 第10回 項目 研究発表と討議（9）
- 第11回 項目 研究発表と討議（10）
- 第12回 項目 修士論文の構想（1）
- 第13回 項目 修士論文の構想（2）
- 第14回 項目 修士論文の構想（3）
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 研究への意欲と態度、研究発表の内容と表現力、授業への出席状況等を総合的に判断して評価する。

●教科書・参考書 教科書： 使用しない。／参考書： 研究発表の内容に応じて発表者が準備する。各自、研究内容をまとめたプリントを準備する。

●メッセージ 毎回の研究発表の積み重ねが修士論文の作成につながっていくよう、1時間1時間を大切にしてください。

●連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	林徳治				

- 授業の概要 授業に活用する教材教具としての教育メディアの教育効果を知るために、録画した授業による授業分析（数量的、質的）を通してその有用性や改善点について探究する。
- 授業の一般目標 授業分析を通して教育メディアの与える効果について実証できる
- 連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター 1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	福田修				

- 授業の概要 修士論文作成に直結する課題について教育史の分野から研究指導する。／検索キーワード 修士論文, 教育史
- 授業の一般目標 教育史の研究方法を理解し, 専門的な学術論文が作成できる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点: 教育史の研究方法が説明できる。 思考・判断の観点: 収集した資料について多面的に検討し, 客観的な分析ができる。 関心・意欲の観点: 教育に関する関心を深め, 専門的な課題意識を高めることができる。 態度の観点: ひとつの課題について, 視野を深めながら長期的に追究することができる。 技能・表現の観点: 検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。
- 授業の計画(全体) 12月までに資料の調査を終え, 資料の分析を行う。
- 成績評価方法(総合) 毎回の発表内容を中心に評価する。
- 教科書・参考書 教科書: なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	吉田一成				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	石井由理				

- 授業の概要 人権と国際理解教育の関連について、文献講読および小論文作成を通して受講生の理解を支援する。／検索キーワード 国際理解教育
- 授業の一般目標 主として人権に関する国際会議の記録等の文献を読み、理解し、その要旨と自分の意見を口頭および文章で述べる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：人権に関する国際会議の記録等の文献を読んで知識を広め、内容を理解する。人権に関する国際的な宣言、規約等が国際理解教育に対してどのような関連をもち、影響を与えているかを理解する。思考・判断の観点：調べた事項に基づいて、批判的に考え、自分の意見を構成できる。関心・意欲の観点：自主的に意欲をよって文献調査を進める。態度の観点：課題の研究を継続的に行う。技能・表現の観点：調べた内容を簡潔にまとめるとともに、自分の意見を論理的に記述することができる。論文形式のまとまった文章を書くことができる。
- 授業の計画（全体）多様な文化圏によって人権概念がどう異なるのかを文献講読と討議を通して理解を深めていく。
- 成績評価方法（総合）提出された小論文の内容による
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部2階200- (1) 事前のAppointmentにより随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	桑原昭徳				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	佐々木司				

●メッセージ 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	荘司泰弘				

●授業の概要 実際には、1年前期からの研究作業を継続する。以後、各自のテーマにそって文献を入手し、ノートパソコンにデータを入力する。引用参考文献データを各自の保育体験や保育記録と結びつけながら、考察を入力する。毎週、入力状況をチェックし、適宜指示を与える。／検索キーワード 大学院 修士論文

●授業の一般目標 1. 各自が設定したテーマに関する不明な概念や発想を解明することができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 各自が設定したテーマに対する結論を述べることができる。
 思考・判断の観点： 1. 子どもの活動を中心に考察し、論旨を組み立てる力を培う。 関心・意欲の観点： 1. 幼児に関する分野への関心を高め、子どもの立場を配慮した感性を身につける。 態度の観点： 1. わからぬ用語や概念を積極的に質問し、理解するまで説明を求めることができる。 技能・表現の観点： 1. 考察した結果を論理的に文章に表現できる。

●授業の計画（全体） 授業は入力したデータをチェックし、質疑応答する形式で進行する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 論旨を確認する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の論旨をチェックする。
- 第2回 項目 論旨を確認する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の論旨をチェックする。
- 第3回 項目 論旨を確認する 内容 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の論旨をチェックする。
- 第4回 項目 論旨を確認する 内容 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。
- 第5回 項目 論旨を確認する 内容 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。
- 第6回 項目 論旨を確認する 内容 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。
- 第7回 項目 論旨を確認する 内容 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。
- 第8回 項目 論旨を確認する 内容 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。
- 第9回 項目 文章表現を確認する。 内容 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認しながら、文章表現をチェックする。
- 第10回 項目 文章表現を再確認する。 内容 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認しながら、文章表現をチェックする。
- 第11回 項目 文章表現を再確認する。 内容 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認しながら、文章表現をチェックする。
- 第12回 項目 文章表現を再確認する。 内容 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認しながら、文章表現をチェックする。
- 第13回 項目 まとめに入る 内容 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。
- 第14回 項目 まとめる 内容 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。
- 第15回 項目 調整作業 内容 フォーマットに従って印刷に入る。

●成績評価方法（総合） 主査と副査で評価する。

- 教科書・参考書 教科書： 各自のテーマに沿って、最新の引用・参考文献を数十冊指示する。/
参考書： 各自のテーマに沿って、インターネット検索し、最新のデータを数十件指示 する。
<http://froebel.child.edu.yamaguchi-u.ac.jp>
- 連絡先・オフィスアワー メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火
曜日 12:00～15:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	杉山緑				

●授業の概要 現代教育方法学の諸対象の中から、受講者各自が研究対象を設定し、資料収集・レポート等を行い受講者全員で検討・討議する。最後にそれまでの研究内容を報告書としてまとめる。

●授業の一般目標 前期に引き続き、各自が設定した研究テーマを深化し、総括する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 研究内容について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 研究内容について自己の視点から論理的に整理できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 研究成果のまとめ（1）
- 第3回 項目 研究成果のまとめ（2）
- 第4回 項目 研究成果のまとめ（3）
- 第5回 項目 研究成果のまとめ（4）
- 第6回 項目 研究成果のまとめ（5）
- 第7回 項目 研究成果のまとめ（6）
- 第8回 項目 研究成果のまとめ（7）
- 第9回 項目 研究成果のまとめ（8）
- 第10回 項目 研究成果のまとめ（9）
- 第11回 項目 研究成果のまとめ（10）
- 第12回 項目 研究報告書の作成（1）
- 第13回 項目 研究報告書の作成（2）
- 第14回 項目 研究報告書の作成（3）
- 第15回 項目 研究報告発表（試験）

●成績評価方法（総合） 報告内容、発表態度等、ならびに最終の口頭試問による試験の結果を総合的に評価する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部3F 電話：083-933-5452 メール：
ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	田代直人				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	田中理絵				

- 授業の概要 前期に蒐集したデータを分析・考察し、自分で設定した修士論文のテーマに関してより知見を深める。
- メッセージ 有益なデータ及び知見を、社会および教育現場へ還元できるレベルの研究を行って欲しい。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	西村正登				

●授業の概要 各章、各節ごとに執筆しながら修士論文を完成する。／検索キーワード 修士論文、論文構成、論文作成

●授業の一般目標 1. 各章、各節ごとに論文を執筆し、修正しながら書き上げていく。 2. 研究したものをまとめて発表する。 3. 論文全体のバランスを考えて修士論文を完成する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 教育哲学の専門用語や概念が理解できる。 2. 論文構成の仕方、注や参考文献の書き方が理解できる。 思考・判断の観点： 1. 筋道を立てて論理的に思考し、判断することができる。 関心・意欲の観点： 1. 論文の作成を通して、自分の研究テーマへの関心をさらに高めることができる。 態度の観点： 1. 筋道を立てて論理的に論文を書くことができる。 技能・表現の観点： 1. 論旨を明確に表現することができる。

●授業の計画（全体） 各自が論文としてまとめたものを研究発表し、全員で討議しながら授業を進めていく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 修士論文作成上の要点

第2回 項目 研究発表と討議（1）

第3回 項目 研究発表と討議（2）

第4回 項目 研究発表と討議（3）

第5回 項目 研究発表と討議（4）

第6回 項目 研究発表と討議（5）

第7回 項目 研究発表と討議（6）

第8回 項目 研究発表と討議（7）

第9回 項目 研究発表と討議（8）

第10回 項目 研究発表と討議（9）

第11回 項目 研究発表と討議（10）

第12回 項目 研究発表と討議（11）

第13回 項目 研究発表と討議（12）

第14回 項目 研究発表と討議（13）

第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 研究への意欲と態度、研究発表の内容と表現力、授業への出席状況等を総合的に判断して評価する。

●教科書・参考書 教科書： 使用しない。／参考書： 研究発表の内容に応じて発表者が参考書とプリントを準備する。

●メッセージ 毎時間の積み重ねが修士論文作成につながっていくよう、1時間1時間を大切にしてください。

●連絡先・オフィスアワー masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	林徳治				

- 授業の概要 自己の研究テーマ（修論）に関して開発した教材の評価やマイクロプレゼンテーションについて実証する。改善すべき点を明らかにし、改善した教材による評価を再度実証する。
- 授業の一般目標 1. 教材の評価法について実証できる 2. 授業（遠隔学習を含む）全体の評価について実証できる 3. ポートフォリオ評価について実践できる
- 連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	福田修				

- 授業の概要 修士論文作成に直結する課題について教育史の分野から研究指導する。／検索キーワード 修士論文, 教育史
- 授業の一般目標 教育史の研究方法を理解し, 専門的な学術論文が作成できる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点: 教育史の研究方法が説明できる。 思考・判断の観点: 収集した資料について多面的検討し, 客観的な分析ができる。 関心・意欲の観点: 脅威に関する関心を深め, 専門的な課題意識を高めることができる。 態度の観点: ひとつの課題について, 視野を深めながら長期的に追究することができる。 技能・表現の観点: 検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。
- 授業の計画(全体) 12月までに資料をもとに仮説を検証しまとめる。
- 成績評価方法(総合) 毎回の発表内容を中心に評価する。
- 教科書・参考書 教科書: なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	吉田一成				

学校臨床心理学専修

開設科目	学校教育総合研究 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	西村正登他				

●授業の概要 わが国の学校教育の諸問題を教育学、障害児教育、幼児教育の各分野から総合的に考察し、今後の課題について検討する。／検索キーワード 学校、教育

●授業の一般目標 (1) 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育についての概要と課題を理解する。(2) 障害児教育や障害児心理についての概要と課題を理解する。(3) 幼児教育についての概要と課題を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育についての概要と課題が理解できる。思考・判断の観点：1. 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する思考力や判断力を高めることができる。関心・意欲の観点：1. 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する関心や意欲を高めることができる。態度の観点：1. 日常生活の中で学校教育の諸問題について主体的に考えることができる。

●授業の計画(全体) 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育の各分野を専門の教員が分担して授業する。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーションと教育哲学
- 第 2 回 項目 教育哲学
- 第 3 回 項目 教育史
- 第 4 回 項目 教育史
- 第 5 回 項目 教育方法学
- 第 6 回 項目 教育方法学
- 第 7 回 項目 教育社会学
- 第 8 回 項目 教育社会学
- 第 9 回 項目 教育制度
- 第 10 回 項目 教育制度
- 第 11 回 項目 障害児教育
- 第 12 回 項目 障害児教育
- 第 13 回 項目 幼児教育
- 第 14 回 項目 幼児教育
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法(総合) 各授業担当の教員が評価したものを総合して平均値を出す。

●教科書・参考書 教科書：使用しない。各教員がプリント等を準備する。／参考書：使用しない。

●メッセージ 授業には欠席しないようにして下さい。

●連絡先・オフィスアワー 各授業担当の教員

開設科目	学校教育総合研究 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	堂野佐俊・熊谷信順・福田廣・名島潤慈・田邊敏明・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

●授業の概要 我が国の学校教育の諸問題について、各担当教官の専門領域の観点から、現代の研究動向を踏まえて、総合的に検討する。／検索キーワード 学校教育、心理学、教育相談

●授業の一般目標 各担当教官がそれぞれの立場で論じる今日の学校教育の諸問題に関して、理解を深め、自己の観点に立って検討・消化する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 発達心理学の観点から 内容 堂野 佐俊 授業外指示 レポート
- 第 2 回 項目 社会心理学の観点から (I) 内容 熊谷 信順
- 第 3 回 項目 社会心理学の観点から (II) 内容 熊谷 信順 授業外指示 レポート
- 第 4 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 大石 英史
- 第 5 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 大石 英史 授業外指示 レポート
- 第 6 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 木谷 秀勝
- 第 7 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 木谷 秀勝 授業外指示 レポート
- 第 8 回 項目 教育心理学の観点から (I) 内容 田邊 敏明
- 第 9 回 項目 教育心理学の観点から (II) 内容 田邊 敏明 授業外指示 レポート
- 第 10 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 恒吉 徹三
- 第 11 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 恒吉 徹三 授業外指示 レポート
- 第 12 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 名島 潤慈
- 第 13 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 名島 潤慈 授業外指示 レポート
- 第 14 回 項目 学習心理学の観点から (I) 内容 福田 廣
- 第 15 回 項目 学習心理学の観点から (II) 内容 福田 廣 授業外指示 レポート

●成績評価方法 (総合) 各担当教官により、提出されたレポートの評価を中心に、全体としての評価を算出する。

●教科書・参考書 教科書：特に指定されたものはなし。／参考書：その都度指示されます。

●メッセージ 「学校教育総合研究：II」は、心理学関係の教官が担当します。

●連絡先・オフィスアワー 各担当教官の研究室

開設科目	国際理解教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	石井由理				

●授業の概要 国際理解教育の用語、歴史、理念、含まれる事項、実践事例等について講義する。文献やビデオ、エクササイズを用いて受講者が批判的思考ができるように支援する。／検索キーワード 国際理解教育、ユネスコ、異文化理解

●授業の一般目標 国際理解教育の理念や誕生の背景、現状について知る。メディアが伝える他文化に関する情報に対して、批判的な視点をもって判断をできる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：国際理解教育についての知識を広げる。国際理解教育の複雑さについて理解する。地球システムの中にいる自分を認識する。思考・判断の観点：国際理解教育について自分の意見をもつことができる。批判的思考ができる。関心・意欲の観点：国際理解教育の視点をもって自分の生活スタイルに関心をもってみつめなおす。授業で紹介された事例以外にも自分で関心のある分野を発展的に研究する。態度の観点：ユネスコの提唱する「平和の文化」に参加しようとする態度をもつ。技能・表現の観点：討議に参加し、自分の意見を論理的に述べるができる。自分の関心のあるテーマを見つけ、調査し、レポートにまとめることができる。

●授業の計画（全体） 国際理解教育とは、定まった定義があるのではなく、時代や場所によって様々な変遷をとげるものだということを、文献や映像を通して学ぶ。また、自分もその変遷の中にいる参加者だという自己認識を、討議やエクササイズを通して高める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 国際理解教育とは何か 内容 授業説明国際理解教育に関連のある概念
- 第2回 項目 国際理解教育という概念の形成 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第3回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第4回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第5回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1960年代の社会背景
- 第6回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1970年代の時代背景と1974年国際教育勧告
- 第7回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1974年勧告後の各国の実践努力
- 第8回 項目 ユネスコと国際理解教育 内容 1980年代ブルントラント委員会
- 第9回 項目 1990年代から現在 内容 1990年代の社会背景
- 第10回 項目 1990年代から現在 内容 コソボの学校
- 第11回 項目 1990年代の教育政策 内容 ノルウェー、イギリス、日本の例
- 第12回 項目 マスメディアと国際理解教育 内容 ルワンダでの虐殺
- 第13回 項目 マスメディアと国際理解教育 内容 日本の事例映画の例
- 第14回 項目 マスディアと国際理解教育 内容 映画の例
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 中間および期末のレポートによる

●教科書・参考書 教科書：プリント等を使用／参考書：異文化コミュニケーション教育、青木順子、溪水社、1999年；国際理解教育、永井滋郎、第一学習社、1989年；イギリスのグローバル教育、木村一子、勁草書房、2001年；南北問題と開発教育、田中治彦、亜紀書房、1994年

●連絡先・オフィスアワー 教育学部2階200-（1）室 オフィスアワーは初回授業時に伝達

開設科目	教育メディア特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	林徳治				

- 授業の概要 教授・学習過程（授業）において、「わかる」、「楽しい」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割について学修する。さらにパソコン、インターネット、衛星や電話回線利用などによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計-実施-評価による授業技術を学習する。
- 授業の一般目標 授業での児童生徒と教師間におけるコミュニケーション活動の改善をめざした「わかる」、「楽しい」授業づくりにおける教育メディアの意義や役割を学び、これらを活用した教育方法・技術について教育実践学の見地より探究する。具体的な項目は以下の通りである。1. 教育メディアの特性を理解し、各々の教材作成ができる 2. 授業の分析（数量的、質的）ができる 3. プレゼンテーション技術（表現伝達）について改善できる
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：メディアを介したコミュニケーション能力 思考・判断の観点：論理的、批判的な思考力と判断力 関心・意欲の観点：教育メディアに対する興味関心 態度の観点：自発的、独創的に取り組む姿勢 技能・表現の観点：メディアを利用したプレゼンテーションの実施・評価を通しての実践力
- 授業の計画（全体） 授業（コミュニケーション）における教育メディアの意義や役割を習得した上で、主にプレゼンテーション技術の習得をめざした自己表現伝達技術の設計・実施・評価を行う。このプロセスを通してメディア利用の教材開発手法、プレゼンテーション訓練方法（マイクロプレゼンテーション）、評価方法・内容について習得する。
- 成績評価方法（総合） 小テスト／授業内レポート，宿題／授業外レポート，発表（プレゼン）や授業内での製作作業，出席等を総合して評価する。
- 教科書・参考書 教科書：情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術，林徳治，ぎょうせい，2000年；情報教育の理論と実践，林徳治・宮田仁，実教出版，2002年
- 連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	教育心理学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	熊谷信順				

●授業の概要 個性をめぐるいくつかの理論を紹介し、個性化と社会化について考察する。これを踏まえて、各自が今日の社会における様々な現象について論評し、討論する。

●授業の一般目標 教育における個性概念を批判的に検討できるようになる。

●授業の到達目標／ 思考・判断の観点：「個性」概念について批判的に理解できるようになる。

●授業の計画（全体） 講義及びレポートに基づく討論

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 授業のねらい

第2回 項目 個性をめぐる今日の状況

第3回 項目 個性についての理論1

第4回 項目 個性についての理論2

第5回 項目 個性についての理論3

第6回 項目 個性を育てることとは

第7回 項目 個性化と社会化

第8回 項目 各自の課題設定と検討

第9回 項目 課題への取り組み 内容 レポート作成

第10回 項目 課題への取り組み 内容 レポート作成

第11回 項目 発表・討論1

第12回 項目 発表・討論2

第13回 項目 発表・討論3

第14回 項目 発表・討論4

第15回 項目 全体のまとめ

●成績評価方法（総合） レポートおよび討論

●教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない

開設科目	教育心理学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	田邊敏明				

●授業の概要 学校において、教師、児童、生徒が生み出す諸現象を分析し、教科指導、および生徒指導・進路指導を行う上で実際に役立つ知見を実習を通して得る。特に現在学校現場で問題とされていることの解決に向けて、その対策を示したい。／検索キーワード 教科指導、スクールカウンセラー

●授業の一般目標 現代の学校が立ち向かっている問題について具体的な対応策が描けるような授業でありたい。たとえば、それは学力低下問題であったり、また子どもたちに見られる意欲の減退であり、さらにはいじめ、不登校、さらには虐待を受けた子どもへのケアである。それらの問題のさなかにある子どもたちに寄り添えるような、そして心の育ちに貢献できるような対策を考えていきたい。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：現在の学校現場が抱えている問題点を認識する。思考・判断の観点：学校現場が抱えている問題点を、社会的変化や、その影響を受けた親とか、さまざまな角度から考えていく。関心・意欲の観点：問題点に関して、臨床心理学としてどのような解決が可能であるか、自分なりの答えを打ち出す。態度の観点：実際に心理臨床家としてどのような行動や態度を示していけばよいかをイメージすることができる。

●授業の計画（全体）現代の学校現場が抱えるさまざまな問題点を挙げ、それら一つひとつについて臨床心理学的に対策を考え、考察を深める。特に学校の教育相談的立場や、スクールカウンセラーの立場から、問題の解決にどのように貢献できるかを考えていく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 現代の学校が抱える問題
- 第2回 項目 学力低下における要因について
- 第3回 項目 子どもにおける学習意欲 ー人生の学びという観点から
- 第4回 項目 学習におけるカウンセリングマインドについて
- 第5回 項目 学校臨床心理士（スクールカウンセラー）の活動と学校教育
- 第6回 項目 新しいスクールカウンセラーのあり方
- 第7回 項目 面接室から出たカウンセリング
- 第8回 項目 キレル中学生の心の理解
- 第9回 項目 学校で生かせるカウンセリングマインド
- 第10回 項目 病院臨床から見た不登校
- 第11回 項目 ブリーフセラピーによる学校教育相談
- 第12回 項目 体から学校不適應を眺める ーストレスマネジメント
- 第13回 項目 構成的エンカウンターによる学級運営
- 第14回 項目 心理劇による他者理解
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合）各自に発表を義務づける。そして発表の準備状況や内容を評価する。また授業へ参加する態度も重要な評価対象となる。

●メッセージ 単に学校現場の問題点を挙げるだけに終わらず、それらの一つひとつに対して自分の視点をもって解決していく姿勢を求めたい。

●連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 火曜日 18:00～19:00

開設科目	発達心理学特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	堂野佐俊				

●授業の概要 乳幼児から青年、高齢者に及ぶ発達のメカニズムに関して、認知や学習の発達領域に重点を置き、発達心理学の観点から理解を深める。／検索キーワード 心理学、発達心理学

●授業の一般目標 乳幼児から青年、高齢者に及ぶ発達のメカニズムに関して、認知や学習の発達領域に重点を置き、発達心理学の観点から理解を深める。

●授業の計画（全体） 乳幼児から青年、高齢者に及ぶ発達のメカニズムに関して、認知や学習の発達領域に重点を置き、発達心理学の観点から理解を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 The Development of Thinking

第2回 項目 Sensory-motor Stage: Birth to 2 Years

第3回 項目 Preoperational Stage: 2 to 7 Years

第4回 項目 Stage of Concrete Operation: 7 to 12 Years

第5回 項目 Traditional Learning Theory as a Contrasting Explanation of Development

第6回 項目 The Role of Heredity and Environment in Intelligence

第7回 項目 Intelligence: heredity versus Environment

第8回 項目 Environmental Factors and IQ

第9回 項目 The Development of Perception

第10回 項目 Perception of Depth

第11回 項目 Other Perceptual Abilities (I)

第12回 項目 Other Perceptual Abilities (II)

第13回 項目 Language Development

第14回 項目 A Description of Language Development

第15回 項目 Chomsky's Theory of Innate Language Development

●成績評価方法（総合） 各担当時における資料に基づいた発表と、出席や意欲・態度が評価の対象となる。

●教科書・参考書 教科書：The Psychology of Childhood, Peter Mitchell, The Falmer Press, 1992年／参考書：その都度指摘します。

●メッセージ 十分な予習で、内容への積極的な参加を期待します。

●連絡先・オフィスアワー 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	人格心理学特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	田邊敏明				

●授業の概要 児童・生徒の発達援助の方法としての人格心理学の理論について詳述し、特に子どもの心をどのように見るかについて具体的に提言する／検索キーワード 多面的な見方

●授業の一般目標 児童の問題行動を明らかにするため、幅広い見方を修得し、考察を深めていく。特に、対象関係論の理解は、重い病理を理解するためには欠かせないものである。さらに心のバランスやしなやかさを感じるセンスを身につけることは、心理面接を行う上でも必須の条件となる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：子どもの行動にはしくみがあることを理解する。 思考・判断の観点：子どもの不適応行動を見ていく上で、さまざまな見方があることを理解する。 関心・意欲の観点：さまざまな心理療法の考えの中で自分はどの療法の考えに賛同するかを提唱できる。 態度の観点：各々のケースで実際に自分がどのような見立てをしていくかシミュレーションできる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 悩める心の見方 ー喩えからの提言
- 第2回 項目 心を抱えるということ
- 第3回 項目 心の統合について ー境界例を中心に
- 第4回 項目 矛盾する心の統合 ーAと反Aの統合
- 第5回 項目 心における光と影
- 第6回 項目 心の成長における柱と支えのせめぎ合い
- 第7回 項目 父性と母性 ー日本的母性と父性
- 第8回 項目 現代人の心の成長における強化の役割
- 第9回 項目 心の調和について ー統合失調症と離人症が示すもの
- 第10回 項目 心の余裕（遊び）について ー家族における揺れとホメオスタシス
- 第11回 項目 心のしなやかさと柔らかさ ーアサーショントレーニングについて
- 第12回 項目 自閉症児の心の世界について
- 第13回 項目 心理療法における受動性と能動性
- 第14回 項目 心理療法における知性と感情 ー認知行動療法と来談者中心療法
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 授業中のディスカッションへ参加する態度を重視する。また発表を義務づけ、その準備状況や内容も評価する。

●メッセージ 心を多面的に見られるような柔軟な見点をもっていただきたい。

●連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 曜日 18:00～19:00

開設科目	社会心理学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	熊谷信順				

●授業の概要 自己の認識から評価、表現の過程を、「自己過程」としてとらえて、その過程に見られる様々な現象を理論的に考察する。

●授業の一般目標 人間の自己表現の背景を理解する

●授業の到達目標／ その他の観点：人間の自己肯定の重さを理解する

●授業の計画（全体） 講義を行う

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 自己過程とは
- 第2回 項目 自己に対する注意の焦点化 自己過程の構造
- 第3回 項目 自己に対する注意の焦点化
- 第4回 項目 私的自己と公的自己
- 第5回 項目 自己の姿の把握
- 第6回 項目 自己知覚理論
- 第7回 項目 自己に関する知識の構造化
- 第8回 項目 セルفسキーマの機能
- 第9回 項目 自己の姿に対する評価
- 第10回 項目 社会的比較過程
- 第11回 項目 SEM理論
- 第12回 項目 自己呈示1
- 第13回 項目 自己呈示2
- 第14回 項目 自己開示
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） レポートによる

●教科書・参考書 教科書：使用しない

開設科目	障害児心理学特論	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	吉田一成				

開設科目	心理学研究法特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	福田廣				

開設科目	心理統計法演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	福田廣				

●授業の概要 心理学研究（特に、実証的、因果論的アプローチによる）を行う際に必要な、基本的な研究計画、測定、心理統計法にかかわる諸問題について、国内外の文献を用いて論考する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 研究パラダイム
- 第2回 項目 心理測定とは
- 第3回 項目 記述統計（1）
- 第4回 項目 記述統計（2）
- 第5回 項目 統計的検定（1）
- 第6回 項目 統計的検定（2）
- 第7回 項目 統計的検定（3）
- 第8回 項目 相関と回帰（1）
- 第9回 項目 相関と回帰（2）
- 第10回 項目 因子分析（1）
- 第11回 項目 因子分析（2）
- 第12回 項目 さまざまな多変量解析（1）
- 第13回 項目 さまざまな多変量解析（2）
- 第14回 項目 そのほかの統計的問題（1）
- 第15回 項目 そのほかの統計的問題（2）

開設科目	家族心理学特論	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	堂野佐俊				

●授業の概要 「家族」を情緒的な関係の場として捉え、家族過程、家族機能、親子関係、養育態度とパーソナリティ発達、等に関して、システム論の立場から論考する。／検索キーワード 心理学、発達心理学、臨床心理学

●授業の一般目標 「家族」を情緒的な関係の場として捉え、家族過程、家族機能、親子関係、養育態度とパーソナリティ発達、等に関して、システム論の立場から論考する。

●授業の計画（全体） 「家族」を情緒的な関係の場として捉え、家族過程、家族機能、親子関係、養育態度とパーソナリティ発達、等に関して、システム論の立場から論考する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 家族心理学の概念
- 第2回 項目 家族心理学研究（I）：揺籃期
- 第3回 項目 家族心理学研究（II）：システムズ・アプローチの台頭
- 第4回 項目 家族心理学研究（III）：現代家族心理学の確立
- 第5回 項目 家族心理学における理論モデル
- 第6回 項目 家族発達段階論
- 第7回 項目 家族心理学における研究法（I）：心理学的アプローチ
- 第8回 項目 家族心理学における研究法（II）：効用と限界
- 第9回 項目 結婚と夫婦の心理
- 第10回 項目 夫婦関係における諸現象
- 第11回 項目 親と子の心理学（I）：子どもをめぐる社会的状況
- 第12回 項目 親と子の心理学（II）：親と子の絆
- 第13回 項目 親と子の心理学（III）：青年期の家族関係
- 第14回 項目 家族介入の技法
- 第15回 項目 現代家族心理学の課題と総括

●教科書・参考書 教科書：家族心理学講義，岡堂哲雄，金子書房，1991年；その他は、適宜指摘します。／参考書：その都度指示します。

●メッセージ 主として演習形式で進めますが、積極的な参加を期待します。

●連絡先・オフィスアワー 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	心理療法特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	恒吉徹三				

●授業の概要 講義では、面接者とクライアントの関係をいかに理解するかについて講義する。講義は、毎回学生によるプレゼンテーションを行い、議論を深めていく。／検索キーワード 心理療法、面接者とクライアント関係、対象関係論。

●授業の一般目標 心理臨床場面における、面接者とクライアントの関係を理解する視点について学ぶ。特に、対象関係論の観点からクライアントと面接者の関係の理解の方法や視点について学ぶことを目標とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：心理療法の基本的な概念を説明できる。思考・判断の観点：面接者と来談者の関係についての基本的な理解ができる。

●授業の計画（全体）心理療法の実践に関わる場合の、クライアント理解の視点について講義する。対象関係論の概要についてまず講義をし、その後の週には毎回受講学生のプレゼンテーションの後に討論を行いながら、解説をを加えていく。これにより、講義自体をより相互的なものとする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 精神分析学の基本概念 内容 オリエンテーション・精神分析の基礎について
- 第2回 項目 対象関係論概説(1) 内容 精神分析学の基礎的概念と対象関係論の基礎的事項
- 第3回 項目 対象関係論概説(2) 内容 対象関係論のとらえかた
- 第4回 項目 対象関係論概説(3) 内容 対象関係論の学派
- 第5回 項目 対象関係論(1) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第6回 項目 対象関係論(2) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第7回 項目 対象関係論(3) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第8回 項目 対象関係論(4) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第9回 項目 対象関係論(5) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第10回 項目 対象関係論(6) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第11回 項目 対象関係論(7) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第12回 項目 対象関係論(8) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第13回 項目 対象関係論(9) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第14回 項目 対象関係論(10) 内容 受講生によるプレゼンテーション
- 第15回 項目 講義のまとめと総合討論 内容 講義全体の振り返りと総合的な討論

●成績評価方法（総合）講義では、受講生によるプレゼンテーションを行い、これをもって成績評価を行う。さらに、発表後に発表当日の討論を踏まえてさらに要約をレポートとして提出する。これらにより、総合的に評価する。

●教科書・参考書 教科書：講義の際に指定する。／参考書：患者から学ぶ、パトリック・ケースメント（松木訳）、岩崎学術出版社、1991年；さらに患者から学ぶ、パトリック・ケースメント（矢崎訳）、岩崎学術出版社j、1995年；あやまちから学ぶ、パトリック・ケースメント（松木訳）、岩崎学術出版社、2004年；オールアバウト・メラニーライン、松木邦裕編、至文堂、2004年；対象関係論の基礎、松木邦裕編・監訳、新曜社、2003年；精神分析学事典（岩崎学術出版社）も参考にしてほしい。

●メッセージ 心理療法は、面接者とクライアントの対話を通して自己理解を深める場でもあるので、議論への積極的な参加を期待したい。

開設科目	臨床心理学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	名島潤慈				

●授業の概要 教育臨床・病院臨床・産業臨床など、さまざまな臨床場面において問題となるさまざまな事柄について考究します。そのさい、できるだけ具体的な臨床事例を呈示しながら講義します。また、いろいろな心理療法の特性についても講義します。／検索キーワード 臨床心理学。心理テスト。心理療法。

●授業の一般目標 査定にしろ援助・介入にしろ、臨床心理学の基礎的・実践的な部分に焦点をあてます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 臨床心理学における専門性と倫理。諸外国の臨床心理士。
- 第 2 回 項目 インテイク面接における諸問題と対応。
- 第 3 回 項目 心理療法面接における諸問題と対応。
- 第 4 回 項目 心理テストの活用の仕方について。
- 第 5 回 項目 教育臨床場面における不適応行動の理解と対応（1） 学校・学業・友人関係に関する問題。
- 第 6 回 項目 教育臨床場面における不適応行動の理解と対応（2） 自己破壊・他者破壊に関する問題。
- 第 7 回 項目 教師の心の健康の問題と対応—抑うつ・自殺・不祥事・停職など。
- 第 8 回 項目 セラピストクライアント関係における諸問題と対応。
- 第 9 回 項目 臨床場面における夢の利用について。
- 第 10 回 項目 臨床場面における絵の利用について。
- 第 11 回 項目 臨床場面におけるイメージの利用について。
- 第 12 回 項目 他の専門職・専門機関との連携上の諸問題と対応。
- 第 13 回 項目 臨床援助チームにおけるリーダーシップの問題と対応。
- 第 14 回 項目 臨床事例研究。
- 第 15 回 項目 臨床事例研究。

●教科書・参考書 参考書：新版 心理臨床家の手引, 鑓幹八郎・名島潤慈編著, 誠信書房, 2000 年；臨床場面における夢の利用, 名島潤慈, 誠信書房, 2003 年

●メッセージ レポートがたくさんあります。7つか8つくらい。がんばって下さい。

●連絡先・オフィスアワー E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	臨床心理学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	大石英史				

●授業の概要 現代の思春期・青年期における臨床的テーマとして、不登校・ひきこもり問題および摂食障害を取り上げ、その発症のメカニズムや援助方法について、個人、家族、コミュニティを視野に入れながら考えていく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 不登校・ひきこもりの実態
- 第 3 回 項目 不登校の歴史の変遷
- 第 4 回 項目 発達の観点からみた不登校
- 第 5 回 項目 不登校のタイプ
- 第 6 回 項目 不登校の背景要因
- 第 7 回 項目 現代の対人関係と不登校・ひきこもり問題
- 第 8 回 項目 学校制度と不登校
- 第 9 回 項目 不登校の援助 - 思春期まで
- 第 10 回 項目 不登校の援助 - 思春期以降
- 第 11 回 項目 ひきこもりの援助
- 第 12 回 項目 摂食障害の事例検討
- 第 13 回 項目 摂食障害の発症メカニズム
- 第 14 回 項目 摂食障害の治療 - 拒食症
- 第 15 回 項目 摂食障害の治療 - 過食症

開設科目	臨床心理査定演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	木谷秀勝				

- 授業の概要 心理アセスメントに関して、特に発達面を重視した発達検査、知能検査、臨床描画法等の実施方法やその解釈について、事例を紹介しながら議論を行う／検索キーワード 臨床心理学 アセスメント 発達
- 授業の一般目標 心理アセスメントを中心にして、カウンセリングにおける基本的な視点について議論する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 専門的知識と高度な理解を習得する。 思考・判断の観点： 心理臨床に必要な思考や判断を習得する。 関心・意欲の観点： 心理臨床に対する深い関心を養う。
- 授業の計画（全体） 自験例を中心にして、事例検討を通して議論を深める。
- 成績評価方法（総合） 演習での積極的な態度を評価に入れる。

開設科目	臨床心理査定演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	名島潤慈				

●授業の概要 臨床的な心理査定の理論・技法について考究します。／検索キーワード 臨床心理学。査定。評価。アセスメント。心理テスト。投影法。

●授業の一般目標 心理査定のやり方を具体的に習得できるようにします。

●授業の計画（全体） 臨床心理査定に関する基礎的な事柄を中心にして講義する。また、さまざまな投映法を実際に施行して見ることによって、投映法の意義や限界を会得してもらう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 臨床心理査定概論。心理査定における倫理。テスト契約。

第 2 回 項目 面接による心理査定。

第 3 回 項目 質問紙法による心理査定。

第 4 回 項目 投影法による心理査定（1） バウムテスト。

第 5 回 項目 投影法による心理査定（2） 誘発線技法。

第 6 回 項目 投影法による心理査定（3） 人物画・家族画。

第 7 回 項目 投影法による心理査定（4） TAT・RT。

第 8 回 項目 投影法による心理査定（5） 夢。

第 9 回 項目 心理テストの組み合わせの仕方について。

第 10 回 項目 心理査定における治療的側面について。

第 11 回 項目 クロッパー法ロールシャッハテストのスコアリング。

第 12 回 項目 クロッパー法ロールシャッハテストの解釈。

第 13 回 項目 クロッパー法ロールシャッハテストの RPRS（ロールシャッハ予後評定尺度）について。

第 14 回 項目 心理査定の事例研究。

第 15 回 項目 心理査定の事例研究。

●教科書・参考書 教科書：必要な論文はコピーして配布します。

●メッセージ 最終レポートの題目は、「新しい投影法を何か一つ考案して、それを実際に被検者に適用して、その臨床的妥当性を検討する。テストは、既存の投影法をもとにして発展させたものでもよい」というものです。がんばって下さい。

●連絡先・オフィスアワー E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	臨床心理面接特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	木谷秀勝				

- 授業の概要 参加者が実施した実際の事例を報告してもらい、事例を通して面接で生じやすい問題点を具体的に検討する
- 授業の一般目標 事例報告を通して、より深いクライアント理解を進める。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 専門的な知識や理解をさらに臨床的に深める。 思考・判断の観点： 今、ここでの判断力を習得する。 関心・意欲の観点： クライアントへの深い関心を習得する。
- 授業の計画（全体） 事例報告とそのスーパーヴィジョンを行う。

開設科目	臨床心理面接特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	大石英史				

●授業の概要 フォーカシングおよび間主観的アプローチの実際とその意義、適用上の留意点等を、スクールカウンセリングの立場から体験的に学ぶ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 フォーカシングとは何か
- 第 2 回 項目 フォーカシングの生い立ち
- 第 3 回 項目 フォーカシングとフェルト・センス
- 第 4 回 項目 フォーカシング実習
- 第 5 回 項目 フォーカシング実習
- 第 6 回 項目 心理面接における非言語的相互作用 心理臨床における間主観的な場
- 第 7 回 項目 心理臨床における間主観的な場
- 第 8 回 項目 「間」の相互性とその臨床援助的活用
- 第 9 回 項目 間主観的体験の臨床的援助活用
- 第 10 回 項目 間主観的体験を活かした心理療法 1
- 第 11 回 項目 間主観的体験を活かした心理療法 2
- 第 12 回 項目 フォーカシングの学校臨床への適用 1
- 第 13 回 項目 フォーカシングの学校臨床への適用 2
- 第 14 回 項目 フォーカシングの学校臨床への適用 3
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	臨床心理基礎実習	区分	実験・実習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	堂野佐俊・名島潤慈・田邊敏明・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

●授業の概要 心理臨床場面における実践上の基本的な事項に関して具体的に学ぶ。心理臨床心理家としての基本的倫理や心理面接における傾聴的態度など、ロールプレイや資料に基づいて体験的に学習する。／検索キーワード 専門性、倫理、受付、インテイク、ロールプレイ

●授業の一般目標 心理臨床場面における実践上の基本的態度や事項に関して具体的に修得し、心理臨床家としての基本的な倫理や心理面接における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

●授業の計画（全体） 心理臨床場面における実践上の基本的態度や事項に関して具体的に修得し、心理臨床家としての基本的な倫理や心理面接における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 心理臨床場面に関する理解 内容 堂野・名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第2回 項目 心理臨床家としての倫理 内容 堂野・名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第3回 項目 臨床心理士の専門性と職務 内容 堂野・名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第4回 項目 電話受付とその対応 内容 恒吉・堂野・名島・田邊・大石・木谷
- 第5回 項目 紹介と面接記録 内容 恒吉・堂野・名島・田邊・大石・木谷
- 第6回 項目 インテイク面接への展開 内容 恒吉・堂野・名島・田邊・大石・木谷
- 第7回 項目 インテイク面接（I） 内容 木谷・恒吉・堂野・名島・田邊・大石
- 第8回 項目 インテイク面接（II） 内容 木谷・恒吉・堂野・名島・田邊・大石
- 第9回 項目 インテイク面接（III） 内容 木谷・恒吉・堂野・名島・田邊・大石
- 第10回 項目 ロールプレイ（I）－（1） 内容 大石・木谷・恒吉・堂野・名島・田邊
- 第11回 項目 ロールプレイ（I）－（2） 内容 大石・木谷・恒吉・堂野・名島・田邊
- 第12回 項目 ロールプレイ（II）－（1） 内容 名島・田邊・大石・木谷・恒吉・堂野
- 第13回 項目 ロールプレイ（II）－（2） 内容 名島・田邊・大石・木谷・恒吉・堂野
- 第14回 項目 学校臨床における実際（I） 内容 田邊・名島・大石・木谷・恒吉・堂野
- 第15回 項目 学校臨床における実際（II） 内容 田邊・名島・大石・木谷・恒吉・堂野

●成績評価方法（総合）小テスト／授業内レポート＝40～60％ 授業態度や授業への参加度＝20～40％ 演習＝20～40％ 出席＝20～40％

●教科書・参考書 教科書：テーマごとに資料を配付する。／参考書：その都度指示する。

●メッセージ 具体的な実践上の諸課題について体験的に学ぶので、積極的に参加して下さい。

●連絡先・オフィスアワー 堂野佐俊：電話 933-5449, 研究室 384, オフィスアワー 水：1／2 名島潤慈：電話 933-5465, 研究室 363 田邊敏明：電話 933-5453, 研究室 372 大石英史：電話 933-5454, 研究室 376 木谷秀勝：電話 933-5464, 研究室 実践センター 恒吉徹三：電話 933-5446, 研究室 392

開設科目	臨床心理基礎実習	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	堂野佐俊・名島潤慈・田邊敏明・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

●授業の概要 心理臨床場面における実践上の基本的な事項に関して具体的に学ぶ。心理臨床家としての基本的倫理や心理面接における傾聴的態度など、ロールプレイや資料等に基づいて体験的に学ぶ。／検索キーワード 社会資源、発達障害、養護学校、現象学、精神科

●授業の一般目標 心理臨床場面における実践上の基本的態度や事項に関して具体的に修得し、心理臨床家としての基本的な倫理や心理面接における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

●授業の計画（全体） 心理臨床場面における実践上の基本的態度や事項に関して具体的に修得し、心理臨床家としての基本的な倫理や心理面接における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 心理臨床における実践的活動 内容 堂野・名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第2回 項目 関連法規と心理臨床 内容 名島・堂野・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第3回 項目 社会資源の理解と活用 内容 名島・堂野・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第4回 項目 認知行動療法的接近 内容 田邊・恒吉・堂野・名島・大石・木谷
- 第5回 項目 メタファーを用いた心理療法 内容 田邊・恒吉・堂野・名島・大石・木谷
- 第6回 項目 障害児童生徒の理解（I）：附属養護学校参加実習 内容 堂野・名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第7回 項目 障害児童生徒の理解（II）：附属養護学校参加実習 内容 堂野・名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第8回 項目 心的外傷とPTSD 内容 堂野・名島・田邊・大石・木谷・恒吉
- 第9回 項目 現象学的接近法（I） 内容 大石・木谷・恒吉・堂野・名島・田邊
- 第10回 項目 現象学的接近法（II） 内容 大石・木谷・恒吉・堂野・名島・田邊
- 第11回 項目 精神科領域での心理臨床の実際 内容 恒吉・堂野・名島・田邊・大石・木谷
- 第12回 項目 精神科領域と近接領域 内容 恒吉・堂野・名島・田邊・大石・木谷
- 第13回 項目 児童臨床の理解 内容 木谷・名島・田邊・大石・恒吉・堂野
- 第14回 項目 児童臨床の実際と関わり方 内容 木谷・名島・田邊・大石・恒吉・堂野
- 第15回 項目 実習のまとめと全体討論 内容 堂野・名島・田邊・大石・木谷・恒吉

●成績評価方法（総合）小テスト／授業内レポート = 40～60 % 授業態度や授業への参加度 = 20～40 % 出席 = 20～40 %

●教科書・参考書 教科書： 特には指定しません。／参考書： 各担当者により、適宜資料を配布します。

●メッセージ 具体的な実践上の諸課題について体験的に学ぶので、積極的に参加して下さい。

●連絡先・オフィスアワー 堂野佐俊：電話 933-5449, 研究室 384, オフィスアワー 水：1 / 2 名島潤慈：電話 933-5465, 研究室 363 田邊敏明：電話 933-5453, 研究室 362 大石英史：電話 933-5454, 研究室 376 木谷秀勝：電話 933-5464, 研究室 実践センター 恒吉徹三：電話 933-5446, 研究室 392

開設科目	臨床心理実習	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	堂野佐俊・名島潤慈・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

- 授業の概要 心理臨床の実際場面で実習を行う。本実習においては、2種類の実習を行う。(1) 山口大学教育学部附属「心理教育相談室」で実際にケースを担当し、面接の進め方について指導を行う。(2) 「山口県精神保健福祉センター」において実習を行う。／検索キーワード 実習、心理臨床、面接、相談、セラピー
- 授業の一般目標 心理臨床の実際場面で実習を行い、ケースを担当し、面接の進め方について学習を行う。特に、臨床場面における具体的な面接相談において、基本的方針を確認し、心理臨床家として直面する諸問題への対処の仕方について学ぶ。また、外部の臨床機関（山口県精神保健福祉センター）における実習を通して、さまざまなクライアントについて理解を深める。
- 授業の計画（全体） (1) 「心理教育相談室」における実習では、同相談室において受けられるケースを担当し、指導教官のスーパーバイズを受けながら面接を経験する中で、心理臨床のあり方を学習する。(2) 「山口県精神保健福祉センター」における実習では、毎週（木曜日）一日（9時間）同センターを訪問し、5週間にわたるクライアントとの接触を通して、心理臨床場面の実際について、センターの担当臨床心理士の指導も受けながら理解を深める。
- 成績評価方法（総合） 宿題／授業外レポート = 40～60 % 出席 = 40～60 %
- 教科書・参考書 教科書：特には指定しません。／参考書：担当者により、資料が配布される場合がある。
- メッセージ 「実習」としての意義を理解し、積極的に参加して下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 堂野佐俊：電話 933-5449, 研究室 384, オフィスアワー 水：1／2 名島潤慈：電話 933-5465, 研究室 363 田邊敏明：電話 933-5453 研究室 362 大石英史：電話 933-5454, 研究室 376 木谷秀勝：電話 933-5464, 研究室 実践センター 恒吉徹三：電話 933-5446, 研究室 392

開設科目	臨床心理実習	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	堂野佐俊・名島潤慈・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

- 授業の概要 心理臨床心理の実際場面での実習を行う。本実習においては、以下の2種類の実習を行う。(1) 山口大学教育学部附属「心理教育相談室」で実際にケースを担当し、面接・相談の進め方等について指導を行う。(2) 病院実習として以下の2施設の中、どちらかを選択して実習する。[A] 山口大学医学部附属病院「精神科神経科」 [B] 山口県「小郡まきはら病院」／検索キーワード 実習、心理臨床、面接、相談、セラピー
- 授業の一般目標 心理臨床心理の実際場面での実習を行い、ケースを担当し、相談・面接の進め方について学習する。特に、臨床場面における具体的な事例に直面しながら、基本的方針を確認し、心理臨床家として経験する諸問題への対処の仕方について学ぶ。また、病院実習として、実際の精神科病院で実習を行い、さまざまなクライアントについて理解を深める。
- 授業の計画(全体) (1)「心理教育相談室」における実習では、同相談室において受け付けられるケースを担当し、指導教官のスーパーバイズを受けながら面接相談を経験する中で、心理臨床のあり方を学習する。(2) 病院実習においては、「医学附属病院」か「小郡まきはら病院」のどちらかにおいて、一週間(5日間:1日9時間)集中的に実習を行い、同病院の医師や臨床心理士の指導も受けながら、さまざまなクライアントの実態について理解を深める。
- 成績評価方法(総合) 宿題／授業外レポート = 40～60% 出席 = 40～60%
- 教科書・参考書 教科書: 特には指定しません。／参考書: 担当者により指示がある場合がある。
- メッセージ 本来の「実習」としての意義を理解し、積極的に参加して下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 堂野佐俊: 電話 933-5449, 研究室 384 名島潤慈: 電話 933-5465, 研究室 363 大石英史: 電話 933-5454, 研究室 376 木谷秀勝: 電話 933-5464, 研究室 実践センター 恒吉徹三: 電話 933-5446, 研究室 392

開設科目	学校教育実践研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	吉田一成他				

- 授業の概要 学校教育に関する諸問題を教育学、心理学、障害児教育、幼児教育、情報教育、国際理解教育等の観点から実践的に考察する。／検索キーワード 学校、教育、実践
- 授業の一般目標 (1) 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解する。(2) 学校教育の諸問題について関心をもち、主体的に考えることができる。(3) 学校教育の諸問題を実践的な観点から研究する方法を学び、理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解できる。
 思考・判断の観点： 1. 学校教育の諸問題を実践的な観点から思考し、判断することができる。 関心・意欲の観点： 1. 教育についての実践的な関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点： 1. 教育についての実践的な態度を養い、高めることができる。
- 成績評価方法 (総合) 各担当教員が評価したものを総合して平均値を出す。
- 教科書・参考書 教科書： 使用しない。各授業担当教員が準備する。／参考書： 使用しない。
- メッセージ 授業には欠席しないようにして下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 各授業担当の教員
- 備考 集中授業

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	大石英史				

- 授業の概要 臨床心理学に関する基礎的な学習を行う。具体的には各自が興味をもっているテーマに関する文献を講読し、指導教官とディスカッションを行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	木谷秀勝				

- 授業の概要 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う。
- 授業の一般目標 児童へのカウンセリングだけでなく、児童精神医学を含めた多面的なアプローチの可能性について議論する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 専門的な知識の獲得をめざす 思考・判断の観点： 子どもの心の問題への多面的な思考と、速やかで適切な判断力を形成する。 関心・意欲の観点： 子どもの心の世界の複雑さに十分な関心をもつようになることをめざす。
- 授業の計画（全体） 演習形式で、重要な論文を講読する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	熊谷信順				

- 授業の概要 各自の研究課題に関連する文献的考察を積む。
- 授業の一般目標 研究課題の精緻化をめざす。
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点：論文を的確に読むことができる 研究課題を明確にできる
- 授業の計画（全体） 毎週、読んだ文献を紹介し、自らの研究課題に照らして検討する。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第1回 項目 研究の進め方
 - 第2回 項目 論文発表 内容 討議
 - 第3回 項目 論文発表 内容 討議
 - 第4回 項目 論文発表 内容 討議
 - 第5回 項目 論文発表 内容 討議
 - 第6回 項目 論文発表 内容 討議
 - 第7回 項目 研究計画策定 内容 討議
 - 第8回 項目 研究計画策定 内容 討議
 - 第9回 項目 研究方法の具体化 内容 討議
 - 第10回 項目 研究方法の具体化 内容 討議
 - 第11回 項目 データ収集 内容 討議
 - 第12回 項目 分析 内容 討議
 - 第13回 項目 分析 内容 討議
 - 第14回 項目 まとめ 内容 討議
 - 第15回 項目 まとめ 内容 討議
- 成績評価方法（総合）論文発表による
- 教科書・参考書 教科書：使用しない／参考書：なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	田邊敏明				

●授業の概要 自分の興味ある研究テーマについて、先行研究を発表してディスカッションを重ね、まだ明らかにされていない点を見つける。そして後の修士論文につなげられるような研究計画をイメージする。
／検索キーワード 創造的意欲

●授業の一般目標 自分の興味あるテーマについて、先行研究を理解し、まだ明らかにされていない点を見いだし、それを解明するような研究計画を立てる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：先行研究について理解し、またどのような点が明らかになっていないかを見つける。思考・判断の観点：先行研究で明らかになっていない点を、どのような研究計画を立てれば明らかにできるのかをイメージできる。関心・意欲の観点：明らかになっていない点を解明することに、積極果敢にチャレンジする。態度の観点：自分の興味あるテーマについて、幅広い観点から考察する。

●授業の計画（全体） 自分の興味あるテーマについて、先行研究を発表したり、ディスカッションを重ね、明らかになっていない点を見いだす。そしてそれを解明できるような研究計画を立てる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 テーマについての見解1
- 第2回 項目 テーマについての見解2
- 第3回 項目 先行研究の発表とディスカッション1
- 第4回 項目 先行研究の発表とディスカッション2
- 第5回 項目 先行研究の発表とディスカッション3
- 第6回 項目 先行研究の発表とディスカッション4
- 第7回 項目 先行研究の発表とディスカッション5
- 第8回 項目 先行研究で明らかにされていない点の発見1
- 第9回 項目 先行研究で明らかにされていない点の発見2
- 第10回 項目 研究計画1
- 第11回 項目 研究計画2
- 第12回 項目 研究計画3
- 第13回 項目 研究実施のシミュレーション
- 第14回 項目 研究実施のシミュレーション2
- 第15回 項目 修士論文への展望

●成績評価方法（総合） そのテーマにおいてまだ明らかになっていない点を解明しようとする意欲を重視する。またそのための発表の資料準備、授業中のディスカッションに向かう態度も評価対象となる。

●メッセージ 困難なテーマにも積極果敢に挑む勇気を求めたい。

●連絡先・オフィスアワー E mail: ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー火曜日 18:00～19:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	恒吉徹三				

- 授業の概要 演習は、受講者の発表を中心にすすめる。あらかじめ研究課題として各受講生が設定しているテーマについて発表し議論を深めながら、当該研究分野を概観していく。特に、臨床心理学分野での研究について取り上げること。その際には、研究の理解を深めるだけでなく、心理臨床においてどのような貢献ができるかも視野に入れてすすめていく。／検索キーワード テーマ、問題意識の明確化、文献展望
- 授業の一般目標 受講者が取り組む研究課題についてより明確にすることが本セメスターの目標である。さらに、当該分野でのこれまでの研究について概観することを目指す。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：臨床心理学の基礎的な知識および研究方法について基礎的理解できる。 思考・判断の観点：臨床心理学的に事象をとらえることができる。 技能・表現の観点：臨床心理学的観点から自らの関心を記述し表現できる。
- 授業の計画（全体） まず、各自が設定した課題について発表し、研究テーマを明確にするための議論を重ねる。さらに、当該研究領域の現状を踏まえて、問題設定をより明確にする。
- 成績評価方法（総合） 各自の担当した発表内容により評価する。ただし、講義実施回数の3分の2以上の出席が評価の前提となる。
- 教科書・参考書 教科書：指定しない／参考書：必要に応じて示す
- メッセージ 積極的な取り組みを期待します。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	堂野佐俊				

- 授業の概要 修士論文の作成に向け、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけを行う。／検索キーワード 心理学、発達心理学、臨床心理学、家族心理学
- 授業の一般目標 修士論文の作成に向け、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけを行う。
- 授業の計画（全体） 修士論文の作成に向け、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけを行う。
- 成績評価方法（総合） 毎回の資料に基づいた発表の内容が評価の中心となるが、出席や意欲・態度も評価の対象となる。
- 教科書・参考書 教科書：特に指定はしません。／参考書：その都度指摘します。
- メッセージ 有意義な修士論文の作成に向けて自主的・積極的に取り組んで下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	名島潤慈				

- 授業の概要 学生さん自身が関心を抱いている臨床心理学的テーマについて深く広く考究します。／検索キーワード 臨床心理学。心理テスト。心理療法。
- 授業の一般目標 臨床心理学とは何かを会得してもらいます。
- メッセージ レポート発表がたくさんありますので、がんばってください。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	福田廣				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	大石英史				

●授業の概要 臨床心理学に関する応用的な学習を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	木谷秀勝				

- 授業の概要 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う
- 授業の一般目標 主に修士論文にテーマに関連した論文を講読して、専門的分野への理解を深める。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：深い知識と理解をめざす 思考・判断の観点：客観的な判断力を形成する。 関心・意欲の観点：より高い学問的関心と意欲を培う。
- 授業の計画（全体） 論文の講読を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	熊谷信順				

●授業の概要 前期の課題研究を踏まえ、討議を通して研究課題の具体化を進める。

●授業の一般目標 修士論文作成のための基本計画を立てる。

●授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 論理的思考ができる

●授業の計画（全体） 討議

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 研究討議 内容 討議

第2回 項目 研究討議 内容 討議

第3回 項目 研究討議 内容 討議

第4回 項目 研究討議 内容 討議

第5回 項目 研究討議 内容 討議

第6回 項目 研究討議 内容 討議

第7回 項目 研究討議 内容 討議

第8回 項目 研究討議 内容 討議

第9回 項目 研究討議 内容 討議

第10回 項目 研究討議 内容 討議

第11回 項目 研究討議 内容 討議

第12回 項目 研究討議 内容 討議

第13回 項目 研究討議 内容 討議

第14回 項目 研究討議 内容 討議

第15回 項目 研究討議 内容 討議

●成績評価方法（総合） 研究計画を評価

●教科書・参考書 教科書： 使用しない

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	田邊敏明				

●授業の概要 修士論文の作成に直結するような課題について論考し、具体的な研究計画を立てていく。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	恒吉徹三				

- 授業の概要 演習は、受講者の発表を中心にすすめる。前 Semester までの間に明確にされ、かつ予備的研究の実施によって具体的となった研究課題について、データ収集を行い、目的に沿って結果を整理する。この結果を発表し、討論を行う。特に、データ収集に際する人権や倫理的な点についても十分に検討する。／検索キーワード 研究手法、データ収集、結果の整理
- 授業の一般目標 研究課題を明確にしたうえで、さらに予備的な研究（調査、観察などにより）を当該分野においてすすめる。その上でさらに、課題にそった研究手法や実施計画を再検討することを目標とする。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：心理学および臨床心理学について十分に理解できている。思考・判断の観点：事象を臨床心理学の観点からとらえることができる。技能・表現の観点：臨床心理学的観点から自らの関心を記述し表現できる。
- 授業の計画（全体）各自が設定した課題について発表し、研究テーマを明確にするための議論を重ねる点は、前期と同様である。この過程で問題をより明確にし、予備的な研究に取り組む。そのうえで、さらに問題の明確化と研究の実施計画をより实际的に検討する。
- メッセージ 自らの研究テーマをより深めてほしい。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	堂野佐俊				

- 授業の概要 修士1年次の基礎的な文献研究に引き続き、修士論文の作成に向け、実質的な研究の立案・計画・実践のプロセスに応じて、個別的な討議と相宇段を継続しながら、円滑な研究へ進展させる／検索キーワード 心理学、発達心理学、臨床心理学、家族心理学
- 授業の一般目標 修士1年次の基礎的な文献研究に引き続き、修士論文の作成に向け、実質的な研究の立案・計画・実践のプロセスに応じて、個別的な討議と相宇段を継続しながら、円滑な研究へ進展させる。
- 授業の計画（全体） 修士1年次の基礎的な文献研究に引き続き、修士論文の作成に向け、実質的な研究の立案・計画・実践のプロセスに応じて、個別的な討議と相宇段を継続しながら、円滑な研究へ進展させる。
- 成績評価方法（総合） 毎回の授業時における資料に基づいた発表と意欲・態度が評価の対象となる。
- 教科書・参考書 教科書：特に指定はしません。／参考書：その都度指摘します。
- メッセージ 有意義な修士論文の作成に向けて自主的・積極的に取り組んで下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	名島潤慈				

- 授業の概要 学生さん自身が関心を抱いている臨床心理学的テーマについて深く広く考究します。／検索キーワード 臨床心理学。心理テスト。心理療法。
- 授業の一般目標 臨床心理学とは何かを会得してもらいます。
- メッセージ レポート発表がたくさんありますので、がんばってください。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	福田廣				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	大石英史				

●授業の概要 臨床心理学に関する基礎的な学習を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	木谷秀勝				

- 授業の概要 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う
- 授業の一般目標 前期の続きを行う。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 前期と同じ 思考・判断の観点： 前期と同じ 関心・意欲の観点： 前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 成績評価方法（総合） 前期と同じ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	熊谷信順				

- 授業の概要 討議しながら、研究課題に具体的に取り組む。
- 授業の一般目標 前期の成果をふまえて論文を書く
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 研究課題に応える
- 授業の計画（全体） 討議、論文検討
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 討議
- 第2回 項目 討議
- 第3回 項目 討議
- 第4回 項目 討議
- 第5回 項目 討議
- 第6回 項目 討議
- 第7回 項目 討議
- 第8回 項目 討議
- 第9回 項目 討議
- 第10回 項目 討議
- 第11回 項目 討議
- 第12回 項目 討議
- 第13回 項目 討議
- 第14回 項目 討議
- 第15回 項目 討議

- 成績評価方法（総合） 論文評価
- 教科書・参考書 教科書： 使用しない

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	恒吉徹三				

- 授業の概要 演習の進行は、前期と同様に、受講者の発表を中心にすすめる。各受講者の研究課題について発表し議論を深めながらすすめる。前期の講義で概観した当該研究分野について、さらに理解を深め、予備的なレベルでの調査や観察を実施し、さらにテーマについて理解を深める。臨床心理学分野での研究の位置付けや、心理臨床においてどのような貢献ができるかも視野に入れてすすめていくこと。
／検索キーワード 問題意識の明確化、予備的調査、研究手法の検討
- 授業の一般目標 受講者が設定した研究課題について、実際にデータ収集を行い、結果を整理する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：心理学および臨床心理学の知識について十分に理解ができる。
思考・判断の観点：事象を臨床心理学的な観点からとらえることができる。技能・表現の観点：臨床心理学的観点から自らの関心を記述し表現できる。
- 授業の計画（全体） まず、各自が設定した課題について発表し、さらに研究テーマを明確にするための議論を重ねる。その上で、実際にデータ収集を行い、この結果について議論する。
- 教科書・参考書 教科書：指定しない／参考書：必要に応じて示す

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	堂野佐俊				

- 授業の概要 修士1年次前期に引き続き、修士論文の作成に向けて、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけを行う。／検索キーワード 心理学、発達心理学、臨床心理学、家族心理学
- 授業の一般目標 修士1年次前期に引き続き、修士論文の作成に向けて、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけをおこなう。
- 授業の計画（全体） 修士1年次前期に引き続き、修士論文の作成に向けて、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけをおこなう。
- 成績評価方法（総合） 毎回の資料に基づいた発表の内容が評価の中心となるが、出席や意欲・態度も評価の対象となる。
- 教科書・参考書 教科書： 特には指定しません。／参考書： その都度指摘します。
- メッセージ 有意義な修士論文の作成に向けて自主的・積極的に取り組んで下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	名島潤慈				

- 授業の概要 学生さん自身が関心を抱いている臨床心理学的テーマについて深く広く考究します。／検索キーワード 臨床心理学。心理テスト。心理療法。
- 授業の一般目標 臨床心理学とは何かを会得してもらいます。
- メッセージ レポート発表がたくさんありますので、がんばってください。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	福田廣				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	大石英史				

●授業の概要 臨床心理学に関する応用的学習を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	木谷秀勝				

- 授業の概要 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う
- 授業の一般目標 前期と同じ
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 前期と同じ 思考・判断の観点： 前期と同じ 関心・意欲の観点： 前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 成績評価方法（総合） 前期と同じ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	熊谷信順				

- 授業の概要 自分の研究データについて討議し、分析、まとめの指導をする。
- 授業の一般目標 修士論文を完成させる
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点：研究テーマについて一定の成果を得る。
- 授業の計画（全体） 論文作成指導
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第1回 項目 論文作成指導
 - 第2回 項目 論文作成指導
 - 第3回 項目 論文作成指導
 - 第4回 項目 論文作成指導
 - 第5回 項目 論文作成指導
 - 第6回 項目 論文作成指導
 - 第7回 項目 論文作成指導
 - 第8回 項目 論文作成指導
 - 第9回 項目 論文作成指導
 - 第10回 項目 論文作成指導
 - 第11回 項目 論文作成指導
 - 第12回 項目 論文作成指導
 - 第13回 項目 論文作成指導
 - 第14回 項目 論文作成指導
 - 第15回 項目 論文作成指導
- 成績評価方法（総合） 論文発表
- 教科書・参考書 教科書：使用しない

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	恒吉徹三				

- 授業の概要 演習は、受講者の発表を中心にすすめる。自ら実施した調査データ結果に基づいて考察を行い、研究課題の取り組みについてのまとめを行う。特に、臨床心理学分野での研究の位置付け、心理臨床への貢献についても視野に入れてすすめていく。／検索キーワード 結果の考察、研究を意味付ける、心理臨床への貢献
- 授業の一般目標 受講者が設定した研究課題について、実際にデータ収集を行い、結果を整理する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：心理学および臨床心理学の知識について十分に理解できる。思考・判断の観点：事象を心理学の観点からとらえることができる。技能・表現の観点：臨床心理学的観点から自らの関心を記述し表現できる。
- 授業の計画（全体） まず、各自が設定した課題について発表し、さらに研究テーマを明確にするための議論を重ねる。その上で、実際にデータ収集を行い、この結果について議論する。
- 教科書・参考書 教科書：指定しない／参考書：必要に応じてしめす

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	堂野佐俊				

- 授業の概要 修士1年次前期・後期、及び2年次前期に引き続き、かなり具体的にになった修士論文の作成を進展させる中で、具体的・現実的課題・問題に対して、個別的な討議と相談を繰り返し、えんかつな論文作成へと向かう。／検索キーワード 心理学、発達心理学、臨床心理学、家族心理学
- 授業の一般目標 修士1年次前期・後期、及び2年次前期に引き続き、かなり具体的にになった修士論文の作成を進展させる中で、具体的・現実的課題・問題に対して、個別的な討議と相談を繰り返し、えんかつな論文作成へと向かう。
- 授業の計画（全体） 修士1年次前期・後期、及び2年次前期に引き続き、かなり具体的にになった修士論文の作成を進展させる中で、具体的・現実的課題・問題に対して、個別的な討議と相談を繰り返し、えんかつな論文作成へと向かう。
- 成績評価方法（総合） 毎回の資料に基づいた発表の内容が評価の中心となるが、出席状況や意欲・態度も評価の対象となる。
- 教科書・参考書 教科書： 特には指定しません。／参考書： その都度指示します。
- メッセージ 有意義な修士論文の作成に向けて、自主的・積極的に取り組んで下さい。
- 連絡先・オフィスアワー 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	名島潤慈				

- 授業の概要 学生さん自身が関心を抱いている臨床心理学的テーマについて深く広く考究します。／検索キーワード 臨床心理学。心理テスト。心理療法。
- 授業の一般目標 臨床心理学とは何かを会得してもらいます。
- メッセージ レポート発表がたくさんありますので、がんばって下さい。修士論文の仕上げの時期でもあります。一步一步着実に研究を進めていって下さい。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	福田廣				

国語教育専修

開設科目	国語科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤原マリ子				

- 授業の概要 今日の国語科教育が抱える諸問題のうちから、各自の研究テーマに沿った課題を選び、教材・指導方法・評価法等について、史的検証を交えつつ考究してゆく。／検索キーワード 国語教育、学習指導方法、教科書史
- 授業の一般目標 (1) 国語科教育が抱える今日的課題について認識を深め、自分の見解をまとめて適切に発表する技能を身につける。(2) 先行研究に学びつつ、広い視野から学習改善の方途を探る態度を修得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1 今日の国語科教育が抱える課題についてその背景を理解し、説明することができる。 思考・判断の観点： 1 問題点について広い視野から考察し、検討することができる。 関心・意欲の観点： 1 国語科教育の今日的課題について深い関心を持ち、実際の授業改善に活かす意欲をもつ。 態度の観点： 1 様々な問題について主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 1 考察の結果を口答や文章で適切に表現することができる。
- 授業の計画(全体) 国語科が抱える多様な問題について、各自の研究テーマに沿った観点からそれぞれ課題を選び、順次、ゼミ形式で、発表、自由討議により検討を加えてゆく。
- 成績評価方法(総合) 授業中の担当課題の発表、自由討議への参加の状況により評価する。
- 教科書・参考書 教科書： 特に使用せず。／参考書： 授業中に随時、紹介する。
- メッセージ 国語科教育の諸問題に幅広い関心を持ち、主体的に授業に参加することを望む。

開設科目	国語科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	長崎 伸仁				

●授業の概要 国語科教育の基礎的な考え方について学び、そのことについて話し合う。(1)～(15)

●授業の一般目標 国語科教育の基礎的な考え方に興味を持ち、積極的に先学の考え方を学ぼうとすることができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：国語科教育の理論を理解することができる。思考・判断の観点：国語科教育の理論について、深く考えることができる。関心・意欲の観点：国語科教育の理論について、興味・関心を抱くことができる。態度の観点：国語科教育の理論について、積極的に学ぼうとすることができる。

●授業の計画（全体） 国語科教育の先学の理論を読み合い、討議する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 討議

第 3 回 項目 討議

第 4 回 項目 討議

第 5 回 項目 討議

第 6 回 項目 討議

第 7 回 項目 討議

第 8 回 項目 討議

第 9 回 項目 討議

第 10 回 項目 討議

第 11 回 項目 討議

第 12 回 項目 討議

第 13 回 項目 討議

第 14 回 項目 討議

第 15 回 項目 討議

開設科目	国語科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤原マリ子				

- 授業の概要 国語科教育の理論や実践に関する先行研究論文や実践記録等を参照しつつ、今日的課題の解決に努める。各自の研究テーマに沿って課題を選択し、模擬授業やレジメの作成・発表を行う。自由討議を経て、研究の深化を図る。／検索キーワード 国語科教育
- 授業の一般目標 (1) 発表・自由討議を経て、広い視野を培い、各自の研究を深める。(2) 研究成果を、実際の学習指導の改善に活かす方途を探る。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1 国語科教育の諸問題の背景について説明できる。思考・判断の観点：1 問題点を指摘し、考察を加えることができる。関心・意欲の観点：1 国語科の諸問題に深い関心を持ち、実際の学習改善に活かす強い意欲をもつ。態度の観点：1 広い視野から、課題を検討することができる。技能・表現の観点：1 自己の見解を文章や口答で、適切に表現することができる。
- 授業の計画(全体) 国語科の諸問題について、各自の研究テーマに沿った課題を決定し、各自が分担して、ゼミ形式で発表・討議・批評を行ってゆく。
- 成績評価方法(総合) 授業中の発表および自由討議への参加状況から評価する。
- 教科書・参考書 参考書：授業中に随時、紹介する。
- メッセージ 明確な目的意識をもって、主体的に授業に参加することを望む。
- 連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語科教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	長崎 伸仁				

- 授業の概要 国語科教育の先学の理論について読み、発表する。
- 授業の一般目標 国語科教育の先学の理論について、理解し、自分の実践に生かしていくことができる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：国語科教育の先学の理論について、理解することができる。思考・判断の観点：国語科教育の先学の理論について学び、現在の理論と比較・対照することができる。関心・意欲の観点：国語科教育の先学の理論を学ぼうという興味・関心を抱くことができる。態度の観点：国語科教育の先学の理論を、自分の実践に積極的に生かしていこうとすることができる。
- 授業の計画（全体）国語科教育の先学の理論を読み、演習形式での授業を行う。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 発表・討議
- 第 3 回 項目 発表・討議
- 第 4 回 項目 発表・討議
- 第 5 回 項目 発表・討議
- 第 6 回 項目 発表・討議
- 第 7 回 項目 発表・討議
- 第 8 回 項目 発表・討議
- 第 9 回 項目 発表・討議
- 第 10 回 項目 発表・討議
- 第 11 回 項目 発表・討議
- 第 12 回 項目 発表・討議
- 第 13 回 項目 発表・討議
- 第 14 回 項目 発表・討議
- 第 15 回 項目 発表・討議

開設科目	国語学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	有元光彦				

●授業の概要 本授業は、日本語の文法教育の実態を調査研究し、それを踏まえて、斬新な文法教育教材を開発することを目的とする。／検索キーワード 日本語、文法、教育、教材

●授業の一般目標 (1) 日本の文法教育の実態を考察できる。(2) 文法教育教材の開発に高い関心を示し、主体的に考えることができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 日本の文法教育の実態を調査し、体系的に分析できる。 関心・意欲の観点： 1. 文法教育教材の開発に新たな観点から参加することができる。

●授業の計画(全体) 日本の小中学校で使用されている教科書における文法項目の記述を分析し、その内容について議論していく。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 研究態度 (1)
- 第 3 回 項目 研究態度 (2)
- 第 4 回 項目 実態研究 (1) 内容 教科書研究
- 第 5 回 項目 実態研究 (2) 内容 教科書研究
- 第 6 回 項目 実態研究 (3) 内容 教科書研究
- 第 7 回 項目 実態研究 (4) 内容 教科書研究
- 第 8 回 項目 実態研究 (5) 内容 教科書研究
- 第 9 回 項目 実態研究 (6) 内容 教科書研究
- 第 10 回 項目 実態研究 (7) 内容 教科書研究
- 第 11 回 項目 実態研究 (8) 内容 教科書研究
- 第 12 回 項目 実態研究 (9) 内容 教科書研究
- 第 13 回 項目 発展 (1) 内容 問題点・課題
- 第 14 回 項目 発展 (2) 内容 教材開発準備
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法(総合) (1) 調査研究・発表の仕方を評価する。(2) 授業中の議論への参加度を評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：教科書はなし。／参考書：授業中に適宜指示する。

●メッセージ 先入観を捨ててください。

●連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国語学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	有元光彦				

●授業の概要 本授業は、前期開講の「国語学特論 I」を踏まえて、斬新な観点からの文法教育教材を開発することを目的とする。受講生自らが開発した教材のプレゼンテーション及びそれに対する議論が中心となる。／検索キーワード 日本語、方言、教育、教材

●授業の一般目標 (1) 新しい観点からの文法教育教材を創造できる。(2) 提示された教材に対し、主体的に討議できる。(3) 文法教育教材の開発に高い関心を示す。

●授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 1. 斬新な観点からの文法教育教材を段階的に組み立てることができる。 2. 提示された教材に対し、論理的に討議できる。 関心・意欲の観点： 1. 文法教育教材の開発に意欲的に参加できる。

●授業の計画（全体） 各自が作成した文法教育教材を提示し、それに対して議論を重ねていく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 教材開発準備 (1) 内容 目的、目標、ツール
- 第 3 回 項目 教材開発準備 (2) 内容 研究計画
- 第 4 回 項目 教材開発準備 (3)
- 第 5 回 項目 教材開発 (1) 内容 発表
- 第 6 回 項目 教材開発 (2) 内容 発表
- 第 7 回 項目 教材開発 (3) 内容 発表
- 第 8 回 項目 教材開発 (4) 内容 発表
- 第 9 回 項目 教材開発 (5) 内容 発表
- 第 10 回 項目 教材開発 (6) 内容 発表
- 第 11 回 項目 教材開発 (7) 内容 発表
- 第 12 回 項目 教材開発 (8) 内容 発表
- 第 13 回 項目 教材開発 (9) 内容 発表
- 第 14 回 項目 教材開発 (10) 内容 発表
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 問題点、課題、展望

●成績評価方法（総合） (1) 教材開発結果・発表の仕方を評価する。(2) 授業中の議論への参加度を評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：教科書はなし。／参考書：授業中に適宜指示する。

●メッセージ 先入観を捨ててください。

●連絡先・オフィスアワー arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国語学特論 III	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	中野伸彦				

●授業の概要 国語史上における近世語、主として江戸語に関わる問題点について、いくつかのテーマをとりあげて考えていく。受講者にも、それぞれが興味を持ったテーマについての調査を行ってもらい、その結果の発表とそれに対する討議を行ないながら、授業を進めていく。／検索キーワード 国語史、江戸語

●授業の一般目標 国語史上の近世語について、理解を深める。日本語を歴史的に見ることへの関心を高める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：国語史上の近世語について、理解を深める。 関心・意欲の観点：日本語を歴史的に見るに関心を持つ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 国語史上の江戸語（1）
- 第 3 回 項目 国語史上の江戸語（2）
- 第 4 回 項目 国語史上の江戸語（3）
- 第 5 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（1）
- 第 6 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（2）
- 第 7 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（3）
- 第 8 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（4）
- 第 9 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（5）
- 第 10 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（6）
- 第 11 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（7）
- 第 12 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（8）
- 第 13 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（9）
- 第 14 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（10）
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語学特論演習 III	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	中野伸彦				

●授業の概要 演習形式で、近世の国語資料を読みながら、そこにあらわれた問題について考えていく。/
検索キーワード 近世語、資料についての調査

●授業の一般目標 資料を基に、言葉について考えていく方法を身につける。

●授業の到達目標 / 思考・判断の観点：資料を基に、言葉について考えていくことができる。

●授業の計画（全体） 受講生の発表及びそれに対する討議という形で授業を進めていく。

●授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要、発表の分担決め
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議（1）
- 第 3 回 項目 発表とそれについての討議（2）
- 第 4 回 項目 発表とそれについての討議（3）
- 第 5 回 項目 発表とそれについての討議（4）
- 第 6 回 項目 発表とそれについての討議（5）
- 第 7 回 項目 発表とそれについての討議（6）
- 第 8 回 項目 発表とそれについての討議（7）
- 第 9 回 項目 発表とそれについての討議（8）
- 第 10 回 項目 発表とそれについての討議（9）
- 第 11 回 項目 発表とそれについての討議（10）
- 第 12 回 項目 発表とそれについての討議（11）
- 第 13 回 項目 発表とそれについての討議（12）
- 第 14 回 項目 発表とそれについての討議（13）
- 第 15 回 項目 発表とそれについての討議（14）

●成績評価方法（総合） 授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国文学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	吉村誠				

●授業の概要 古典文学と教材についての講義を行う。古典教材として古典をとらえたばあい、そのねらいは何か、どのようなことに注意を払うべきかを具体的なテキストを中心に考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 古典文学の概要 1
- 第 2 回 項目 古典文学の概要 2
- 第 3 回 項目 古典文学の概要 3
- 第 4 回 項目 古典文学の概要 4
- 第 5 回 項目 文学研究と教材研究 1
- 第 6 回 項目 文学研究と教材研究 2
- 第 7 回 項目 文学研究と教材研究 3
- 第 8 回 項目 文学研究と教材研究 4
- 第 9 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 1
- 第 10 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 2
- 第 11 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 3
- 第 12 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 4
- 第 13 回 項目 各論 1
- 第 14 回 項目 各論 2
- 第 15 回 項目 各論 3

開設科目	国文学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	吉村誠				

●授業の概要 古典文学教材を中心に、受講者の個々の興味や疑問点のあるところを対象とした演習形式の授業を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 受講者の問題意識確定
- 第 2 回 項目 受講者の問題意識確定
- 第 3 回 項目 受講者の問題意識確定
- 第 4 回 項目 問題への取り組み
- 第 5 回 項目 問題への取り組み
- 第 6 回 項目 問題への取り組み
- 第 7 回 項目 問題の解決
- 第 8 回 項目 問題の解決
- 第 9 回 項目 問題の解決
- 第 10 回 項目 発表
- 第 11 回 項目 発表
- 第 12 回 項目 発表
- 第 13 回 項目 最終まとめ
- 第 14 回 項目 最終まとめ
- 第 15 回 項目 最終まとめ

開設科目	国文学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	林 恒徳				

●授業の概要 「平家物語」を中心に、併せて「義経記」を視野に入れて中世軍記物文学の一端を講ずる。本年は「平家物語」を平家に対する源氏に焦点を当てて、源氏に関わる章段を中心に読んでゆく。「平家物語」において、源氏の武将として、その活躍が語られる筆頭は義経である。そこで、後に成立した「義経記」にも触れて、義経像の形像について、比較検討を試るつもりである。／検索キーワード 「平家物語」、義経

●授業の一般目標 中高の古典教材として選ばれることの多い「平家物語」の読みをより確かなものにすると共に、中世文学に対する知見を広める。

●授業の計画（全体） 後期の特論演習を踏まえて、作品（源氏に関わる章段を中心に）を具体的に読解し、批評するという形で進める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 「平家物語」とは (1) 内容 「平家物語」について成立の問題、語りの方等について講ずる 授業記録 資料配布

第 2 回 項目 「平家物語」とは (2) 内容 作品世界について

第 3 回 項目 源氏に関わる章段 内容 源氏に関わる章段を確認する

第 4 回 項目 同上 内容 同上

第 5 回 項目 作品の読解と批評 (1) 内容 源氏の系譜の確認と、読解と批評 授業外指示 配布資料に目を通しておくこと 授業記録 資料配布

第 6 回 項目 作品の読解と批評 (2) 内容 読解と批評

第 7 回 項目 作品の読解と批評 (3)

第 8 回 項目 作品の読解と批評 (4)

第 9 回 項目 作品の読解と批評 (5)

第 10 回 項目 作品の読解と批評 (6)

第 11 回 項目 前回までのまとめ 内容 義経の人物造型を中心に。

第 12 回 項目 「義経記」概説 授業外指示 配布資料に目を通しておくこと 授業記録 資料配布

第 13 回 項目 「義経記」本文の読解と批評 内容 選択した数章段

第 14 回 項目 同上 内容 同上

第 15 回 項目 まとめ 内容 源氏に関わる章段に焦点を当てて読むことの有効性の確認

●成績評価方法（総合） 1. 期末にレポート提出を求め、主としてそれによって評価する。 2. 2～3 回、小レポートの提出を求める。

●教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する／参考書：『平家物語』、木下順二、岩波書店、1985 年

開設科目	国文学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	林 恒徳				

●授業の概要 前期特論を踏まえて、受講者のレポートと、こちらから選んだテーマについての討議とを中心に進める。／検索キーワード 「平家物語」と「義経記」

●授業の一般目標 1) 「平家物語」を通して、古典教材の、より正確な理解力を養う。2) 古典教材の教授力を高める。

●授業の計画（全体） 1) 「平家物語」と「義経記」に関わるいくつかのテーマないしは話題を出し、それについて資料等を踏査しつつ討議する。2) 受講者によるレポート

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業の進め方について 授業記録 資料配布

第 2 回 項目 関係資料の紹介と解説

第 3 回 項目 テーマの提示とそれについての討議 内容 登場人物の造型 (1)～清盛と重盛～

第 4 回 項目 同上 内容 登場人物の造型 (2)～宗盛と知盛～

第 5 回 項目 同上 内容 登場人物の造型 (3)～義経～

第 6 回 項目 同上 内容 登場人物の造型 (4)～女性たちの物語～

第 7 回 項目 同上 内容 語りの方方法～合戦場面を中心に～

第 8 回 項目 研究発表（レポート）

第 9 回 項目 同上

第 10 回 項目 同上

第 11 回 項目 同上

第 12 回 項目 同上

第 13 回 項目 同上

第 14 回 項目 まとめ

第 15 回 項目（予備にあてる）

●成績評価方法（総合） 1) 討議での発言（発表）(20%) 2) 研究発表（レポート）(80%)

●教科書・参考書 教科書：適宜、資料を配布する。

開設科目	国文学特論 III	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	村上林造				

- 授業の概要 小説を読むための前提となる基本的な知識を解説し、作品評価の基準となる人間観、価値観の歴史の変遷を、実際の作品を分析しつつ追跡する。
- 授業の一般目標 小説読解上での基本的知識をもち、自己の作品に対する価値観を相対的に見ようとする姿勢を獲得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：近代小説理解のうえでの基本的な前提となる知識を持つ。思考・判断の観点：作品に対して主体的に向かい合う中で、自分自身の価値観を意識化しようとする姿勢をもつ。技能・表現の観点：自己の作品理解を口頭やレポートで表現することができる。
- 授業の計画（全体）時間の許す限りなるべく多彩な論点、作家、作品を選んで、議論の幅を広げるよう、留意したい。
- 成績評価方法（総合）授業中での発表と、学期末のレポートを総合的に評価する。

開設科目	国文学特論演習 III	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	村上林造				

- 授業の概要 近代小説の中から幾つかを選び、その作品についての討議を中心として授業を進める。教師の作品解釈を受身で聞くのではなく、学生諸君自身の解釈をもとに、主体的な姿勢で授業に参加してくれることを求める。
- 授業の一般目標 客観的作品分析をもとにして、小説が表現していることを正確に把握する力を養うとともに、その作品が、読者である自分自身にとってどういう意味をもつのか、主体的に受け止める姿勢を身につける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：小説分析のための基本的な知識を身につける。思考・判断の観点：作品の意味を自分の問題意識と重ねて主体的に考える思考態度を身につける。技能・表現の観点：自分の解釈や感動を口頭やレポートで表現することができる。
- 授業の計画（全体）なるべく多様な作家と作品を取り上げ、受講生諸君の視野を広められるよう、配慮したい。
- 成績評価方法（総合）授業内レポート、授業外レポート、授業態度や授業への参加度を総合的に評価する
- 備考 集中授業

開設科目	漢語漢文学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	南部英彦				

- 授業の概要 本年は、『後漢書』東夷伝と魏志倭人伝とを材料に、中国正史に描かれる古代日本の姿を考察する。まずは史書について一定の予備知識を得つつ、担当制により精読する。／検索キーワード 中国人の描いた日本
- 授業の一般目標 中国の古代（唐代以前）に焦点を合わせ、文献を通して、その時代の文学・思想、科学技術、文化の実態等を考察する。併せて、レジメを作成することを通して、漢文資料を精読するためのより深い知識を得る。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：資料読解に当たり、十分な知識・情報を得、それを自分なりに十分理解しているか。思考・判断の観点：資料読解に当たり、十分に自分の思考を駆使・展開できているか。
- 授業の計画（全体）1ガイダンス2～5時代背景等概説6～15担当制による「詠懐詩」の講読レジメ作成の仕方については、授業中に指示する。
- 成績評価方法（総合）基本的には、レジメ発表の内容と、それに対する討議の姿勢とを勘案して行う。場合によっては、学期末にレポートを書いてもらうこともある。
- 教科書・参考書 教科書：テキストを授業中に配布する。
- メッセージ 漢和辞典を一冊用意されたい。

開設科目	漢語漢文学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	南部英彦				

- 授業の概要 本年は、東晋・葛洪の編になる『神仙伝』を選読し、古代中国において「神仙」というものがいかに考えられていたのか、について一般的な理解を得る。また、必要に応じて、葛洪『抱朴子』や劉向『列仙伝』にも触れる。／検索キーワード 神仙の世界
- 授業の一般目標 中国古典の中で特異な地位を占める史書、文学書、思想書を精読し、時代性や思想構造及び表現形式の特徴を考察する。併せて、生の漢文資料に触れることで、辞書類を駆使することで、自力で漢文が読めるようになることを、実感としてつかむ。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：発表に当たり、資料読解に必要な知識・情報を得、それに基づいて自分なりの理解が得られているか。思考・判断の観点：発表に当たり、綿密な資料の読解に基づいた自分なりの思考が展開できているか。
- 授業の計画（全体）1ガイダンス 2～3レジメ作成のための予備的解説 4～15担当制による講読 レジメの作成の仕方は、授業中に指示する。場合によっては、レポートを課すことがある。
- 成績評価方法（総合）授業中でのレジメによる発表と他の受講者に対する討議の姿勢を勘案して行う。
- 教科書・参考書 教科書：授業中にテキストを配布する。／参考書：授業中に指示する。
- メッセージ 漢和辞典を一冊用意されたい。

開設科目	国語科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	藤原マリ子				

●授業の概要 課題研究で取り組んでいるテーマを主とした授業実践を、附属小学校や中学校で実施する。／
検索キーワード 学習指導案

●授業の一般目標 ・国語科教育理論と実践との融合を図り、学習指導改善の一助とする。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点：自分の研究課題を客観的に理解する。 思考・判断の観点：自分の研究課題を実践化するための工夫ができる。 関心・意欲の観点：どのようにすれば、理論と実践が融合できるか興味・関心を持つことができる。 態度の観点：積極的に実践化に向け取り組むことができる。 技能・表現の観点：授業実践に於いて、適切に言語活動を行うことができる。

●授業の計画（全体） 各自の研究課題に基づき学習指導案を立案し、全員で討議・検討して改善を図る。附属小・中学校等での実践の後も、全員で検討を加え、よりよい学習指導案の作成に努める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 指導案作成→討議
- 第3回 項目 指導案作成→討議
- 第4回 項目 指導案作成→討議
- 第5回 項目 指導案作成→討議
- 第6回 項目 指導案作成→討議
- 第7回 項目 附属学校での実践→討議
- 第8回 項目 附属学校での実践→討議
- 第9回 項目 附属学校での実践→討議
- 第10回 項目 附属学校での実践→討議
- 第11回 項目 附属学校での実践→討議
- 第12回 項目 附属学校での実践→討議
- 第13回 項目 討議
- 第14回 項目 討議
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 授業実践の結果により評価する。

●連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語科教育支援実践研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	吉村誠				

●授業の概要 学校教育現場または学校以外の教育関連機関等で、社会教育、ボランティア活動等の教育支援活動を行う

●授業の一般目標 日本の学校や社会に興味・関心を抱き、積極的に学ぼうとする態度を養う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本の学校や社会に興味・関心を抱き、積極的に理解をしようとする。思考・判断の観点：日本の学校や社会について、自国の文化や風習等の違いについて深く考えることができる。関心・意欲の観点：日本の学校や社会について、積極的に興味・関心を抱くことができる。態度の観点：日本の学校や社会について、積極的に自分の研究に生かそうとすることができる。

●授業の計画（全体） 日本の学校や社会施設等を訪問し、日本の教育や文化について学ぶ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第3回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第4回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第5回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第6回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第7回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第8回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第9回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第10回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第11回 項目 学んだ事についての討議
- 第12回 項目 学んだ事についての討議
- 第13回 項目 学んだ事についての討議
- 第14回 項目 学んだ事についての討議
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	藤原マリ子				

●授業の概要 修士論文作成に向けて、必要な支援を行う。国語科の諸問題の中から各自が設定したテーマに基づき発表を行い、全員で討議を加えて課題理解の深化を図る。／検索キーワード 国語科教育・論文の書き方

●授業の一般目標 (1) 国語科教育の諸問題の中から修士論文のテーマを決定する。(2) 各自が設定したテーマに基づき、問題点を洗い出し、調査・検討を加え、文章にまとめる研究の基本的技能を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：国語科教育の諸問題について概要を説明できる。思考・判断の観点：課題について多角的視野から考察することができる。関心・意欲の観点：課題について強い関心と問題意識を持つことができる。態度の観点：主体的に研究に取り組むことができる。技能・表現の観点：自己の見解を口頭や文章で適切に表現する事ができる。

●授業の計画(全体) 国語科教育の諸問題のうちから各自が設定したテーマに基づき発表し、全員で自由討議を加えて、各自の課題への理解を深めてゆく。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 授業概説 内容 授業の進め方について

第2回 項目 演習発表・討議 内容 演習発表・討議

第3回 項目 同上 内容 同上

第4回 項目 同上 内容 同上

第5回 項目 同上 内容 同上

第6回 項目 同上 内容 同上

第7回 項目 同上 内容 同上

第8回 項目 同上 内容 同上

第9回 項目 同上 内容 同上

第10回 項目 同上 内容 同上

第11回 項目 同上 内容 同上

第12回 項目 同上 内容 同上

第13回 項目 同上 内容 同上

第14回 項目 同上 内容 同上

第15回 項目 同上 内容 同上

●成績評価方法(総合) 発表や授業への参加状況により評価する。

●教科書・参考書 参考書：授業中に随時紹介する。

●メッセージ 問題意識をもって意欲的に研究活動に取り組んでください。

●連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	藤原マリ子				

- 授業の概要 修士論文作成に向けて、必要な支援を行う。国語科の諸問題の中から各自の研究テーマを決定し、発表・討議を経て、課題の深化を図る。／検索キーワード 国語科教育
- 授業の一般目標 (1) 修士論文作成に向けて、各自の研究課題を決定する。(2) 先行研究の概要を把握する。(3) 発表と討議を通じて、広い視野から考察し問題解決にあたる研究態度を培う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：各自の課題の先行研究の概要を説明できる。思考・判断の観点：課題について、幅広い視点から問題点を指摘することができる。関心・意欲の観点：主体的な問題意識をもって課題に取り組むことができる。態度の観点：積極的かつ意欲的に課題解決に取り組むことができる。技能・表現の観点：自己の見解を口頭や文章で発表することができる。
- 授業の計画(全体) 授業はゼミ形式で、発表および自由討議により実施する。
- 成績評価方法(総合) 発表および自由討議への参加状況により評価する。
- メッセージ 積極的に研究活動に取り組んでください。
- 連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	藤原マリ子				

- 授業の概要 修士論文作成に向けて必要な支援を行う。ゼミ形式で、発表と自由討議により、各自の課題の深化を図る。
- 授業の一般目標 (1) 研究の基本的技能を修得し、修士論文の枠組みを示すことができる。(2) 国語科教育の理論を実際の授業改善に活かす視点を身につける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：各自の課題について先行研究の概要を説明できる。思考・判断の観点：問題点について、広い視野から考察し検討することができる。関心・意欲の観点：国語科教育の諸問題について深い関心を持ち、実際の授業改善に活かす意欲を持つ。態度の観点：研究に意欲的に取り組むことができる。技能・表現の観点：自己の見解を口頭や文章で適切に表現することができる。
- 授業の計画(全体) 発表および自由討議・批評により、各自の課題を深めてゆく。
- 成績評価方法(総合) 発表および討議への参加状況により総合的に評価する。
- 教科書・参考書 参考書：授業中に随時紹介する。
- メッセージ 主体的に研究活動に取り組んでください。
- 連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	藤原マリ子				

- 授業の概要 修士論文作成に向けて、各自の課題に応じた支援を行う。ゼミ形式で発表・討議・批評を繰り返すことにより、各自のテーマの深化を図る。
- 授業の一般目標 (1) 資料収集・調査方法、問題解決の方法、論文の書き方、発表の仕方等の、研究の基本的技能を身につけ、修士論文を完成させる。(2) 国語科教育理論を実際の授業改善に役立てる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 各自の研究課題の先行研究の概要を説明できる。 思考・判断の観点： 問題点について、広い視野から考察し、検討を加えることができる。 関心・意欲の観点： 国語科の諸問題について深い関心を持ち、実際の授業改革に活かす意欲をもつ。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。 技能・表現の観点： 自己の見解を口頭や文章で適切に表現することができる。
- 授業の計画(全体) ゼミ形式で、発表と自由討議により、各自の課題を深める。
- 成績評価方法(総合) 授業中の発表および討議への参加状況により評価する。
- 教科書・参考書 参考書： 随時、授業中に紹介する。
- メッセージ 各自の研究課題に意欲的に取り組んでください。

社会科教育専修

開設科目	社会科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	外山英昭				

●授業の概要 生徒が主体的に学ぶ討論学習などを具体的な実践事例を取り上げ、社会科の教材選択の視点や授業方法の改善の課題などを検討する。／検索キーワード 討論授業 歴史認識 仮説—検証

●授業の一般目標 具体的な題材・単元を取り上げ、生徒が主体的に学び、しかも豊かな社会認識が育つためにはどのような授業方法が求められるかをさぐる。

●授業の計画（全体） 各自が、具体的な題材・単元を選び、生徒が主体的に学び、豊かな社会認識が育つ授業の工夫を探る。そのために、題材・単元の内容理解を踏まえて、実践事例を分析・整理する。その上で、生徒が主体的に学んだ契機・要因を探り、そこで発揮された教師の指導性を明らかにする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 討論授業とは

第 3 回 項目 実践事例の紹介 1

第 4 回 項目 実践事例の検討 1

第 5 回 項目 実践事例の紹介 2

第 6 回 項目 実践事例の検討 2

第 7 回 項目 実践事例の紹介 3

第 8 回 項目 実践事例の検討 3

第 9 回 項目 資料の選択、討論の組織化について

第 10 回 項目 実践事例の紹介 4

第 11 回 項目 実践事例の検討 4

第 12 回 項目 実践事例の紹介 5

第 13 回 項目 実践事例の検討 5

第 14 回 項目 実践事例の紹介 6

第 15 回 項目 実践事例の検討

●成績評価方法（総合）（1）宿題/授業外レポート＝20％・加藤公明（「考える日本史授業」）実践の中から、単元を選び、分析・整理した上で、演習で発表する。・フロアの意見を踏まえ、加筆修正する。（2）演習＝80％

●連絡先・オフィスアワー 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	社会科教育特論 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	吉川幸男				

●授業の概要 古今内外のさまざまな社会科授業実践における内容構成と学習過程の理論と実際について、認識論、学習論、発達論などの観点から分析検討する。

●授業の一般目標 1. 学校における社会科授業実践のみならず、さまざまなメディア媒体による社会認識形成的な営みに対し、社会認識形成の視点から分析検討できるようになる。2. 上記の分析検討成果に立って、新たな社会認識教育構想への視点を提言できる。

●授業の到達目標／ 思考・判断の観点：分析対象となる資料に対し、社会認識形成の視点から分析考察できる。 関心・意欲の観点：社会認識にかかわる対象を自ら見出し、独自の分析観点を提案できる。 態度の観点：毎回の授業に出席している。 技能・表現の観点：論点を明確にした議論可能な発表資料を作成でき、発表できる。

●授業の計画（全体）本授業は演習形式であり、内容は受講者の設定する問題によって変わってくる。以下に示すものは一つの事例である。1. 社会認識形成の営み 2. 社会認識形成の機能を負うもの（古今内外の社会科授業、新聞雑誌TV等メディア媒体、博物館資料館その他）3. 社会事象提示型の授業やメディア 4. 物語構成型の授業やメディア 5. 構造分析型の授業やメディア 6. 意味付与型の授業やメディア 7. 社会事象提示型の授業やメディアの分析検討 8. 物語構成型の授業やメディアの分析検討 9. 構造分析型の授業やメディアの分析検討 10. 意味付与型の授業やメディアの分析検討 11. 各分析対象の比較検討（1）12. 各分析対象の比較検討（2）13. メディアを生かした社会認識教育の構想（1）14. メディアを生かした社会認識教育の構想（2）15. 小論文作成

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教材研究と社会 科教科論の動向
- 第 2 回 項目 教材研究と社会 科内容構成論の 動向
- 第 3 回 項目 特定教材に関する先行実践の分 析と検討（1）
- 第 4 回 項目 特定教材に関する先行実践の分 析と検討（2）
- 第 5 回 項目 特定教材に関する資料収集と検 討（1）
- 第 6 回 項目 特定教材に関する資料収集と検 討（2）
- 第 7 回 項目 教科書・資料集 等既存教材に關 する研究動向
- 第 8 回 項目 特定教材に關 する教科書・資料 集等既存教材の 検討
- 第 9 回 項目 内容構成論の検 討と内容構成試 案（1）
- 第 10 回 項目 内容構成論の検 討と内容構成試 案（2）
- 第 11 回 項目 社会科単元構成 論、学習過程論 の動向（1）
- 第 12 回 項目 社会科単元構成 論、学習過程論 の動向（2）
- 第 13 回 項目 研究教材による 単元構成の検討 （1）
- 第 14 回 項目 研究教材による 単元構成の検討 （2）
- 第 15 回 項目 最終単元構成案 の作成

●成績評価方法（総合）出席点、発表時の資料、最終小論文を総合して評価する

●教科書・参考書 教科書：特に定めない／参考書：設定された問題に応じて随時紹介する

●メッセージ 本授業は演習であり、積極的な発表と発言が求められる。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・研究室前に表示

開設科目	社会科教育特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	外山英昭・吉川幸男				

- 授業の概要 子ども主体の学びを創造する立場からの社会科教育論を歴史的・理論的に考察するとともに、社会科授業構成、指導方法の実際について検討する／検索キーワード 社会科教育 社会認識 授業づくり
- 授業の一般目標 すぐれた社会科実践者の実践を系統的に取り上げ、その実践の背後にある社会科観、子ども観を精査する。個別事例の分析検討を通して、今日求められる社会科教育のあり方を探る。
- 授業の計画（全体）受講者の関心に沿って、実践者を取り上げ、その代表的な実践を検討しながら、その実践を定位づける。演習形式。
- 連絡先・オフィスアワー 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木56

開設科目	日本史学特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	森下徹				

●授業の概要 歴史学の方法に関する基本的な文献を輪読する。

開設科目	西洋史学特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	岩崎好成				

●授業の概要 ファシズム（全体主義）をどう捉え、どう教えるかを念頭に、戦間期ドイツの歩みを政治史・軍事史・社会史的側面から検討し、ナチズムの思想・運動・体制の特質を論ずる。基本的には、文献講読方式で進める。但し、受講生の要望によるテーマ修正、変更の余地あり。／検索キーワード ファシズム、ナチス、自由民主主義

●授業の到達目標／知識・理解の観点：講読文献の内容を正確に理解できる 思考・判断の観点：講読文献の内容に関し、自分なりに批評することができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ナチズム思想論
- 第2回 項目 同
- 第3回 項目 ナチズム運動論
- 第4回 項目 同
- 第5回 項目 ワイマル共和国期の政治思想・運動
- 第6回 項目 同
- 第7回 項目 ナチズムの「魅力」
- 第8回 項目 同
- 第9回 項目 ナチズム体制論
- 第10回 項目 同
- 第11回 項目 ファシズム（全体主義）と自由民主主義
- 第12回 項目 同
- 第13回 項目 教科書分析・批判
- 第14回 項目 同
- 第15回 項目 まとめ

●教科書・参考書 教科書：受講生と相談の上で決定する。

●メッセージ やりたいテーマ、読みたい文献を積極的に提起してほしい。

開設科目	歴史学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	岩崎好成・森下徹				

●授業の概要 「日本史学特論」「西洋史学特論」で身に付けた知見を踏まえ、資料、論文を含む様々な史料に則して、報告形式で授業を進める。史料選択に際しては、受講生の研究テーマに配慮する。

●授業の一般目標 選択テーマに関する歴史認識を深め、研究方法、研究視角を身に付ける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：研究対象に関し、これまでの研究成果を整理して提示することができる。資料を正確に読解できる。思考・判断の観点：これまでの研究成果を分析し評価できる。資料に基づき、自らの解釈を提示できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 テーマ選択, 史料選択
- 第3回 項目 報告準備
- 第4回 項目 報告と討議
- 第5回 項目 同
- 第6回 項目 同
- 第7回 項目 同
- 第8回 項目 同
- 第9回 項目 同
- 第10回 項目 同
- 第11回 項目 同
- 第12回 項目 同
- 第13回 項目 同
- 第14回 項目 総括
- 第15回

●成績評価方法 (総合) 毎回の報告, 討論への取組み姿勢と内容を総合評価する。

開設科目	自然地理学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	貞方昇				
<p>●授業の概要 大学院修士課程レベルの学生にとっての、自然地理学的な見方・考え方を学ぶ。／検索キーワード 自然環境、土地環境、風土、文化、生活</p> <p>●授業の一般目標 大学院修士課程レベルの学生にとっての、自然地理学的な見方・考え方を学ぶ。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：受講学生の関心を考慮に入れて、必要な教科書を選択する。</p> <p>●メッセージ 地域の自然とは、そこに住む人々にとってどういう意義を持つものか考えたい。</p>					

開設科目	人文地理学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	荒木一視				

- 授業の概要 地理学や地理教育に関わる専門的知識や理論,あるいは技能について論じる。具体的な題材については,受講者の専門的方向性を考慮する。／検索キーワード 人文地理学
- 授業の一般目標 学部での授業を踏まえてより高度な人文地理学の理論,及び教育現場での実践の上での検討を行う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点: 地理学や地理教育に関わる専門的知識や理論,あるいは技能の理解と習得を目指す。思考・判断の観点: 授業を通じて,人文地理学及び地理教育に対する考察を深める。
- 授業の計画(全体) 大学院の授業でもあり,受講者の修士論文のテーマに即して,課題論文や資料を与える。
- 連絡先・オフィスアワー arakih@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部4階

開設科目	地誌学特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	Mikhova, Dimitrina				

●授業の概要 This course is rather flexible. Depends very much on the students' research interests. Some of the students get individual program of education, negotiated with the teacher. Basically it aims at exploring the world regions, their cultures and the features

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 1. How do we do research in Geography and what is the contribution of Geography in Social Education? International perspective.

第 2 回 項目 2. Kinds of regions in the world

第 3 回 項目 3. Regions, cultures and educational systems.

第 4 回 項目 4. The Greek roots of European and American (Western) culture, with perspective to education.

第 5 回 項目 5. How does a western child feel in a Japanese elementary school? - Talk and discussion.

第 6 回 項目 6. Differences in Japanese Junior High and High schools and European/American schools.

第 7 回 項目 7. How does a western teacher feel in a Japanese school? - Talk and discussion

第 8 回 項目 8. Educational systems in Europe: UK, France.

第 9 回 項目 9. Educational systems in Europe: France, Germany, and Italy.

第 10 回 項目 10. Educational systems in Europe: Eastern Europe and Russia.

第 11 回 項目 11. Diversity in educational approaches - general view.

第 12 回 項目 12. Use of Geographic Information Systems as an educational approach in Social studies.

第 13 回 項目 13. Globalization and education: home schooling, distance schooling through Internet, teamwork and individuality. Cultural perspectives.

第 14 回 項目 14. Globalization and education: the future. Discussion

第 15 回 項目 15. The teacher of the 21st century - international perspective. Discussion. 15. The teacher of the 21st century - international perspective. Discussion.

開設科目	地理学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	貞方昇・荒木一視・J. ミコバ				

- 授業の概要 大学院修士課程で地理学で修士論文を書く学生に対し、論文作成に向けた具体的な指導を行う。
- 授業の一般目標 地理学で修士論文を書く学生に対し、論文作成に直接繋がる各種の指導を行う。
- メッセージ 修士論文内容の準備に直接関わる内容を扱います。

開設科目	社会学特論	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	山本薫子				

- 授業の概要 近年の社会学における中心的な議論について文献講読を通して学ぶ。指定した文献について分担者はレジュメを用意し、ゼミ内での発表を行なう。
- 授業の一般目標 社会学の主要な概念・手法を学んだうえで、それらを用いながら現代社会に見られるさまざまな事象を読み解き分析する力を養う。
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	憲法学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	松原 幸恵				

- 授業の概要 憲法学の基本的文献の購読を行う。
- 授業の一般目標 憲法問題についての知識を深める。
- 授業の計画（全体） 毎回、学生が報告を担当し、それに基づいて議論を行う。
- 成績評価方法（総合） 報告内容の出来及び出席状況によって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：第1回目の授業時に相談して決める。／参考書：授業時に適宜紹介する。

開設科目	経済学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	来島浩				

●授業の概要 日本資本主義の生成・発展・展開過程を資本蓄積と労働市場の観点より体系的に学ぶ。前半では資本主義経済の基礎理論を学び、後半では日本資本主義の検討を行なう。

●授業の一般目標 日本資本主義の発展過程を、資本蓄積と労働市場の観点より検討する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本資本主義の生成・発展・展開について説明ができる。思考・判断の観点：なぜ日本資本主義が後発であったにも関わらず短期間に発展を遂げることができたかについて自分の意見を述べるができる。

●授業の計画（全体） 毎回下記のテキストの報告を行い、かつ報告についての議論を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 経済の歴史と発展段階について
- 第2回 項目 資本主義の発展段階Ⅰ（原始蓄積段階）
- 第3回 項目 資本主義の発展段階Ⅱ（産業資本段階）
- 第4回 項目 資本主義の発展段階Ⅲ（独占段階）
- 第5回 項目 資本主義の生産過程
- 第6回 項目 資本の蓄積と再生産
- 第7回 項目 資本主義生産の総過程
- 第8回 項目 日本資本主義の形成過程
- 第9回 項目 日本資本主義の発展過程
- 第10回 項目 戦後日本資本主義の復興過程
- 第11回 項目 日本資本主義の高度成長過程
- 第12回 項目 日本資本主義の低成長過程
- 第13回 項目 日本資本主義のバブル過程
- 第14回 項目 日本資本主義の構造的不況過程
- 第15回 項目 日本資本主義の今後

●成績評価方法（総合） 毎回の報告・議論と自分の関心のある日本資本主義の問題についてのレポートを授業の最終回に提出する。

●教科書・参考書 教科書：戦後50年の日本経済, 勝又寿良, 東洋経済, 1995年；現代資本主義と「資本論」—I, 松石勝彦他, 新日本出版社, 1991年

開設科目	社会科学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	山本薫子, 来島浩, 松原				

- 授業の概要 近年の社会科学における中心的な議論について文献講読を通して学ぶ。指定した文献について分担者はレジュメを用意し、ゼミ内での発表を行なう。
- 授業の一般目標 現代社会が抱えるさまざまな問題、矛盾を読み解き、解決策を探るための実証的分析手法の習得を目指す。
- 授業の計画（全体） 履修者と相談のうえ、テーマおよび講読文献を決定し、毎回の発表を通じて議論を行なう。

開設科目	哲学倫理学特論	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	岩本光悦				

- 授業の概要 現代ドイツ哲学における世界を解明する。／検索キーワード 世界と時間
- 授業の一般目標 フッサールとハイデガーにおける世界の概念を理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 世界とは何であることを説明できる。2. 認識と行為の根源を考え直してみる。 思考・判断の観点：1. 授業で学んだことを取り纏め、自分の立場から批判的に検討できる。 関心・意欲の観点：1. 人間とは何であることを考え直すことができる。 態度の観点：1. 学生生活の中で生きる意味を考えることができる。
- 授業の計画（全体）現象学（フッサール、ハイデガー、ヘルト、アグィーレ）における「生世界」と「生ける現在」の関係を明らかにする。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第1回 項目 フッサールの生世界1
 - 第2回 項目 フッサールの生世界2
 - 第3回 項目 ハイデガーの世界1
 - 第4回 項目 ハイデガーの世界2
 - 第5回 項目 ヘルトの世界解釈1
 - 第6回 項目 ヘルトの世界解釈2
 - 第7回 項目 アグィーレの世界解釈1
 - 第8回 項目 アグィーレの世界解釈2
 - 第9回 項目 世界と生ける現在1
 - 第10回 項目 世界と生ける現在2
 - 第11回 項目 カントの時間論
 - 第12回 項目 ヘーゲルの時間論
 - 第13回 項目 世界と時間1
 - 第14回 項目 世界と時間2
 - 第15回 項目 まとめ
- 成績評価方法（総合）授業中の議論と最後の試験で評価する。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを使用する。／参考書：フッサール現象学, A.F. アグィーレ, 法政大学出版局, 1987年；プリントを配付する。
- メッセージ 授業には必ず出席すること。

開設科目	宗教学特論	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	岡村康夫				

●授業の概要 「宗教とは何か」を宗教学的立場から明らかにする。／検索キーワード 宗教、仏教、キリスト教

●授業の一般目標 具体的な宗教的文献を読み解きながら、「宗教とは何か」を学ぶ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 仏教やキリスト教の基本的知識を獲得する。 思考・判断の観点： 「宗教とは何か」を考える。 関心・意欲の観点： 宗教に対する関心を喚起する。 態度の観点： 人生に対する真摯な態度を培う。 技能・表現の観点： 英語の読解力を養う。

●授業の計画（全体） イスラームや仏教、キリスト教の文献を読み進めながら、「宗教とは何か」を考究する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 ガイダンス。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回 内容。

第13回

第14回

第15回 項目 総まとめ

●成績評価方法（総合） 毎回のレポート報告によって評価する。

●メッセージ 原典読解を中心とした授業を行う。

開設科目	哲学倫理学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	岩本光悦, 岡村康夫				
<p>●授業の概要 フッサールの『危機書』をドイツ語で読解する。／検索キーワード 現象学的還元</p> <p>●授業の一般目標 ドイツにおける現象学の代表作を読解することを通じ、現代哲学の動向の一端を理解する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 現象学とは何であるかを説明できる。2. 現代はどのような時代であるかを説明できる。 思考・判断の観点：1. 授業で学んだことを取り纏め、自分なりに批判的に述べるができる。 関心・意欲の観点：1. 哲学にかんする関心を深め、生き方に関する反省を促すことができる。 態度の観点：1. 学生生活において人生観や世界観を考え直してみるができる。</p> <p>●授業の計画（全体） フッサールの『危機書』を通して現代哲学の問題を明らかにする。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 演習</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p> <p>●成績評価方法（総合） 授業中の議論と最後の試験とで評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：プリントを使用する。／参考書：ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学, E. フッサール, 中公文庫, 1995年；プリントを配付する。</p> <p>●メッセージ ドイツ語でテキストを読解することに慣れよう。</p>					

開設科目	社会科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	外山英昭・吉川幸男				

- 授業の概要 小・中学校の社会科教材を取り上げ、最近の専門諸科学の視点を生かした内容構成と教材開発を行う。その上で、各自独自の授業構想を立て、最終段階では、付属学校または公立学校において実際に授業を行い、社会科教育について実践的に研究する／検索キーワード 教材開発 授業構成 実践提案
- 授業の一般目標 各自が、修士論文作成に向けて研究している視点を生かして、ユニークな単元を構成したり、授業を構成する。そのプランを集団で深め、実際に学校で授業を行うことで、その可能性を検討する。
- 授業の計画（全体） 各自が、修士論文作成に向けてどのようなテーマで何を研究しているか交流する。その研究の視点を生かして、各自、実際の授業に向けた実践的な提案を準備する。出された提案をさらに具体的な研究授業などにつなげられるよう、検討する。最終的には、付属学校か派遣学校で授業を行う。
- 連絡先・オフィスアワー 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木5 6

開設科目	社会科教育支援実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	来島浩・岡村康夫・Jミ坤				

- 授業の概要 研究テーマを深化させるための実践的な研究指導をする。
- 授業の一般目標 研究テーマを完成させる。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	岩本				

●授業の概要 卒論を具体的に指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	岩本				

- 授業の概要 卒論のテーマを決めることが出来るように指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岩本				

●授業の概要 決めたテーマの下に卒論を実際に指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岩本				

●授業の概要 卒論のテーマを絞り込むように指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	外山				

- 授業の概要 修士論文作成指導／検索キーワード 課題の設定 文献の収集・選択 独自性
- 授業の一般目標 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを深める
- 授業の計画（全体） 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。論文骨子をまとめ、中間報告したあと、論文を作成する。
- 連絡先・オフィスアワー 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	外山				

- 授業の概要 修士論文作成指導／検索キーワード 課題の設定 文献の収集・選択 独自性
- 授業の一般目標 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを限定する。
- 授業の計画（全体） 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。
- 成績評価方法（総合） 演習＝100%
- 連絡先・オフィスアワー 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	外山				

- 授業の概要 修士論文指導／検索キーワード 課題の設定 文献の収集・選択 独自性
- 授業の一般目標 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを限定する。章立ておよびキーワードの確定などを通して、論文の基本構想を確定する。
- 授業の計画（全体） 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。
- 連絡先・オフィスアワー 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	外山				

- 授業の概要 修士論文指導／検索キーワード 課題の設定 文献の収集・選択 独自性
- 授業の一般目標 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを限定する。
- 授業の計画（全体） 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。
- 連絡先・オフィスアワー 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	来島				

- 授業の概要 研究テーマについての指導を行う。
- 授業の一般目標 修士論文が書けるようにする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	来島				

- 授業の概要 研究テーマについての指導をする。
- 授業の一般目標 修士論文が書けるようにする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	来島				

- 授業の概要 研究テーマについての指導を行う。
- 授業の一般目標 修士論文が書けるようにする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	来島				

- 授業の概要 研究テーマについての指導をする。
- 授業の一般目標 修士論文が書けるようにする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岡村				

●授業の概要 修士論文作成のための指導を行う。

●授業の一般目標 修士論文作成へ向け、基本テキストの読解・指導を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方、テキストなどを提示する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回 項目 総まとめ

●成績評価方法 (総合) 毎回のレポート、下調べおよび最終レポートによって総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岡村				

●授業の概要 修士論文作成のための指導をする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	岡村				

●授業の概要 修士論文作成のための指導を行う。

●授業の一般目標 毎回のレポート発表によって修士論文作成へ向けての指導をする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 先行研究調査
- 第 2 回 項目 先行研究調査
- 第 3 回 項目 先行研究調査
- 第 4 回 項目 論文作成指導
- 第 5 回 項目 論文作成のための発表
- 第 6 回 項目 論文作成のための発表
- 第 7 回 項目 論文作成のための発表
- 第 8 回 項目 論文作成のための発表
- 第 9 回 項目 論文作成
- 第 10 回 項目 論文作成
- 第 11 回 項目 論文作成
- 第 12 回 項目 論文作成
- 第 13 回 項目 論文作成
- 第 14 回 項目 論文作成
- 第 15 回 項目 論文完成へ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	岡村				

●授業の概要 修士論文作成のための指導を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山本				

- 授業の概要 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の作成に 取り組む。
- 授業の一般目標 社会学の主要な概念・手法を学んだうえで、それらを用いながら現代社会に見られるさまざまな事象を読み解き分析する力を養う。
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山本				

- 授業の概要 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の制作を念頭においた研究を行なう。
- 授業の一般目標 社会学の主要な概念・手法を学んだうえで、それらを用いながら現代社会に見られるさまざまな事象を読み解き分析する力を養う。
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	山本				

- 授業の概要 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の制作を念頭においた研究を行なう。
- 授業の一般目標 社会学の主要な概念・手法を学んだうえで、それらを用いながら現代社会に見られるさまざまな事象を読み解き分析する力を養う。
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	山本				

- 授業の概要 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の制作を念頭においた研究を行なう。
- 授業の一般目標 社会学の主要な概念・手法を学んだうえで、それらを用いながら現代社会に見られるさまざまな事象を読みとき分析する力を習得する。
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	荒木				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	荒木				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	荒木				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	荒木				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	森下				

●授業の概要 修士論文作成に向けて各自の研究報告を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	森下				

●授業の概要 修士論文作成に向けて各自の研究報告を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	森下				

●授業の概要 修士論文作成に向けて各自の研究報告を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	森下				

●授業の概要 修士論文作成に向けて各自の研究報告を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	ミホバ				

- 授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体） 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合） 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	ミホバ				

- 授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体） 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合） 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	ミホバ				

- 授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体） 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合） 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	ミホバ				

- 授業の概要 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 思考・判断の観点： 各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 態度の観点： 様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体） 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合） 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	貞方				

●授業の一般目標 修士論文作成に直結する課題を取り上げ、専門的な調査・研究を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	貞方				

- 授業の一般目標 修士論文作成に直結する課題を取り上げ、専門的な調査・研究を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	貞方				

●授業の一般目標 修士論文作成に直結する課題を取り上げ、専門的な調査・研究を行う。

●備考 隔年開講

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	貞方				

- 授業の一般目標 修士論文作成に直結する課題を取り上げ、専門的な調査・研究を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	岩崎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	岩崎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	岩崎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	岩崎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	吉川				

- 授業の概要 修士論文の作成に向けて、研究成果のとりまとめの段階における指導を行う。
- 授業の一般目標 中学校社会科授業におけるコンピュータ活用に関して、及び社会科の目標概念としての市民的資質に関して、一定の課題設定と研究方法によって一貫した論文の概略を作成する。
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点：問題意識に応じ、社会科教育学の視点から課題を設定し、一貫した考察を行うことができる。 技能・表現の観点：社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ論文を仕上げる ことができる。
- 授業の計画（全体） 毎回到わり、修士論文に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して指導と助言を行う。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第1回 項目 論文の全体構成
 - 第2回 項目 論文の全体構成
 - 第3回 項目 関連する研究分野の文献調査と検討
 - 第4回 項目 関連する研究分野の文献調査と検討
 - 第5回 項目 論文の執筆と添削
 - 第6回 項目 論文の執筆と添削
 - 第7回 項目 論文の執筆と添削
 - 第8回 項目 論文の執筆と添削
 - 第9回 項目 論文の全体構成 中間発表
 - 第10回 項目 論文の執筆と添削
 - 第11回 項目 論文の執筆と添削
 - 第12回 項目 論文の執筆と添削
 - 第13回 項目 論文の執筆と添削
 - 第14回 項目 論文の執筆と添削
 - 第15回 項目 論文の最終発表
- 成績評価方法（総合） 毎回の発表資料に対して評価を行う。
- 教科書・参考書 教科書：特に定めない。／参考書：随時指示する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・研究室前に表示

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	吉川				

- 授業の概要 修士論文の作成に向けた基礎的研究段階の指導を行う。
- 授業の一般目標 問題意識に応じ、一定の課題設定と研究方法によって一貫した論文を作成するための基礎的な資料収集と予備考察を行う。
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 問題意識に応じ、社会科教育学の視点から課題を設定し、一貫した考察を行うことができる。 技能・表現の観点： 社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ発表資料を仕上げる ことができる。
- 授業の計画（全体） 毎回到わり、修士論文に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して 指導と助言を行う。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第 1 回 項目 研究課題の設定
 - 第 2 回 項目 研究対象と研究 方法の計画
 - 第 3 回 項目 先行研究事例の 調査
 - 第 4 回 項目 先行研究事例の 調査
 - 第 5 回 項目 先行研究事例の 調査
 - 第 6 回 項目 先行研究事例の 調査
 - 第 7 回 項目 先行研究事例の 調査
 - 第 8 回 項目 先行研究の分 析・検討
 - 第 9 回 項目 先行研究の分 析・検討
 - 第 10 回 項目 先行研究の分 析・検討
 - 第 11 回 項目 先行研究の分 析・検討
 - 第 12 回 項目 先行研究の分 析・検討
 - 第 13 回 項目 先行研究の分 析・検討
 - 第 14 回 項目 研究課題に対す る現状と課題
 - 第 15 回 項目 研究課題に対す る現状と課題
- 成績評価方法（総合） 毎回の発表資料に対して評価を行う。
- 教科書・参考書 教科書： 特に定めない。／ 参考書： 随時指示する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室， Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・研究 室前に表示

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	吉川				

- 授業の概要 修士論文作成に関する基礎的研究段階の指導を行う。
- 授業の一般目標 問題意識に応じ、一定の課題設定と研究方法によって一貫した論文を作成するためのフレームワークの構築を行う。
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 問題意識に応じ、社会科教育学の視点から課題を設定し、一貫した考察を行うことができる。 技能・表現の観点： 社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ発表資料を仕上げることができる。
- 授業の計画（全体） 毎回到わり、修士論文に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して指導と助言を行う。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第1回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討
 - 第2回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討
 - 第3回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討
 - 第4回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討
 - 第5回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討
 - 第6回 項目 概念的作業枠の試案検討
 - 第7回 項目 概念的作業枠の試案検討
 - 第8回 項目 概念的作業枠の試案検討
 - 第9回 項目 概念的作業枠の試案検討
 - 第10回 項目 概念的作業枠の試案検討
 - 第11回 項目 概念的作業枠の試案検討
 - 第12回 項目 概念的作業枠の試案検討
 - 第13回 項目 概念的作業枠の試案検討
 - 第14回 項目 概念的作業枠の試案検討
 - 第15回 項目 概念的作業枠の試案検討
- 成績評価方法（総合） 毎回の発表資料に対して評価を行う。
- 教科書・参考書 教科書： 特に定めない。／ 参考書： 随時指示する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・研究室前に表示

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	吉川				

- 授業の概要 修士論文の作成に向けた具体的作業段階の指導を行う。
- 授業の一般目標 中学校社会科授業におけるコンピュータ活用、及び社会科の目標概念としての市民的資質に関して、問題意識に応じ、一定の課題設定と研究方法によって一貫した論文の概略を作成する。
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点：問題意識に応じ、社会科教育学の視点から課題を設定し、一貫した考察を行うことができる。 技能・表現の観点：社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ論文を仕上げる ことができる。
- 授業の計画（全体） 毎回到わり、修士論文に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して指導と助言を行う。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第1回 項目 研究対象の確定
 - 第2回 項目 研究対象の確定
 - 第3回 項目 研究対象の確定
 - 第4回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
 - 第5回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
 - 第6回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
 - 第7回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
 - 第8回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
 - 第9回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
 - 第10回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討
 - 第11回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成
 - 第12回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成
 - 第13回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成
 - 第14回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成
 - 第15回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成
- 成績評価方法（総合） 毎回の発表資料に対して評価を行う。
- 教科書・参考書 教科書：特に定めない。／参考書：随時指示する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部472研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・研究室前に表示

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	松原 幸恵				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	松原 幸恵				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	松原 幸恵				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	松原 幸恵				

数学教育専修

開設科目	数学教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	関口靖広				

●授業の概要 数学教育における質的し研究方法について，講義する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 質的研究方法とは
- 第 2 回 項目 さまざまな研究手続き
- 第 3 回 項目 観察法について
- 第 4 回 項目 観察法実習 1
- 第 5 回 項目 観察法実習 2
- 第 6 回 項目 インタビューについて
- 第 7 回 項目 インタビュー実習 1
- 第 8 回 項目 インタビュー実習 2
- 第 9 回 項目 観察法実習レポート発表
- 第 10 回 項目 データ分析 1
- 第 11 回 項目 データ分析 2
- 第 12 回 項目 レポート事例紹介
- 第 13 回 項目 レポート作成作業
- 第 14 回 項目 レポート作成作業
- 第 15 回 項目 レポートについての検討会

●メッセージ 大学院の授業は積極的参加が絶対必要です。

開設科目	数学教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	関口靖広				

●授業の概要 数学教育研究における最近の話題に関する文献を取り上げ、セミナー形式で検討する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 2 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 3 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 4 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 5 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 6 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 7 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 8 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 9 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 10 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 11 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 12 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 13 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 14 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 15 回 項目 数学教育における研究文献の購読

●メッセージ 文献は最新のもので、受講生の関心に応じて選択する。積極的に授業に参加することが絶対条件です。

開設科目	数学教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	関口靖広				

●授業の概要 数学教育におけるさまざまな研究動向について概説する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数学教育における研究の動向
- 第 2 回 項目 理論的研究 1
- 第 3 回 項目 理論的研究 2
- 第 4 回 項目 理論的研究 3
- 第 5 回 項目 実験研究 1
- 第 6 回 項目 実験研究 2
- 第 7 回 項目 実験研究 3
- 第 8 回 項目 実験研究 4
- 第 9 回 項目 テクノロジー利用について 1
- 第 10 回 項目 テクノロジー利用について 2
- 第 11 回 項目 国際比較研究 1
- 第 12 回 項目 国際比較研究 2
- 第 13 回 項目 国際比較研究 3
- 第 14 回 項目 修士論文について
- 第 15 回 項目 質疑

開設科目	数学教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	関口靖広				

●授業の概要 数学教育の最近の研究文献についてセミナー形式で検討を行なう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 2 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 3 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 4 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 5 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 6 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 7 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 8 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 9 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 10 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 11 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 12 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 13 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 14 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 15 回 項目 数学教育の研究文献の購読

開設科目	代数学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	笠井伸一				

- 授業の概要 代数学を中心に、輪講形式で授業を行う。
- 授業の一般目標 授業を通して、代数的な考え方を学習する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 代数的な考え方。 態度の観点： 発表を担当する際の準備状況。 授業における意見発言等による参加。 技能・表現の観点： 数学に関する内容の発表力、表現力。
- 授業の計画（全体） 輪講による発表
- 成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度、 発表の際の知識・理解、技能・表現 出席 = 欠格条件

開設科目	代数学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	笠井伸一				

●授業の概要 代数学特論に続いて、輪講形式で授業を行う。

●授業の一般目標 代数的な考え方を修得する。

●授業の計画（全体） 輪講による発表

開設科目	代数学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	飯寄信保				

●授業の概要 現代代数学の基本概念である群について学習する。特に群の表現論をテーマの中心に置き、セミナー形式授業をすすめる。／検索キーワード 群論 表現論

●授業の一般目標 群論の基礎及び表現論を身につけ、代数的な考え方を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：代数的な考え方・抽象的な概念把握が出来るような力を養う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 群の基本性質に関する文献を読む。
- 第 2 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 群の基本性質に関する文献を読む。
- 第 3 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 群の基本性質に関する文献を読む。
- 第 4 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 群の基本性質に関する文献を読む。
- 第 5 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 群の基本性質に関する文献を読む。
- 第 6 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 7 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 8 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 9 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 10 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 11 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 12 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 13 回 項目 群の表現の応用 (1) 内容 表現論の文献を読む。
- 第 14 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。
- 第 15 回 項目 群の表現論に関するテキスト講読 内容 表現論の文献を読む。

●メッセージ 特に無し。

●連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 3・4 時限

開設科目	幾何学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	佐藤好久				

●授業の概要 幾何学の分野から選択したテーマについて解説する。今年度は、結び目の代数的不変量について講義する。これにより、結び目の位相幾何学的性質と代数学の関連について解説する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 結び目と絡み目の基本概念（その 1）
- 第 2 回 項目 結び目と絡み目の基本概念（その 2）
- 第 3 回 項目 結び目と絡み目の基本概念（その 3）
- 第 4 回 項目 ホモトピー
- 第 5 回 項目 基本群（その 1）
- 第 6 回 項目 基本群（その 2）
- 第 7 回 項目 基本群上の自由微分
- 第 8 回 項目 アレキサンダー多項式
- 第 9 回 項目 カンドル代数（その 1）
- 第 10 回 項目 カンドル代数（その 2）
- 第 11 回 項目 カンドル代数と結び目の不変量（その 1）
- 第 12 回 項目 カンドル代数と結び目の不変量（その 2）
- 第 13 回 項目 カンドル代数と結び目の不変量（その 2）
- 第 14 回 項目 高次元結び目
- 第 15 回 項目 演習

開設科目	幾何学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	佐藤好久				

- 授業の概要 各自が幾何学のテーマを選択し、これにあう専門書を熟読する。その内容を発表する。特に、幾何学特論Iで講義する内容についての演習をする。

開設科目	幾何学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	佐藤好久				

- 授業の概要 微分位相幾何学や微分幾何学、代数幾何学の中からトピックを選んで概説をする。受講を希望する学生の要望に応じて内容を選択するが、現時点では、双曲幾何構造について解説する予定である。

開設科目	解析学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	北本卓也				

- 授業の概要 解析学に関するテキストを選び、それについて学ぶ
- 授業の一般目標 解析学に関する理解を深める

開設科目	解析学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	北本卓也				

- 授業の概要 解析学に関するテキストを選び、それについて学ぶ
- 授業の一般目標 解析学に関する理解を深める

開設科目	解析学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	某				

●備考 集中授業

開設科目	数理情報特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	北本卓也				

- 授業の概要 数理情報学に関わる内容を講義する
- 授業の一般目標 文献を読み、理解する力をつけること.
- 授業の計画（全体） 文献を 1 つ選択し、それを輪講する形で授業を進める.
- 成績評価方法（総合） 出席（50 %）とレポート（50 %）により行う.
- 教科書・参考書 教科書： 適宜指定する. / 参考書： 適宜指定する.

開設科目	数理情報特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	飯寄信保				

●授業の概要 数理情報科学にあらわれる数学、特に離散的な代数系についての演習をセミナー形式で行う。
／検索キーワード 体論 代数拡大 附値

●授業の一般目標 情報においてだけでなく、数学活動において必ず現れる数についての基礎知識を充実させる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：抽象的な思考と実際の現象を結びつけて考察できるような力を身につける。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- | | | | | | |
|------|----|------|--------|----|---------------------------|
| 第1回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第2回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第3回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第4回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第5回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第6回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第7回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第8回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第9回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第10回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第11回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第12回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第13回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第14回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |
| 第15回 | 項目 | テキスト | 講読及び演習 | 内容 | 離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。 |

●メッセージ 特になし

●連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日3・4時限

開設科目	数理情報特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	鷹岡亮				

●授業の概要 数理情報特論 II では、数学を対象領域とした問題解決の方法に関する授業を行います。具体的には、「Mathematical Problem Solving」を題材にしながら、問題解決に関わるリソースや経験則、問題解決の制御、信念システム、問題解決の分析方法について学びます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明 内容 説明
- 第 2 回 項目 数学に関する問題解決の概観 内容 説明・討論
- 第 3 回 項目 数学的行動分析のための枠組み 内容 説明・討論
- 第 4 回 項目 数学的問題解決のリソースについて (1) 内容 説明・討論
- 第 5 回 項目 数学的問題解決のリソースについて (2) 内容 説明・討論
- 第 6 回 項目 数学的問題解決の経験則について (1) 内容 説明・討論
- 第 7 回 項目 数学的問題解決の経験則について (2) 内容 説明・討論
- 第 8 回 項目 数学的問題解決の制御について (1) 内容 説明・討論
- 第 9 回 項目 数学的問題解決の制御について (2) 内容 説明・討論
- 第 10 回 項目 数学的問題解決の信念システムについて 内容 説明・討論
- 第 11 回 項目 学習支援システムの概観 内容 説明・討論
- 第 12 回 項目 数学を題材にした学習支援システムについて 内容 説明・討論
- 第 13 回 項目 数学を題材にした解法モデルの開発 (1) 内容 個人作業・討論
- 第 14 回 項目 数学を題材にした解法モデルの開発 (2) 内容 個人作業・討論
- 第 15 回 項目 数学を題材にした解法モデルの開発 (3) 内容 個人作業・討論・評価

●教科書・参考書 教科書：Mathematical Problem Solving, A.H.Schoenfeld, Academic Press, Inc., 1985 年
／参考書：参考書は、授業時間内や授業HPで適時紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先：ryo@yamaguchi-u.ac.jp (E-mail)

開設科目	数理情報特講	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	北本卓也				

- 授業の概要 数理情報学に関わる内容を講義する
- 授業の一般目標 文献を読み、理解する力をつけること.
- 授業の計画（全体） 文献を1つ選択し、それを輪講する形で授業を進める.
- 成績評価方法（総合） 出席（50 %）とレポート（50 %）により行う.
- 教科書・参考書 教科書： 適宜指定する. / 参考書： 適宜指定する.

開設科目	数学科教育実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	関口靖広				

●授業の概要 中学校現場において、現職の数学科教官と協力しながら、実践研究を行なう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 中学校数学教官との研究計画の話し合い
- 第2回 項目 中学校において実践研究
- 第3回 項目 中学校において実践研究
- 第4回 項目 中学校において実践研究
- 第5回 項目 中学校において実践研究
- 第6回 項目 中学校において実践研究
- 第7回 項目 中学校において実践研究
- 第8回 項目 中学校において実践研究
- 第9回 項目 中学校において実践研究
- 第10回 項目 中学校において実践研究
- 第11回 項目 中学校において実践研究
- 第12回 項目 中学校において実践研究
- 第13回 項目 中学校において実践研究
- 第14回 項目 中学校において実践研究
- 第15回 項目 まとめ

●メッセージ 実践研究の内容については、受講生の関心に応じて決定する。

開設科目	数学科教育支援実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	渡邊正				

●授業の概要 附属学校や地域の学校等で実践的な教育を通して、教師としての高度な素養を身につける。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 輪読
- 第 2 回 項目 輪読
- 第 3 回 項目 輪読
- 第 4 回 項目 輪読
- 第 5 回 項目 輪読
- 第 6 回 項目 輪読
- 第 7 回 項目 輪読
- 第 8 回 項目 輪読
- 第 9 回 項目 輪読
- 第 10 回 項目 輪読
- 第 11 回 項目 輪読
- 第 12 回 項目 輪読
- 第 13 回 項目 輪読
- 第 14 回 項目 輪読
- 第 15 回 項目 輪読

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	河津清				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	河津清				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	渡邊正				

●授業の概要 学生の興味や能力に適した課題を与え、その課題研究に必要な基礎から学習する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 輪読
- 第 2 回 項目 輪読
- 第 3 回 項目 輪読
- 第 4 回 項目 輪読
- 第 5 回 項目 輪読
- 第 6 回 項目 輪読
- 第 7 回 項目 輪読
- 第 8 回 項目 輪読
- 第 9 回 項目 輪読
- 第 10 回 項目 輪読
- 第 11 回 項目 輪読
- 第 12 回 項目 輪読
- 第 13 回 項目 輪読
- 第 14 回 項目 輪読
- 第 15 回 項目 輪読

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	渡邊正				

●授業の概要 1年次前期からの継続した課題を与え、その課題研究に必要な基礎から学習する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 輪読
- 第2回 項目 輪読
- 第3回 項目 輪読
- 第4回 項目 輪読
- 第5回 項目 輪読
- 第6回 項目 輪読
- 第7回 項目 輪読
- 第8回 項目 輪読
- 第9回 項目 輪読
- 第10回 項目 輪読
- 第11回 項目 輪読
- 第12回 項目 輪読
- 第13回 項目 輪読
- 第14回 項目 輪読
- 第15回 項目 輪読

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	関口靖広				

●授業の概要 各大学院生ごとに、各自の関心のある課題をいくつか設定し、指導教官の指導のもとで、それについて各自の自主的な研究を行なう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第2回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第3回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第4回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第5回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第6回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第7回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第8回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第9回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第10回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第11回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第12回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第13回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第14回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第15回 項目 レポート提出

●メッセージ 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるという、主体的取り組みが絶対条件です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	関口靖広				

●授業の概要 各大学院生ごとに、各自の関心のある課題をいくつか設定し、指導教官の指導のもとで、それについて各自の自主的な研究を行なう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第2回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第3回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第4回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第5回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第6回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第7回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第8回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第9回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第10回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第11回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第12回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第13回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第14回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第15回 項目 レポート提出

●メッセージ 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるという、主体的取り組みが絶対条件です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	佐藤好久				

- 授業の概要 各自が設定した研究テーマに関して、必要な知識の習得、研究の方法などを指導する。また、研究テーマをより具体的なものにするように問題の観点、考え方を指導する。
- 授業の一般目標 各自が設定した研究テーマにあう専門書を熟読し、その内容と考え方などを発表するというセミナー形式で授業を進行する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 選択した研究テーマについての基礎的概念を理解し、より一般的な、あるいは、抽象的な概念へ発展させ、論じることができる。 思考・判断の観点： 1つの概念を多方面から理解することができる。理論に見られる思考の流れを把握している。 関心・意欲の観点： 関連する周辺領域の研究内容を課題を設定して調べることができる。
- 授業の計画（全体） 各自が設定した研究テーマにあう専門書を熟読し、その内容と考え方などを毎週発表する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	佐藤好久				

- 授業の概要 1年前期の課題研究を踏まえて、各自が設定した研究テーマについて、必要な知識の習得、問題の観点、研究の取り組み方、研究の方法などを指導する。
- 授業の一般目標 1年前期の課題研究に続いて、各自が設定した研究テーマにあう専門書を熟読し、その内容と考え方などを発表するというセミナー形式で授業を進行する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 選択した研究テーマについての基礎的概念を理解し、より一般的な、あるいは、抽象的な概念へ発展させ、論じることができる。 思考・判断の観点： 1つの概念を多方面から理解することができる。理論に見られる思考の流れを把握している。 関心・意欲の観点： 関連する周辺領域の研究内容を課題を設定して調べることができる。
- 授業の計画（全体） 各自が設定した研究テーマにあう専門書を熟読し、その内容と考え方などを毎週発表する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	飯寄信保				

- 授業の概要 各研究テーマに関連する参考文献をセミナー形式で学習する。
- 授業の一般目標 研究課題についての基本的な知識を身につける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：幅広い知識を身につけ、問題解決にその知識を適切に利用できるようにする。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第2回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第3回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第4回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第5回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第6回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第7回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第8回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第9回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第10回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第11回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第12回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第13回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第14回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
第15回	項目	テキスト	講読	内容	セミナー形式で	テキストを精読	する。
- 成績評価方法（総合）代数学の基本知識を幅広く身につけたかどうかを口頭試問で判定する。
- メッセージ 特になし。
- 連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日3・4時限

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	飯寄信保				

●授業の概要 前期に身につけた知識を基に、各自のテーマについて研究する。／検索キーワード 群論 環論 体論 暗号

●授業の一般目標 学生各自が自分のテーマに関しての研究を深める。

●授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 研究上に現れた問題に対し、適切な方法と考察が出来るような力を養う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第2回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第3回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第4回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第5回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第6回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第7回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第8回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第9回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第10回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第11回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第12回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第13回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第14回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
第15回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表

●成績評価方法（総合） 積極的に研究に励んだか、また、自分の研究を深く理解しているかを口頭試問で評価する。

●メッセージ 特になし

●連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日3・4時限

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	北本卓也				

●授業の概要 修士論文制作に向けて の指導を行う。

●授業の一般目標 研究を方法を学び、それを発表する 技術を身につけること。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 改行

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	北本卓也				

- 授業の概要 修士論文制作に向けての指導を行う。
- 授業の一般目標 研究の方法を学び、それを発表する技術を身につけること。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	河津清				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	河津清				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	渡邊正				

●授業の概要 1年次の時の課題研究を続ける。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 輪読
- 第2回 項目 輪読
- 第3回 項目 輪読
- 第4回 項目 輪読
- 第5回 項目 輪読
- 第6回 項目 輪読
- 第7回 項目 輪読
- 第8回 項目 輪読
- 第9回 項目 輪読
- 第10回 項目 輪読
- 第11回 項目 輪読
- 第12回 項目 輪読
- 第13回 項目 輪読
- 第14回 項目 輪読
- 第15回 項目 輪読

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	渡邊正				

●授業の概要 2年次までの学習成果をまとめる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 輪読
- 第 2 回 項目 輪読
- 第 3 回 項目 輪読
- 第 4 回 項目 輪読
- 第 5 回 項目 輪読
- 第 6 回 項目 輪読
- 第 7 回 項目 輪読
- 第 8 回 項目 輪読
- 第 9 回 項目 輪読
- 第 10 回 項目 輪読
- 第 11 回 項目 輪読
- 第 12 回 項目 輪読
- 第 13 回 項目 輪読
- 第 14 回 項目 輪読
- 第 15 回 項目 輪読

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	関口靖広				

●授業の概要 各大学院生ごとに、各自の関心のある課題をいくつか設定し、指導教官の指導のもとで、それについて各自の自主的な研究を行なう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 2 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 3 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 4 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 5 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 6 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 7 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 8 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 9 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 10 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 11 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 12 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 13 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 14 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 15 回 項目 レポート提出

●メッセージ 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるという、主体的取り組みが絶対条件です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	関口靖広				

●授業の概要 各大学院生ごとに、各自の関心のある課題をいくつか設定し、指導教官の指導のもとで、それについて各自の自主的な研究を行なう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 2 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 3 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 4 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 5 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 6 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 7 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 8 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 9 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 10 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 11 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 12 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 13 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 14 回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第 15 回 項目 各受講生の課題の設定と追求

●メッセージ 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるという、主体的取り組みが絶対条件です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	佐藤好久				

- 授業の概要 各自が設定した研究テーマについて、問題点を絞り込み、修士論文が完成するように指導する。
- 授業の一般目標 各自が設定した研究テーマについて、研究している内容を発表するというセミナー形式で授業を進行する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 選択した研究テーマについての基礎的概念を理解し、より一般的な、あるいは、抽象的な概念へ発展させ、論じることができる。 思考・判断の観点： 1つの概念を多方面から理解することができる。理論に見られる思考の流れを把握している。 関心・意欲の観点： 関連する周辺領域の研究内容を課題を設定して調べることができる。
- 授業の計画（全体） 各自が設定した研究テーマにあう専門書を熟読し、その内容と考え方などを毎週発表する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	佐藤好久				

- 授業の概要 各自が設定した研究テーマについて、修士論文が完成するように指導する。また、発表の仕方なども指導する。
- 授業の一般目標 修士論文の完成を目指して、修士論文の作成する。その内容を発表するというセミナー形式で授業を進行する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 選択した研究テーマについての基礎的概念を理解し、より一般的な、あるいは、抽象的な概念へ発展させ、論じることができる。 思考・判断の観点： 1つの概念を多方面から理解することができる。理論に見られる思考の流れを把握している。 関心・意欲の観点： 関連する周辺領域の研究内容を課題を設定して調べることができる。
- 授業の計画（全体） 各自が設定した研究テーマにあう専門書を熟読し、その内容と考え方などを毎週発表する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	飯寄信保				

●授業の概要 各研究テーマに関連する参考文献をセミナー形式で学習する。／検索キーワード 群論 環論
暗号

●授業の一般目標 研究に必要な基礎知識を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：幅広い知識を身につけ、問題解決にその知識を適切に利用できる
ようにする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- | | | | | | | | |
|------|----|------|----|----|---------|---------|-----|
| 第1回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第2回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第3回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第4回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第5回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第6回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第7回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第8回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第9回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第10回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第11回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第12回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第13回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第14回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |
| 第15回 | 項目 | テキスト | 講読 | 内容 | セミナー形式で | テキストを精読 | する。 |

●メッセージ 特になし

●連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日3・4時限

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	飯寄信保				

●授業の概要 前期に身につけた内容を基に各自のテーマについて研究を行う。／検索キーワード 群論 環論 体論 暗号

●授業の一般目標 学生各自が自分のテーマに関しての研究を深める。

●授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 研究上に現れた問題に対し、適切な方法と考察が出来るような力を養う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 2 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 3 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 4 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 5 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 6 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 7 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 8 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 9 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 10 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 11 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 12 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 13 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 14 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表
 第 15 回 項目 研究成果発表 内容 研究成果発表

●メッセージ 特に無し

●連絡先・オフィスアワー iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 3・4 時限

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	北本卓也				

●授業の概要 修士論文制作に向けて の指導を行う。

●授業の一般目標 研究を方法を学び、それを発表する 技術を身につけること。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 改行

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	北本卓也				

- 授業の概要 修士論文制作に向けての指導を行う。
- 授業の一般目標 研究の方法を学び、それを発表する技術を身につけること。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

理科教育専修

開設科目	理科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	池田幸夫				

●授業の概要 理科教育の理念や哲学的背景、新しい理科学習論、評価方法などについて、理科教育学、科学史などの最近の知見を踏まえて講義する。／検索キーワード 理科教育

●授業の一般目標 科学論・科学哲学に基づいて理科教育の諸問題を解説する

●授業の到達目標／知識・理解の観点：理科教育に関わる科学論科学哲学についての基礎的な理解 思考・判断の観点：理科教育に関する諸問題を批判的に考察する 関心・意欲の観点：積極的に課題を見いだそうとする意欲 態度の観点：理科教育に関する諸問題を積極的に見いだす態度 技能・表現の観点：理科教育に関する諸問題を分析し成果を発表する技能

●授業の計画（全体） 講義形式で授業を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現在の学校理科教育の理念
- 第 2 回 項目 理科教育の基礎としての科学哲学 (1) 帰納主義
- 第 3 回 項目 理科教育の基礎としての科学哲学 (2) 反証主義
- 第 4 回 項目 理科教育の基礎としての科学哲学 (3) 洗練された反証主義
- 第 5 回 項目 理科教育の基礎としての科学哲学 (4) 相対主義
- 第 6 回 項目 戦後の理科教育の理念の変遷
- 第 7 回 項目 理科教育の目的・目標
- 第 8 回 項目 理科教育実践の具体例 (1) 観察実験の位置づけ (1)
- 第 9 回 項目 理科教育実践の具体例 (2) 振り子の等時性
- 第 10 回 項目 理科教育実践の具体例 (3) 力と運動
- 第 11 回 項目 理科授業の評価 (1) 理論・統計的方法
- 第 12 回 項目 理科教育の評価 (2) 具体的方法
- 第 13 回 項目 理科教育における最近の課題
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

●教科書・参考書 教科書：文化として学ぶ物理科学／参考書：授業の中で紹介する

開設科目	理科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	阿部弘和				

- 授業の概要 現代の科学教育や科学観に大きな影響を及ぼしている中立的科学観を創出したクーンのパラダイム理論を彼の原著を購読しながら学ぶ。また、中立的科学観に強く影響されている、グールドの著作もあわせて輪読し、中立的科学観から派生する彼の生命観などを指導する。
- 授業の一般目標 理科教育の背景となる代表的な科学観の背景や内容、理論的枠組み、それらに基づいた理科教育のあり方などを学習、修得する。
- 授業の計画（全体） クーンおよびグールドの著作を輪読し、内容のレポートを作成し発表する。発表内容について議論を導き、指導する。
- 成績評価方法（総合） 作成レポート、発表、出席状況を総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00～14:30

開設科目	理科教育特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	池田幸夫・阿部弘和				

- 授業の概要 理科教育実一般について、論文購読・討論・実地研究などの方法によって学習する。／検索キーワード 理科教育
- 授業の一般目標 理科教育の諸問題を統計的に分析する手法を修得する
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：統計的データ処理に関する知識理解 思考・判断の観点：統計処理の方法を用いて教育的事象を理科する思考力 関心・意欲の観点：積極的に課題を認識する意欲 態度の観点：積極的に取り組む態度 技能・表現の観点：統計的手法を利用する技能
- 授業の計画（全体） パソコンを用いた実習を中心に授業を行う
- 教科書・参考書 教科書：よくわかる統計解析／参考書：すぐ分かる統計解析, 石村貞夫, 東京図書, 1993年

開設科目	物理学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	古川浩				

- 授業の概要 相転移や対流現象など身の回りの秩序形成を取り上げ、ミクロとマクロにおける現象の違いや共通点を考える。／検索キーワード ミクロとマクロ 秩序形成 カオス
- 授業の一般目標 普段目にする自然現象を物理学的観点から観察・考察できる能力をもてるようにする。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：身の回りの物理現象を数理的に記述・処理する方法を学ぶ。思考・判断の観点：身の回りの種々の巨視的物理現象は共通する数理的側面をもつことを理解する。
- 授業の計画（全体） 輪読を基本に進める。自分の担当部分が説明できるよう予習復習が必要。

開設科目	物理学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	糸長雅弘				

●授業の概要 地球大気を含めた惑星間空間に生起するさまざまな自然現象は、その大部分が太陽から放射される電磁波のエネルギーとプラズマの流れ（太陽風）に起因している。最近では、地上からの宇宙観測に止まらず、観測衛星やロケットによって、遠く大気圏外の宇宙環境を直接に探査することが日常化している。本講義では、太陽から放出されるエネルギーが地球の超高層大気と電離圏、磁気圏、惑星間空間の宇宙環境をどのように決めているかを論じる。／検索キーワード 宇宙、環境、太陽、太陽風、電離圏、磁気圏、放射線、宇宙天気

●授業の一般目標 宇宙環境を決定するメカニズムとその背後にある物理素過程を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 宇宙環境を決定するメカニズムを説明できる。2. メカニズムの背後にある物理素過程を説明できる。思考・判断の観点：1. 宇宙環境現象を物理的に思考できる。2. 宇宙環境現象にどのような物理法則が関わっているか判断できる。関心・意欲の観点：1. 物の理（ものことわり）に関心を持つことができる。2. 理科教育における宇宙環境科学の活用に意欲をもやすことができる。態度の観点：1. 物理的な問題にも粘り強く取り組むことができる。2. 教育という視点で宇宙環境科学を考えることができる。技能・表現の観点：1. 物事を論理的に説明することができる。

●授業の計画（全体） 宇宙環境を決定するメカニズムとその背後にある物理素過程の解説を中心とするが、理解の定着を図るため、一人一人指名して、受講者への質問も随時行う。毎回、講義資料を配布する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 宇宙環境科学入門
- 第 2 回 項目 太陽と太陽風
- 第 3 回 項目 太陽の活動現象
- 第 4 回 項目 電離圏
- 第 5 回 項目 電離圏の変動
- 第 6 回 項目 電波環境としての電離圏
- 第 7 回 項目 太陽風－磁気圏相互作用 授業外指示 授業外レポートを課す。
- 第 8 回 項目 磁気圏対流
- 第 9 回 項目 磁気圏嵐
- 第 10 回 項目 磁気圏の粒子環境
- 第 11 回 項目 地球近傍の粒子環境
- 第 12 回 項目 宇宙放射線環境
- 第 13 回 項目 宇宙天気予報
- 第 14 回 項目 宇宙環境と人間社会 授業外指示 授業外レポートを課す。
- 第 15 回 項目 レポート作成

●成績評価方法（総合） 授業外レポートと出席を総合的に評価する。出席率が 80 %未満の場合は、不合格になる。

●教科書・参考書 参考書：宇宙環境科学, 恩藤忠典・丸橋克英, オーム社, 2000 年

●メッセージ 「物理学特論演習 II」を併せて受講すること。

●連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	物理学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	古川浩				

- 授業の概要 物理学特論 I の内容に関する代表的な原著論文を読み、統計物理学における基礎的な理論的手法を習得する。
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 修得した知識を生かせるようになる 関心・意欲の観点： 発展的な思考が出来るようになる

開設科目	物理学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	糸長雅弘				

●授業の概要 コンピュータシミュレーションは、現代科学にとって、なくてはならない研究手段であり、宇宙環境科学においても、重要な役割を果たしている。また、シミュレーションの計算結果を目に見える形でわかりやすく表現する可視化も、その重要性が注目されている。宇宙環境科学におけるコンピュータシミュレーションと可視化について、実習を行う。／検索キーワード 宇宙環境科学、プログラミング、数値計算、シミュレーション、可視化、Java

●授業の一般目標 宇宙環境科学におけるコンピュータシミュレーションと可視化の技法を修得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. コンピュータシミュレーションと可視化の技法を説明できる。2. シミュレーションの結果を解釈できる。思考・判断の観点：1. 論理的な思考ができる。2. シミュレーションの結果について、その妥当性を判断できる。関心・意欲の観点：1. いろいろなシミュレーション技法に関心を持つことができる。2. 新たなシミュレーション技法の開発に意欲をもやすことができる。態度の観点：1. プログラミングの作業に粘り強く取り組むことができる。2. 教育という視点でシミュレーションを考えることができる。技能・表現の観点：1. プログラムの簡潔な記述ができる。2. 読みやすいプログラムを記述できる。

●授業の計画（全体） コンピュータシミュレーションの演習を中心とするが、理解の定着を図るため、一人一人指名して、受講者への質問も随時行う。毎回、資料を配布する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 プログラミング 1 (数値計算手法)
- 第 2 回 項目 プログラミング 2 (太陽風の数値計算手法)
- 第 3 回 項目 プログラミング 3 (太陽風のシミュレーション)
- 第 4 回 項目 プログラミング 4 (電離圏の数値計算手法)
- 第 5 回 項目 プログラミング 5 (電離圏のシミュレーション I)
- 第 6 回 項目 プログラミング 6 (電離圏のシミュレーション II)
- 第 7 回 項目 プログラミング 7 (磁気圏の数値計算手法)
- 第 8 回 項目 プログラミング 8 (磁気圏のシミュレーション I)
- 第 9 回 項目 プログラミング 9 (磁気圏のシミュレーション II) 授業外指示 課題を課す。
- 第 10 回 項目 プログラミング 10 (Java の基本)
- 第 11 回 項目 プログラミング 11 (Java による可視化)
- 第 12 回 項目 プログラミング 12 (Java によるアニメーション)
- 第 13 回 項目 プログラミング 13 (Java によるダブルバッファリング)
- 第 14 回 項目 プログラミング 14 (Java によるマルチスレッド処理) 授業外指示 課題を課す。
- 第 15 回 項目 レポート作成

●成績評価方法 (総合) 課題と出席を総合的に評価する。出席率が 80 % 未満の場合は、不合格になる。

●メッセージ 「物理学特論 II」を併せて受講すること。自分の頭で考え、プログラミングに取り組むこと。

●連絡先・オフィスアワー E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50

開設科目	化学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	和泉研二				

- 授業の概要 結晶成長に関する文献講読を行なう。特に学校の実験室レベルで行える水溶液からの結晶成長に重点をおき、水溶液中の溶質の状態についても解説する。／検索キーワード 結晶成長、水溶液
- 授業の一般目標 結晶成長の機構を原子・分子レベルから理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：結晶成長の機構を説明できる。思考・判断の観点：結晶形態の変化など巨視的に観察される現象を結晶成長の観点から考察できる。関心・意欲の観点：身近な結晶や様々なかたちで役立っている結晶に興味をもつ。
- 授業の計画（全体）授業は、教科書に沿って、講読形式で行なう。必要に応じてプリントを配付する。
- 成績評価方法（総合）教科書の理解度による評価、レポートによる評価、出席による評価を下記の割合で行なう。
- 教科書・参考書 教科書：「結晶（成長、形、完全性）」砂川一郎著、共立出版／参考書：「結晶は生きている」黒田登志雄著、サイエンス社「結晶成長」大川章哉著、裳華房
- 連絡先・オフィスアワー bec20@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：教育学部 1 階

開設科目	化学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	村上清文				

- 授業の概要 生体における機能発現に重要な生体関連物質間の相互作用や身近な界面現象について、構造・熱力学・速度論等の物理化学的観点から、学習する。小中学校の理科における指導内容にも関連させて、学習する。
- 授業の一般目標 物質間の相互作用とその機能や界面で起こる多様な現象についての理解を深めるとともに、学校現場における指導に役立てる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象を理解し、説明できる。
 思考・判断の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象について物理化学的観点からの見方ができる。
 関心・意欲の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象と理科教育との関わりに関心をもつ。
- 授業の計画（全体） 文献や資料の講読を中心として進めつつ、その中から生じた疑問や課題についての調査等を行いながら、理解を実践的に深める。化学特論演習 II とセットで実施する。
- 成績評価方法（総合） 授業への取り組みや課題レポートの内容によって評価する。
- 教科書・参考書 参考書： テキストは、いくつかの候補の中から学生の希望に応じて、選定する。

開設科目	化学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	和泉研二				

- 授業の概要 理科教育や日常生活に関連した結晶を具体的に取り上げ、その特性や構造を理解するとともに、実験を通して、それぞれの結晶に適した育成法や観察法を習得する。／検索キーワード 結晶、理科教育
- 授業の一般目標 結晶成長機構の基礎的理解に基づいた適切な育成法・観察法を習得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 具体的な結晶の構造や成長機構を説明でき、適切な育成法を説明できる。 思考・判断の観点： 成長した結晶の良否を判断し、育成条件をコントロールするパラメータを、どのように調整すべきか判断できる。 関心・意欲の観点： 結晶の育成を通じた理科教育に関心を持つ。 技能・表現の観点： 適切な試料調整・観察・実験・記録ができる。
- 授業の計画（全体） 成長実験を各自で行なう。そのために必要な文献や器具・試薬についての調査や、結晶の成長の具合に応じて実験を進める。
- 成績評価方法（総合） 下記の観点で評価する。特に目的の結晶をうまく成長させるために、どのような手立てが必要になってくるのかを自ら追求する思考力や判断力を重視する。
- 教科書・参考書 参考書：「結晶（成長、形、完全性）」砂川一郎著、共立出版「結晶は生きている」黒田登志雄著、サイエンス社「結晶成長」大川章哉著、裳華房
- 連絡先・オフィスアワー bec20@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：教育学部 1 階

開設科目	化学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	村上清文				

- 授業の概要 生体関連物質間の相互作用や身近な界面現象の具体例を文献講読や実習を通して学び、理論的・実験的手法を習得する。
- 授業の一般目標 物質間の相互作用とその機能や界面で起こる多様な現象についての理解を深めるとともに、学校現場における実地指導に役立てることができるようにする。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象を理解し、説明できる。
 思考・判断の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象について物理化学的観点からの見方ができる。
 関心・意欲の観点： 物質間の相互作用や界面現象の諸事象と理科教育との関わりに関心をもつ。 技能・表現の観点： 演習課題の遂行によって応用技能を身につけるとともにレポートとしてまとめることができる。
- 授業の計画（全体） 文献や資料の講読から見いだした疑問や課題についての調査等を行いながら、理解を実践的に深める。化学特論 II とセットで実施する。
- 成績評価方法（総合） 授業への取り組みや課題レポートの内容によって評価する。

開設科目	生物学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	某				

- 授業の概要 生物の基本的な単位である細胞、個体の各レベルにおいて動物の系統進化や種の分化について学ぶと共に、動物の分布と種の隔離の問題についても学習する。

開設科目	生物学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	某				

- 授業の概要 生物学に関わる重要な文献や先端技術の現状に関する文献購読も実験実習等を行いながら、生物学特論の内容や理解を深める。

開設科目	地学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	武田賢治				

- 授業の概要 地質構造と岩石変形組織の解析を通して地球内部でどのような変形テクトニクスがおこってきたのかを探ることができる。本講では、その解析手法と地殻のさまざまな深度レベルでの変形様式を解説する。

開設科目	地学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	千々和一豊				

●授業の概要 化石燃料鉱床に関する基本的な事項を解説するとともに、燃料資源とわれわれの生活との関わりを考える。／検索キーワード 化石燃料、資源、エネルギー、石炭、石油

●授業の一般目標 化石燃料の特徴と成因について、野外・室内実習を交えながら理解を深めるとともに、生活との関わりを確認しながら、21 世紀の課題の一つであるエネルギー問題の背景・対応を考察する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：化石燃料資源の特徴・成因・意義について理解し、説明できる。
関心・意欲の観点：学校教育におけるエネルギー問題の学習に有効な視点・教材を提案する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 化石燃料とは-燃料鉱床について
- 第 2 回 項目 2. 炭素質岩の研究意義
- 第 3 回 項目 3. 化石燃料とエネルギー・環境問題
- 第 4 回 項目 4. 化石燃料の特徴・成因論（1. 石油）
- 第 5 回 項目 5. 化石燃料の特徴・成因論（2. 石炭）
- 第 6 回 項目 6. 有機熟成作用-Grade と Rank
- 第 7 回 項目 7. 世界の燃料 鉱床
- 第 8 回 項目 8. 日本の燃料 鉱床
- 第 9 回 項目 9. 野外実習（大嶺・宇部炭田）
- 第 10 回 項目 10. 試料の処理（1）
- 第 11 回 項目 11. 試料の処理（2）
- 第 12 回 項目 12. 試料の鏡下観察（1）
- 第 13 回 項目 13. 試料の鏡下観察（2）
- 第 14 回 項目 14. 文献輪読（1）
- 第 15 回 項目 15. 文献輪読（2）

開設科目	地学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	武田賢治				

- 授業の概要 地学特論 I の内容をさらに深く理解するために、構造地質学・マイクロテクトクスに関連した文献講読と、実際のさまざまな変形岩を用いた構造解析法の実習を行う。

開設科目	地学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	千々和一豊				

●授業の概要 有機地球科学に関する文献講読および野外観察実習より構成され、地学特論 II の内容をさらに深く理解する。／検索キーワード 有機地球科学、演習

●授業の一般目標 有機地球科学の文献講読より、同分野の基本事項・最新の研究動向を理解するとともに、野外観察実習より地質（大地のつくり）の見方を修得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：有機地球科学の基本事項・研究動向を説明できる。態度の観点：野外実習における観察ポイント、観察事項の簡潔な要約ができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 文献講読（1）
- 第 2 回 項目 2. 文献講読（2）
- 第 3 回 項目 3. 文献講読（3）
- 第 4 回 項目 4. 文献講読（4）
- 第 5 回 項目 5. 文献講読（5）
- 第 6 回 項目 6. 文献講読（6）
- 第 7 回 項目 7. 文献講読（7）
- 第 8 回 項目 8. 野外観察実習（1）
- 第 9 回 項目 9. 野外観察実習（2）
- 第 10 回 項目 10. 野外観察実習（3）
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

開設科目	理科教育実践研究	区分	その他	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	池田幸夫, 阿部弘和				

- 授業の概要 学校現場で理科教育に関する実践を中心に授業を行う。／検索キーワード 理科教育実践
- 授業の一般目標 理科教育の具体的な課題を取り上げて、統計的に分析する実習
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：理科教育に関する知識理解 思考・判断の観点：具体的な課題を科学的に考察する思考力 関心・意欲の観点：積極的に課題を見いだそうとする意欲 態度の観点：見いだした課題を統計的手法によって解析する態度 技能・表現の観点：統計的手法を具体的な教育課題に適用する技能
- 授業の計画（全体） 現職教員を対象にした授業で、学校現場での活動を中心に授業を行う
- 成績評価方法（総合） レポート

開設科目	理科教育支援実践研究	区分	その他	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	野村厚志				

●授業の概要 企業や社会における活動を通して、自然環境や情報に関する教育を支援する理論やシステムについて実践的に学習する。

●連絡先・オフィスアワー 教育学部 226号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13時～15時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	池田幸夫				

- 授業の概要 学校理科教育全般の諸問題に関する検討をを通して、理科教育に関する認識を深める／検索
キーワード 理科教育
- 授業の一般目標 理科教育全般に関する諸問題を分析する能力を育成する
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 理科教育に関する知識理解 思考・判断の観点： 理科教育に関する諸問題を分析する思考力 関心・意欲の観点： 積極的に課題を見つける意欲 態度の観点： 理科教育の課題に取り組む姿勢 技能・表現の観点： データを分析する統計的手法の修得と発表する技能

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	池田幸夫				

- 授業の概要 学校理科教育全般の諸問題に関する検討をを通して、理科教育に関する認識を深める／検索
キーワード 理科教育
- 授業の一般目標 理科教育に関する課題を科学的に解決する思考力と方法を修得する
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：理科教育に関する諸問題を課題として認識するために必要な知識
理解 思考・判断の観点：課題を科学的に考察する思考力 関心・意欲の観点：積極的に課題を見いだ
す意欲 態度の観点：積極的に課題に取り組む態度 技能・表現の観点：課題を科学的に分析する技能
と成果を表現する力
- 授業の計画（全体） 受講者の実状に合わせて、演習形式で行う

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	阿部弘和				

- 授業の概要 理科教育と卒業研究に関連する基礎的な理論や実験指導を行う
- 授業の一般目標 理科教育と卒業研究に関連する基礎的な理論や実験方法などを修得する。
- 成績評価方法 (総合) 課題解決への取り組み状況、成果等を総合的に評価する。
- メッセージ 講読する論文著作等は受講者の卒業研究を考慮しながら適宜選択する
- 連絡先・オフィスアワー E-mail habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00～14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	阿部弘和				

- 授業の概要 卒業研究と理科教育に関連する理論、実験の指導を行う。
- 授業の一般目標 卒業研究と理科教育に関連する理論、実験方法などを修得する。
- 授業の計画（全体） 与えられた課題、卒業研究の基礎的な理論を演習形式で指導し、また、成果を検討しながら、取り組みかたや、問題解決へ向けて具体的に指導する。
- 成績評価方法（総合） 課題解決への取り組み状況、成果等を総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail habe@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 13:00～14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	和泉研二				

- 授業の概要 修士論文の作成に向けて、テーマの設定および設定したテーマについて指導を行う。
- 授業の一般目標 必要な文献調査、問題点の把握、実験法の検討、実験の実施およびその結果の検討と考察の仕方を習得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：テーマに関する先行研究を把握し説明できる。自らの実験の方法や結果について適切に説明できる。思考・判断の観点：実験に際しておこる様々な現象を科学的な見方考え方で捕らえることができる。その結果を考察し、次の実験の進め方を合理的に検討できる。関心・意欲の観点：実験に際しておこる様々な現象を、注意深く観察・洞察することができる。観察・実験を通して生じる問題点を適格に把握し関心を持つ。態度の観点：研究全般を通して、主体的に解決策を考えていくことができる。技能・表現の観点：目的に合った実験法を考え、適切に実行できる。適格なプレゼンテーションができる。
- 授業の計画（全体） 研究テーマ決定のための文献調査を行った後、具体的なテーマを絞り込む。必要な追加調査や実験計画を立案して、必要な装置や器具の準備・調整を進める。実験法や実験結果の吟味について随時指導を行い、科学的な研究を進め方していく。
- 成績評価方法（総合） 到達目標に照らし合わせ、総合的に判断する。
- 連絡先・オフィスアワー bec20@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	和泉研二				

- 授業の概要 修士論文の作成に向けて、設定したテーマについて指導を行う。
- 授業の一般目標 必要な文献調査、問題点の把握、実験法の検討、実験の実施およびその結果の検討と考察の仕方を習得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：テーマに関する先行研究を把握し説明できる。自らの実験の方法や結果について適切に説明できる。思考・判断の観点：実験に際しておこる様々な現象を科学的な見方考え方で捕らえることができる。その結果を考察し、次の実験の進め方を合理的に検討できる。関心・意欲の観点：実験に際しておこる様々な現象を、注意深く観察・洞察することができる。観察・実験を通して生じる問題点を適格に把握し関心を持つ。態度の観点：研究全般を通して、主体的に解決策を考えていくことができる。技能・表現の観点：目的に合った実験法を考え、適切に実行できる。適格なプレゼンテーションができる。
- 授業の計画（全体） 必要な追加調査や実験を実施する。実験法や実験結果の吟味について随時指導を行い、科学的な研究を進め方ていく。論文のまとめ方や発表の仕方についても随時指導する。
- 成績評価方法（総合） 到達目標に照らし合わせ、総合的に判断する。
- 連絡先・オフィスアワー bec20@yamaguchi-y.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	村上清文				

- 授業の概要 研究課題に関する背景や理論等を調査・理解し、調査・実験の内容を検討し計画を立てるとともに、予備的な調査・実験内容を検討する。
- 授業の一般目標 研究課題の意義を十分把握し、課題遂行にあたって必要な知識や技能等の面に関して準備を行う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 研究課題に関する背景や理論を理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 研究課題の背景や理論を基礎として、課題研究遂行の計画立案や手段の選択などを考え・判断できる。 関心・意欲の観点： 研究課題に関わる教育事象に広く関心をもつ。 態度の観点： 積極的に課題研究を遂行できる。 技能・表現の観点： 課題研究遂行に必要な技能を身につけ、分析・実験結果等を適切に表現できる。
- 授業の計画（全体） 1. 研究課題に関する背景や理論等を調査・理解し、調査・実験の内容を検討し計画を立てる。 2. 予備的な調査・実験内容を検討する。
- 成績評価方法（総合） 課題研究内容の理解、思考・判断、関心・意欲・態度等、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	村上清文				

- 授業の概要 研究課題に関する背景や理論等を基礎とした調査・実験計画に基づき、予備的な調査・実験を実施する。
- 授業の一般目標 予備的調査・実験を遂行し、その結果を分析評価する。これを基に、本調査・実験の計画をたてる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：研究課題に関する背景や理論を理解し、説明できる。思考・判断の観点：予備調査・実験の結果を適切に分析・評価できる。関心・意欲の観点：研究課題に関わる教育事象に広く関心をもつ。態度の観点：積極的に課題研究を遂行できる。技能・表現の観点：課題研究遂行に必要な技能を身につけ、分析・実験結果等を適切に表現できる。
- 授業の計画（全体） 1. 予備的な調査・実験を実施する。 2. 予備的調査・実験の結果を分析・評価する。 3. 本調査・実験の計画を立案する。
- 成績評価方法（総合） 課題研究内容の理解、思考・判断、関心・意欲・態度等、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	武田賢治				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	武田賢治				

音樂教育專修

開設科目	音楽科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	野波健彦				

- 授業の概要 本授業では、音楽科教育の基本的な文献の購読を通じて、今日の音楽科教育の現状及び問題を明らかにし、音楽科教育のあり方について考察する。

開設科目	音楽科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	某				

- 授業の概要 音楽教育思想および音楽教育史を主として取り上げる予定。
- 授業の一般目標 研究者としての自立。
- 授業の計画（全体） 受講学生に応じたシラバスを入学時に検討する予定。
- 成績評価方法（総合） 受講態度、授業内容の理解度などを総合的に評価する予定。
- 備考 集中授業

開設科目	音楽科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	野波健彦				

- 授業の概要 音楽科教育の表現領域や鑑賞領域の授業について、児童・生徒と教師の相互作用に関する行動分析理論の立場から実践的な研究を行う。

開設科目	音楽科教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	某				

- 授業の概要 音楽科教育を専門に研究するための方法論についての基礎技法を学習する予定。
- 授業の一般目標 音楽科教育を専門に研究するための方法論についての基礎的な技法の学習を予定。
- 授業の計画（全体） 学習者個々に応じた授業計画を受講時間最初に検討する予定。
- 成績評価方法（総合） 授業内容の理解度、課題の達成等を総合的に評価する予定。
- 備考 集中授業

開設科目	器楽特別研究 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	西村順子				

●授業の概要 ピアノ演奏の技法的な部分に重点を置いた研究を、文献による研究と実践により行う。

開設科目	器楽特別研究 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	成川ひとみ				

●授業の概要 鍵盤楽器の音楽史上の主要な作品や作曲家について、楽譜・文献等を資料にしながら分析・研究を行う。また、鍵盤楽器の発達過程上の観点も、演奏研究に取り入れる。

●連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	器楽演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	西村順子				

●授業の概要 ピアノ作品の演奏において必要な表現技法や演奏解釈を、実践を通して探求する。

開設科目	器楽演習 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	成川ひとみ				

●授業の概要 器楽特別研究 II をふまえて、ピアノ作品の時代様式の違いに着目しながら、演奏表現の実践を行う。この実践活動を通して、表現の多様性や可能性を幅広く探求する。

●教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備

●連絡先・オフィスアワー nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	声楽特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	某				

- 授業の概要 イタリア、日本、ドイツ、フランスなどの歌曲を中心に、ディクシオン、発声法を学び、歌唱力を高める。
- 授業の一般目標 学部段階の学習を踏まえ、発声・呼吸・ディクシオン等の技術をより高度に磨くと共に、表現力の向上を目指す。

開設科目	声楽演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	某				

- 授業の概要 歌曲に加え、オペラやオラトリオのアリア、重唱など、レパートリーを広げ、豊かな音楽表現を目指す。
- 授業の一般目標 レパートリーを広げ、豊かな音楽表現を目指す。

開設科目	作曲特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	池上敏				

- 授業の概要 古典から現代までの作曲技法について、理論的、思想的側面から分析的に研究し、音楽全般に対する高度な理解力や洞察力の深まりを図る。
- 授業の一般目標 古典から現代までの作曲技法について、理論的、思想的側面から分析的に研究できる能力の獲得、音楽全般に対する高度な理解力や洞察力の深まりが達成されることを目指す。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：様々な作曲手法の理解。思考・判断の観点：様々な作曲手法が生まれて来た背景を思考する能力の獲得。関心・意欲の観点：様々な作曲法への積極的な関心。技能・表現の観点：様々な作曲法で、簡単な作曲を行える高度な技能と豊かな表現力の獲得。
- 授業の計画（全体） 受講生の関心の強い主題により決定する。
- 教科書・参考書 教科書：取り上げる領域によって決定。／参考書：授業時間中に必要に応じ適宜紹介する。
- メッセージ 自発的な取り組みが成果を生む。
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	作曲演習	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	池上敏				

- 授業の概要 声楽曲、器楽曲の習作の作曲や、高度な編曲技術の研究を行う。
- 授業の一般目標 声楽曲、器楽曲の習作の作曲や、高度な編曲技術の取得を目指し、必要に応じた高度な教材開発能力を習得することを目指す。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 様々な作曲法の基本的な知識の習得と理解。 思考・判断の観点： 音楽表現意図、教材作成意図に沿った作曲手法を的確に選択し、その判断が的確かどうか、を判断する思考力の獲得。 関心・意欲の観点： 様々な作曲法に対する関心と、その作曲法を試してみよう、という意欲。 技能・表現の観点： 様々な作曲法で作曲できる技能の習得と、幅広い表現力の獲得。
- 授業の計画（全体） 受講生個々の持つ課題に対応して決定する。
- 教科書・参考書 教科書： 受講生との話し合いにより、必要ならば指示する。／ 参考書： 授業時間中に必要に応じ適宜紹介する。
- メッセージ 強い好奇心と旺盛な意欲が肝要。
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	音楽学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	某				

- 授業の概要 基本的な音楽学の方法論を実践的に学びます。
- 授業の一般目標 基本的な音楽学の方法論を身につける。
- 授業の計画（全体） 開講時に詳細なシラバスを配布します。
- 教科書・参考書 教科書：教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。／参考書：『音楽の文章術』を使用します。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは開講時にお知らせします。

開設科目	音楽学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	某				

- 授業の概要 履修生の研究課題に則した課題を設定し、考察を深めていきます。
- 授業の計画（全体） 各受講生が設定したテーマに基づいて授業の計画を立てます。
- 成績評価方法（総合） 授業で課す課題を評価の対象とします。

開設科目	音楽科教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	野波健彦・某				

- 授業の概要 あくまで現場の実践に結びついた音楽教育学をめざし、音楽教育方法学、音楽教育心理学、音楽教育内容学などの基礎研究をベースにして、より専門的に研究を深める。

開設科目	音楽科教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	池上敏				

- 授業の概要 音楽科教育を側面から支援する様々な領域の研究を、資料等を検討することを通して行うと共に、音楽科教育への支援の方法を実践的に探究する。
- 授業の一般目標 音楽科教育を側面から支援する様々な領域の理解と、それらの領域からの支援の方法を理解し、実践すること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：様々な支援の形態の知識と理解 思考・判断の観点：様々な支援の方法を考え、最適な支援方法を判断する。 関心・意欲の観点：支援できる様々な領域への関心
- 授業の計画（全体） 受講生の学習歴、関心の所在などによって学年はじめに決定する。
- 教科書・参考書 教科書：特に定めない。／参考書：必要に応じ、授業時間中に適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	池上敏				

- 授業の概要 修士学位請求論文等の作成に必要な、研究テーマに対する基本的で広汎な知見、研究についての情報収集の手法などを指導する。
- 授業の一般目標 コンピュータを使っての情報検索技術の習得、論文執筆の基本的なマニュアルの理解を目指す。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：研究テーマへの基本的な知識の獲得、研究目標の理解。思考・判断の観点：研究を深める方法論の探究を自ら獲得できる思考能力の獲得、検索から得られた情報の価値判断、評価を行える能力の獲得。関心・意欲の観点：先行研究の把握、学会や研究会への参加。技能・表現の観点：研究内容をよりの確に表現するための文章能力の錬磨。
- 授業の計画（全体） 研究テーマによって決定する。
- 成績評価方法（総合） 課題への取り組みの態度、研究の進捗状況などを総合的に評価
- 教科書・参考書 教科書：特に定めない。／参考書：必要に応じ、授業時間中に紹介する。
- メッセージ 研究はあくまで自発的に行うもの、という基本的な態度を忘れないこと。
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	池上敏				

- 授業の概要 修士学位請求論文等の作成に必要な、研究テーマに対する基本的で広汎な知見、研究についての情報収集の方途などを指導する。
- 授業の一般目標 コンピュータを使っての情報検索技術の習得、論文執筆の基本的なマニュアルの理解を目指す。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：研究テーマへの基本的な知識の獲得、研究目標の理解。思考・判断の観点：研究を深める方法論の探究を自ら獲得できる思考能力の獲得、検索から得られた情報の価値判断、評価を行える能力の獲得。関心・意欲の観点：先行研究の把握、学会や研究会への参加。技能・表現の観点：研究内容をよりの確に表現するための文章能力の錬磨。
- 授業の計画（全体） 研究テーマによって決定する。
- 成績評価方法（総合） 課題への取り組みの態度、研究の進捗状況などを総合的に評価
- 教科書・参考書 教科書：特に定めない。／参考書：必要に応じ、授業時間中に紹介する。
- メッセージ 研究はあくまで自発的に行うもの、という基本的な態度を忘れないこと。
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

美術教育専修

開設科目	美術教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	福田隆眞				

●授業の概要 美術教育の理念について歴史、教育課程、民間教育運動等を通して解説する。また、東南アジアの美術教育についても現状と考え方について解説する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 美術教育の理念歴史その 1
- 第 2 回 項目 同上その 2
- 第 3 回 項目 同上その 3
- 第 4 回 項目 同上その 4
- 第 5 回 項目 美術教育の教育課程その 1
- 第 6 回 項目 同上その 2
- 第 7 回 項目 同上その 3
- 第 8 回 項目 教える美術教育
- 第 9 回 項目 育む美術教育
- 第 10 回 項目 シンガポールの美術教育その 1
- 第 11 回 項目 同上その 2
- 第 12 回 項目 マレーシアの美術教育その 1
- 第 13 回 項目 同上その 2
- 第 14 回 項目 インドネシアの美術教育
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	美術教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	福田隆眞				

●授業の概要 美術教育の教材について教科書を基にして考え方を探求する。本年度はシンガポールの教科書を事例とする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 シンガポールの教科書の購読その 1
- 第 2 回 項目 同上 同上その 2
- 第 3 回 項目 同上その 3
- 第 4 回 項目 同上その 4
- 第 5 回 項目 同上その 5
- 第 6 回 項目 同上その 6
- 第 7 回 項目 同上その 7
- 第 8 回 項目 教材構成について その 1
- 第 9 回 項目 同上その 2
- 第 10 回 項目 同上その 3
- 第 11 回 項目 美術教科書と鑑賞 その 1
- 第 12 回 項目 同上その 2
- 第 13 回 項目 情報化社会と美術教育
- 第 14 回 項目 アジア世界と美術教育
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	美術教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	吉田貴富				

●授業の概要 現代の教育思潮や近年の美術教育研究の成果をもとに、美術教育の今日的課題を論じる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション。授業者、受講者の自己紹介、等。
- 第 2 回 項目 大学院における研究：教科専門と教科教育。レポートの書き方（1）
- 第 3 回 項目 大学院における研究：レポートの書き方（2）
- 第 4 回 項目 「学校」再考：学校教育の現状。学校教育のパラドクス。脱学校論からの今日的示唆。
- 第 5 回 項目 美術教師の現状。教員養成を考える。
- 第 6 回 項目 美術教育思潮の源流（1）：創造主義再考。
- 第 7 回 項目 美術教育思潮の源流（2）：造形主義再考。
- 第 8 回 項目 美術教育思潮の源流（3）：生活（認識）主義再考。
- 第 9 回 項目 美術教育思潮の源流（4）：D B A E 再考。
- 第 10 回 項目 描画発達段階再考
- 第 11 回 項目 造形遊びを支える論理
- 第 12 回 項目 レポート中間提出
- 第 13 回 項目 美術教育における評価
- 第 14 回 項目 カリキュラムの再構築に向けて
- 第 15 回 項目 まとめ。レポート提出に向けて。

●教科書・参考書 教科書：『美術科教育の基礎知識』，宮脇理監修，建帛社，2000 年

●連絡先・オフィスアワー ■研究室：教育学部南棟 2 階 ■電話& F A X：0 8 3－9 3 3－5 3 7 2 ■
E－m a i l：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp ★メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。■
オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	美術教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	吉田貴富				

●授業の概要 日米の美術教育ジャーナルに掲載された論文を講読することにより、最新の動向を把握し、今日的課題について考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakShION。教材（論文）配付。
- 第 2 回 項目 教材 1（日本語文献）購読（1）
- 第 3 回 項目 教材 1 購読（2）
- 第 4 回 項目 教材 1 購読（3）
- 第 5 回 項目 教材 1 購読（4）
- 第 6 回 項目 教材 2（英語文献）購読（1）
- 第 7 回 項目 教材 2 購読（2）
- 第 8 回 項目 教材 2 購読（3）
- 第 9 回 項目 教材 2 購読（4）
- 第 10 回 項目 児童画コンクールについて
- 第 11 回 項目 教材 3（英語文献）講読（1）
- 第 12 回 項目 教材 3 講読（2）
- 第 13 回 項目 教材 3 講読（3）
- 第 14 回 項目 教材 3 講読（4）
- 第 15 回 項目 まとめ：ディスカッション

●連絡先・オフィスアワー ■研究室：教育学部南棟 2 階 ■電話& F A X：0 8 3－9 3 3－5 3 7 2 ■
E－m a i l：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp ★メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。■
オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてきても構いません。

開設科目	絵画特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	中野良寿				

●授業の概要 (1) 絵画における古典技法(テンペラ、白亜地等)の実習。(2) 空間における平面作品のあり方をインスタレーションの実例をあげながら考察する。

●授業の一般目標 (1) 絵画における古典技法(テンペラ、白亜地等)についての理解を深め、古典技法による作品を制作する。(2) 平面作品によりインスタレーションを行う。

●授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 古典技法についての造詣を深める。 技能・表現の観点: 技法書に基づき古典技法を実際に使った作品をつくることことができる。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 白亜地実習(1)

第2回 項目 //

第3回 項目 //

第4回 項目 //

第5回 項目 //

第6回 項目 課題(2)

第7回 項目 //

第8回 項目 //

第9回 項目 //

第10回 項目 //

第11回 項目 自主制作

第12回 項目 //

第13回 項目 //

第14回 項目 //

第15回 項目 講評

●成績評価方法(総合) (1) 授業態度 (2) 制作作品 (3) 出席

●教科書・参考書 教科書: 絵画技法入門 佐藤一郎著 美術出版社

●連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp 090-9003-6944

開設科目	絵画演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	中野良寿				

- 授業の概要 自作に関連する美術作家について研究し、自由制作および作品発表計画をつくる。
- 授業の一般目標 (1) 自作に関連する美術作家について研究する。(2) 自由制作および作品発表計画をつくる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：美術作家についての造詣を深める 態度の観点：作品を自主的に制作し、発表することができる。 技能・表現の観点：新しい技術やスタイルを模索することができる。
- 授業の計画(全体) 自作に関連する美術作家について研究し、自由制作および作品発表計画をつくる。
- 授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 課題(1)作家研究
- 第2回 項目 //
- 第3回 項目 //
- 第4回 項目 //
- 第5回 項目 //
- 第6回 項目 課題(2)自由制作
- 第7回 項目 //
- 第8回 項目 //
- 第9回 項目 //
- 第10回 項目 //
- 第11回 項目 //
- 第12回 項目 //
- 第13回 項目 //
- 第14回 項目 //
- 第15回 項目 講評会

- 連絡先・オフィスアワー nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	彫刻特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	松原茂				

●授業の概要 イタリア式ロウ型鋳造法について解説し、ブロンズの鋳造工程について体験を通して指導する。

●授業の一般目標 ロウ型鋳造法の特徴および彫刻の素材について理解を深める。

●授業の到達目標／ 関心・意欲の観点： 彫刻の素材について興味・関心をもつ。 技能・表現の観点：
ロウ型鋳造法による小品のブロンズ鋳造ができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 ロウ原型制作

第3回 項目 同上

第4回 項目 同上

第5回 項目 同上

第6回 項目 同上

第7回 項目 湯道, コウガイ制作

第8回 項目 同上

第9回 項目 鋳型製作

第10回 項目 同上

第11回 項目 同上

第12回 項目 同上

第13回 項目 鋳込み

第14回 項目 仕上げ

第15回 項目 同上

●メッセージ スケッチブック持参

開設科目	彫刻演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	松原茂				

●授業の概要 人体を対象にフォルムや表現技術などについて指導する。人体モデルを使い、かなsつに基づいて制作をするが、表面的な写実に終わることなく、人体の構造や感情表現など、より高度な表現技法の指導を心がけたい。

●授業の一般目標 人体をテーマにして、フォルム、動勢、比例、均衡などより高度な表現技術を習得する。

●授業の到達目標／ 関心・意欲の観点：人体彫刻に関心をもつ。 技能・表現の観点：対象をより深く観察し、人体の構造を捉え表現することができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 デッサン

第3回 項目 デッサン

第4回 項目 心棒作り、粘土練

第5回 項目 粘土による制作

第6回 項目 同上

第7回 項目 同上

第8回 項目 同上

第9回 項目 同上

第10回 項目 同上

第11回 項目 同上

第12回 項目 石膏取り

第13回 項目 同上

第14回 項目 同上

第15回 項目 仕上げ

●メッセージ スケッチブック持参。

開設科目	デザイン特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	堀家敬嗣				

- 授業の概要 イメージ（映像）理論として注目すべき新旧の文献を精読し、その今日的な意義および可能性を検討する。
- 授業の一般目標 イメージ（映像）理論として注目すべき新旧の文献の今日的な意義および可能性の理解を目標とする。

開設科目	デザイン演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	熊谷武洋				

●授業の概要 コンピュータ・グラフィックスおよびデジタル動画像を用いて視聴覚教材を想定した制作を行う。したがって芸術性ではなく有用性が評価の対象となる。また成果物だけではなくそれにいたる計画なども途中課題として学生自身によるプレゼンテーションを行う。／検索キーワード マルチメディア教材 コンピュータ

●授業の一般目標 本講義は、コンピュータを駆使して視聴覚教材を制作できる、もしくはその工程を計画できる技術を修得し、その有用性や可能性についても理解を深めることを目標としている。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：画像情報処理の基本技術、概念、有用性、社会性について自分自身の視座を獲得しているか 思考・判断の観点：与えられた条件から有用性のある成果物を計画・制作できるか 技能・表現の観点：自分が策定した計画にしたがってコンテンツ（含視聴覚教材）を完成レベルにまで制作できるか

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 メディア教育とコンピュータ
- 第2回 項目 メディア教育における事例紹介
- 第3回 項目 要素技術に関する概説-1-
- 第4回 項目 要素技術に関する概説-2-
- 第5回 項目 視聴覚教材制作計画案について
- 第6回 項目 制作計画案作成作業-1-
- 第7回 項目 一次発表
- 第8回 項目 制作計画案作成作業-2-
- 第9回 項目 制作計画案作成作業-3-
- 第10回 項目 二次発表
- 第11回 項目 実制作-1-（適宜 質疑応答）
- 第12回 項目 実制作-2-（適宜 質疑応答）
- 第13回 項目 実制作-3-（適宜 質疑応答）
- 第14回 項目 最終発表
- 第15回 項目 まとめ

●メッセージ 作品自体の完成度もさることながら成果物が自分の立場や考え方の中にきちんと位置付けられていることが重要です。

開設科目	工芸特別研究 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	吉賀将夫				

●授業の概要 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、作品制作と理論的な面と併せて研究する。

●授業の一般目標 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、作品制作と理論的な面と併せて研究し陶芸への理解をを深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 全体説明

第 2 回 項目 制作論講義 及び制作研究（含 焼成）

第 3 回 項目 //

第 4 回 項目 //

第 5 回 項目 //

第 6 回 項目 //

第 7 回 項目 //

第 8 回 項目 //

第 9 回 項目 //

第 10 回 項目 //

第 11 回 項目 //

第 12 回 項目 //

第 13 回 項目 //

第 14 回 項目 //

第 15 回 項目 研究結果講評

開設科目	工芸演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	吉賀將夫				

●授業の概要 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、陶芸の制作を行う。

●授業の一般目標 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、陶芸制作を行い作品を完成する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 全体説明

第 2 回 項目 制作論講義 及び制作研究（含 焼成）

第 3 回 項目 //

第 4 回 項目 //

第 5 回 項目 //

第 6 回 項目 //

第 7 回 項目 //

第 8 回 項目 //

第 9 回 項目 //

第 10 回 項目 //

第 11 回 項目 //

第 12 回 項目 //

第 13 回 項目 //

第 14 回 項目 //

第 15 回 項目 研究結果講評

開設科目	工芸特別研究 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	某				

●授業の概要 工芸の意味・特質について、木材工芸を中心に考察する。

開設科目	工芸演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	某				

●授業の概要 木材工芸の加工技法を中心として制作及び研究を行う。

開設科目	美術史特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	菊屋吉生				

●授業の概要 日本美術史、とくに近世、近代絵画史上の諸問題について講義をする。また受講生に対応して史料を読み解きながら、講義を行うことも想定される。

●授業の一般目標 (1) 日本美術史の諸問題を理解し、それに対する自らの考察を加える基本的能力を養う。
(2) 美術史の基本史料を読みこなし、そこに存在する問題を抽出し、検討する能力の養成。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本美術史に関する全般的な理解を基礎としつつ、各論としての美術史のテーマをもつ。思考・判断の観点：美術史の理解として得たテーマを、史料をもとに考察し、検討する。関心・意欲の観点：設定したテーマに対する基礎的な研究意欲を醸成する。態度の観点：史料の読解、探索など積極的な授業参加を期待する。

●授業の計画（全体）日本美術史の問題をとくに設定したテーマで講義を行ない。その後それに伴う史料購読を行ない、さらに研究討議をしながら論点の整理と分析を行なう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 全体説明
- 第2回 項目 日本美術の問題点(1)
- 第3回 項目 日本美術の問題点(2)
- 第4回 項目 日本美術の問題点(3)
- 第5回 項目 日本美術の問題点(4)
- 第6回 項目 研究討議
- 第7回 項目 史料購読(1)
- 第8回 項目 史料購読(2)
- 第9回 項目 史料購読(3)
- 第10回 項目 史料購読(4)
- 第11回 項目 史料購読(5)
- 第12回 項目 史料購読(6)
- 第13回 項目 史料購読(7)
- 第14回 項目 研究討議
- 第15回 項目 まとめ

●教科書・参考書 参考書：参考書については授業のなかでその都度示す。

●連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	美術史演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	菊屋吉生				

●授業の概要 受講生の研究領域に対応したテーマを設けて、研究発表形式で授業をもち、討論、討議も行う。

●授業の一般目標 (1) 設定したテーマに対する研究方法の見極めと、アプローチの仕方を検討する。(2) 修士論文作成を念頭に、問題点の整理と分析を深める。

●授業の到達目標／ 思考・判断の観点：研究テーマの確立と、その研究のための基礎的な考え方の方向性の確立をめざす。 関心・意欲の観点：史料の研究、探索に関して意欲的なあり方を期待したい。

●授業の計画(全体) 研究テーマに関する研究発表を基本として、適宜討議や分析を加えていく。ときとして実際にテーマに関わる研究調査を行なう場合もある。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 全体説明
- 第2回 項目 研究発表
- 第3回 項目 研究発表
- 第4回 項目 研究発表
- 第5回 項目 研究発表
- 第6回 項目 研究発表
- 第7回 項目 討議と分析
- 第8回 項目 研究発表
- 第9回 項目 研究発表
- 第10回 項目 研究発表
- 第11回 項目 研究発表
- 第12回 項目 研究発表
- 第13回 項目 討議と分析
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回

●教科書・参考書 参考書：参考書に関しては適宜授業で示す。

●連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	美術教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	福田隆眞・吉田貴富				

- 授業の概要 美術教育の実践的問題について把握し、附属学校などの協力を得て、教材開発、指導法、教育の今日的課題の認識について習得する。

開設科目	美術教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	福田隆真・菊屋吉生				

●授業の概要 美術教育の広義な実践として社会教育、美術館教育などにおける教育支援の実際について習得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 社会教育場面における美術教育支援 その1
- 第2回 項目 同上その2
- 第3回 項目 同上その3
- 第4回 項目 同上その4
- 第5回 項目 美術館における美術教育支援その1
- 第6回 項目 同上その2
- 第7回 項目 同上その3
- 第8回 項目 同上その4
- 第9回 項目 同上その5
- 第10回 項目 同上その6
- 第11回 項目 同上その7
- 第12回 項目 支援と教材開発その1
- 第13回 項目 同上その2
- 第14回 項目 同上その3
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	菊屋吉生				

- 授業の概要 大学院修士1年次前期における美術史における基礎的な事項に関する自主学習を指導する。特定のテーマ、書籍などを指定してその内容を研究する。
- 授業の一般目標 (1) 大学院修士1年次における美術史に関する基礎的研究能力の養成 (2) 大学院修士1年次における美術史に関する基礎的知識の獲得
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：美術史の特定の分野における将来の研究活動にそなえた基礎的な知識や理解を深める。思考・判断の観点：テーマや書籍を研究することによって、実作品、研究文献資料もふくめた上での、基礎的な考察方法の確立に役立てる。関心・意欲の観点：文献資料等の探索、内容研究によって、特定のテーマに対する理解と関心を喚起する。態度の観点：積極的な自主学習を期待する。
- 授業の計画(全体) とくに定期的な授業形式はとらない。一定の成果の報告や発表という形式にて、自主学習と自己研究の進捗状況をみたい。
- 教科書・参考書 教科書：とく指定しないが、その都度、書籍や論文を紹介する。／参考書：とく指定しないが、その都度、書籍や論文を紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	中野良寿				

●授業の概要 各自の表現による作品制作。制作された作品と作品がどのような関連性をもつのかについての考察を行う。(ディスカッション)

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 自主制作
- 第2回 項目 //
- 第3回 項目 //
- 第4回 項目 //
- 第5回 項目 //
- 第6回 項目 講評会
- 第7回 項目 //
- 第8回 項目 //
- 第9回 項目 //
- 第10回 項目 //
- 第11回 項目 講評会
- 第12回 項目 //
- 第13回 項目 //
- 第14回 項目 //
- 第15回 項目 講評会

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	福田隆真				

●授業の概要 各受講生のテーマに従って、論文作成のための基礎となる資料収集、分析、個々の問題のまとめを行なう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 問題の探求その1
- 第2回 項目 同上その2
- 第3回 項目 同上その3
- 第4回 項目 資料の収集その1
- 第5回 項目 同上その2
- 第6回 項目 同上その3
- 第7回 項目 資料の分析その1
- 第8回 項目 同上その2
- 第9回 項目 小論文作成その1
- 第10回 項目 同上その2
- 第11回 項目 同上その3
- 第12回 項目 同上その4
- 第13回 項目 同上その5
- 第14回 項目 同上その6
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	吉賀将夫				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	吉田貴富				

●授業の概要 美術教育研究の基礎について多様な側面及び具体的な事例から学ぶ。附属学校の公開授業・協議会および教育実習の授業・協議会等に積極的に参加し、教育現場及び教員養成のアクチュアルな問題への認識を深める。

●連絡先・オフィスアワー ■研究室：教育学部南棟2階 ■電話& F A X：083-933-5372 ■ E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp ★メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。■ オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	菊屋吉生				

- 授業の概要 受講生がテーマとする研究にそって、その進捗状況に応じて逐次研究方法、参考文献などを指導する。また不定期に研究発表をし、研究状況を報告することとしたい。
- 授業の一般目標 (1) 大学院修士2年次における美術史に関する総合的研究能力の養成 (2) 大学院修士2年次における美術史に関する総合的知識の獲得
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：美術史の特定の分野における修士論文を想定した研究活動にそなえる知識や理解を獲得する。思考・判断の観点：テーマや書籍を研究することによって、実作品、研究文献資料もふくめた上での、修士論文作成にむけての具体的な構想に役立てる。関心・意欲の観点：文献資料等の探索、内容研究によって、修士論文作成のための特定のテーマに対する関心を集中させる。態度の観点：積極的な資料収集、資料研究を期待する。
- 授業の計画(全体) とくに定期的な授業形式はとらない。一定の成果の報告や発表という形式にて、修士論文研究の進捗状況をみたい。
- 連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	中野良寿				

●授業の概要 自作のテーマに沿った作品制作をする。制作に関連した修士論文のテーマを決定し、論文を書く。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 課題説明
- 第2回 項目 制作（1）
- 第3回 項目 制作（2）
- 第4回 項目 制作（3）
- 第5回 項目 制作（4）
- 第6回 項目 ディスカッション（1）
- 第7回 項目 制作（5）
- 第8回 項目 制作（6）
- 第9回 項目 制作（7）
- 第10回 項目 制作（8）
- 第11回 項目 ディスカッション（2）
- 第12回 項目 制作（9）
- 第13回 項目 制作（10）
- 第14回 項目 制作（11）
- 第15回 項目 講評

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	福田隆眞				

●授業の概要 論文作成のための資料収集、分析、問題解決、小論文作成をおこなう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 美術教育にかかわる問題の発見その1
- 第2回 項目 同上その2
- 第3回 項目 同上その3
- 第4回 項目 美術教育にかかわる資料の収集その1
- 第5回 項目 同上その2
- 第6回 項目 同上その3
- 第7回 項目 資料の分析その1
- 第8回 項目 同上その2
- 第9回 項目 同上その3
- 第10回 項目 論文作成その1
- 第11回 項目 同上その2
- 第12回 項目 同上その3
- 第13回 項目 同上その4
- 第14回 項目 同上その5
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	吉田貴富				

●授業の概要 自己の研究テーマに沿って、必要な情報を集めながら、関連文献の講読を進め、論文の作成を進める。

●連絡先・オフィスアワー ■研究室：教育学部南棟2階 ■電話& F A X：083-933-5372 ■
E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp ★メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。■
オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	菊屋吉生				

- 授業の概要 大学院修士1年次後期における美術史における基礎的な事項に関する自主学習を指導する。特定のテーマ、書籍などを指定してその内容を研究する。
- 授業の一般目標 (1) 大学院修士1年次における美術史に関する基礎的研究能力の養成 (2) 大学院修士1年次における美術史に関する基礎的知識の獲得
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：美術史の特定の分野における将来の研究活動にそなえた基礎的な知識や理解を深める。思考・判断の観点：テーマや書籍を研究することによって、実作品、研究文献資料もふくめた上での、基礎的な考察方法の確立に役立てる。関心・意欲の観点：文献資料等の探索、内容研究によって、特定のテーマに対する理解と関心を喚起する 態度の観点：積極的な自主学習を期待する。
- 授業の計画(全体) とくに定期的な授業形式はとらない。一定の成果の報告や発表という形式にて、自主学習と自己研究の進捗状況をみたい。
- 教科書・参考書 教科書：とく指定しないが、その都度、書籍や論文を紹介する。／参考書：とく指定しないが、その都度、書籍や論文を紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	中野良寿				

●授業の概要 自作のテーマに沿った作品制作および、修了論文のための資料収集をする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 課題説明
- 第2回 項目 制作（1）
- 第3回 項目 制作（2）
- 第4回 項目 制作（3）
- 第5回 項目 ディスカッション
- 第6回 項目 制作（4）
- 第7回 項目 制作（5）
- 第8回 項目 制作（6）
- 第9回 項目 制作（7）
- 第10回 項目 ディスカッション
- 第11回 項目 制作（8）
- 第12回 項目 制作（9）
- 第13回 項目 制作（10）
- 第14回 項目 制作（11）
- 第15回 項目 講評

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	福田隆真				

●授業の概要 論文作成のための全体構成、各章ごとの内容の点検を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テーマと内容構成 の検討その 1
- 第 2 回 項目 同上その 2
- 第 3 回 項目 同上その 3
- 第 4 回 項目 1 章の作成と検討 その 1
- 第 5 回 項目 同上その 2
- 第 6 回 項目 同上その 3
- 第 7 回 項目 同上その 4
- 第 8 回 項目 2 章の作成と検討 その 1
- 第 9 回 項目 同上その 2
- 第 10 回 項目 同上その 3
- 第 11 回 項目 同上その 4
- 第 12 回 項目 同上その 5
- 第 13 回 項目 全体構成の再検討 その 1
- 第 14 回 項目 同上その 2
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	吉田貴富				

●授業の概要 研究テーマの絞り込みを、指導教員との対話も参考にしながら進める。およそのテーマに沿って、必要な情報を集めながら、関連文献を講読し、調査レポートを作成する。附属学校の公開授業・協議会および教育実習の授業・協議会等に積極的に参加し、教育現場及び教員養成のアクチュアルな問題への認識を深める。

●連絡先・オフィスアワー ■研究室：教育学部南棟2階 ■電話& F A X：083-933-5372 ■ E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp ★メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。■ オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	菊屋吉生				

- 授業の概要 ここでは、修士論文の完成をめざした研究とその指導を行う。論文のテーマにそった発表およびレポート作成を課し、逐次その検討を行う。
- 授業の一般目標 修士論文の具体的指導とその完成をめざす。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： これまで得てきた専門分野における知識や理解を駆使して修士論文へと反映させる。 思考・判断の観点： 収集した資料や書籍をもとに、修士論文の構成を組み立て、自らの論理を展開させる。 関心・意欲の観点： 修士論文の完成と、それをもとにしたさらなる研究への関心を促したい。 態度の観点： 修士論文完成への集中力を期待したい。
- 授業の計画（全体） とくに定期的な指導は行なわないが、修士論文の締め切りが近づくにつれてマンツーマンでの指導が続くことになると想定されるので、自らの生活形態をそこへ集中させてほしい。
- 連絡先・オフィスアワー kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	中野良寿				

●授業の概要 修了作品制作および修士論文についてゼミ形式で討議する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 課題説明
- 第2回 項目 制作（1）
- 第3回 項目 ディスカッション（1）
- 第4回 項目 制作（2）
- 第5回 項目 制作（3）
- 第6回 項目 制作（4）
- 第7回 項目 ディスカッション（2）
- 第8回 項目 制作（5）
- 第9回 項目 制作（6）
- 第10回 項目 制作（7）
- 第11回 項目 ディスカッション（3）
- 第12回 項目 制作（8）
- 第13回 項目 制作（9）
- 第14回 項目 制作（10）
- 第15回 項目 講評

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	福田隆真				

●授業の概要 論文作成の仕上げを行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 3章の作成と検討 その1

第 2 回 項目 同上その2

第 3 回 項目 同上その3

第 4 回 項目 同上その4

第 5 回 項目 同上その5

第 6 回 項目 4章の作成と検討 その1

第 7 回 項目 同上その2

第 8 回 項目 同上その3

第 9 回 項目 同上その4

第10回 項目 資料の検討その1

第11回 項目 同上その2

第12回 項目 全体の見直しその1

第13回 項目 同上その2

第14回 項目 同上その

第15回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	吉田貴富				

●授業の概要 論文執筆を進める中で浮上する問題や課題を解決しながら執筆を進める。

●連絡先・オフィスアワー ■研究室：教育学部南棟2階 ■電話& F A X：083-933-5372 ■
E-mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp ★メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。■
オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

保健体育教育専修

開設科目	体育科教育特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	海野勇三				

- 授業の概要 現代における子どもの生活の変容と発達疎外の状況に関して、各自がテーマを設定し、体育・スポーツという視点から関連する先行研究を検討する。
- 授業の一般目標 子どもの生活スタイルと発達疎外の状況について、各自が担当したテーマに関する先行研究の考察と報告を通じて、テーマについての理解を深めるとともに、レポートのまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 各自のテーマに関し、これまでの先行研究の概要と問題点について説明できる。 思考・判断の観点： 現代の子どもの生活課題・発達課題を理解し、体育科教育の課題について自説を展開できる。 関心・意欲の観点： テーマに関する様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体） 受講者間で考察したいテーマを設定し、それぞれが具体的な先行研究をレビューしながら、適宜報告してもらい、ゼミ形式ですすめていく。
- 成績評価方法（総合） 授業時のレポートおよび総括レポートの作成過程と完成度により、総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	体育科教育特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	某				

- 授業の概要 体育科教育における運動の学習の指導方法論を取り上げ、メンタルプラクティス、視聴覚指導、運動感覚的指導について論じる。
- 授業の一般目標 メンタルプラクティス、視聴覚指導、運動感覚的指導に関する基礎理論を理解させる。
- 授業の計画（全体） メンタルプラクティス、視聴覚指導、運動感覚的指導に関する文献を購読し、その概略を理解させる。その上で、近年の文献をもとに、理論的背景を探ると同時に近年の研究動向について論じる。
- 教科書・参考書 教科書：メンタルトレーニングの心理学, R.N. シンガー（松田岩男監訳）, 大修館書店, 1986 年

開設科目	体育科教育特論演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	海野勇三				

- 授業の概要 体育科教育特論 II で子どもの生活スタイルと発達状況に関する先行研究の考察を踏まえて、実際に研究課題を絞って調査票を作成し、実態調査を試みる。そして、調査結果を分析・考察する。
- 授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、先行研究を踏まえて必要な調査方法を構成し、実施する。また調査結果を分析・考察することを通して、テーマについての理解を深める。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 先行研究を踏まえて、適切な調査方法を構成できる。調査結果を先行研究のそれと関連で適切に解釈することができる。思考・判断の観点： 先行研究を踏まえて、適切な調査方法を構成できる。調査結果を先行研究のそれと関連で適切に解釈することができる。
- 授業の計画（全体） 前半で調査テーマを設定し、テーマに即した調査のデザインを構想する。後半では実際に調査を実施して、その結果を分析・考察していく。
- 成績評価方法（総合） 調査計画－実施－分析と考察の過程、および、調査報告レポートの完成度により総合的に評価する
- 連絡先・オフィスアワー ynno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	体育学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	三好洋二				

- 授業の概要 社会制度としての体育・スポーツを社会的諸力（政治・経済・文化・教育等）と相互に影響しあう社会的現象として理解し、その成立、維持、発展、変動のメカニズムについて論じる。／検索キーワード スポーツ、体育、社会制度
- 授業の一般目標 現代社会における社会現象としての体育・スポーツの事象を認識するとともに、そうした問題等の原因・背景を推論するための基本的な考え方を理解する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 現代社会において生起している体育・スポーツ問題の社会的背景について説明できる。 思考・判断の観点： 現代社会において生起している体育・スポーツ問題について、自分の意見を論理的に述べるができる。 関心・意欲の観点： 現代社会において生起している体育・スポーツ問題について関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点： 現代社会において生起している体育・スポーツ問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体） 文献購読及ディスカッションを行いながら進める。
- 成績評価方法（総合） 演習に対する取り組み状況及びレポートによって評価する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 1 6 2 番室 電話：9 3 3 - 5 3 7 6 E-mail:ymiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	体育学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	池田恵子				

- 授業の概要 体育・スポーツ文化論、歴史の観点から近代スポーツの視座を捉え、スポーツの伝播過程とその権力関係、社会的脈絡について理解を深める。
- 授業の一般目標 現代社会を取り巻く体育・スポーツ事象について、歴史的観点からその原理を問う。そのための基礎的知識を学术论文の読解を通じて習得する。学术论文の読解は主として、演習形式で集約、発表を行い、論理的に再構成し、先行研究の限界について指摘する。学术论文を正確に読解することができる。先行研究の研究方法来即して中身を自らのことばで集約し、説明することができる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 学术论文を正確に読解することができる。先行研究の研究方法来即して中身を自らのことばで集約し、説明することができる。 思考・判断の観点： 学术论文の方法論を自らの関心に引き付けて、再構成し、論文の限界を指摘することができる。発展的解釈や、現代的視角を投げ、論文の意味について、思考を深めることができる。 関心・意欲の観点： 主体的に演習テーマに即した文献を収集し、参照することができる。
- メッセージ 昨年度授業内容 (体育学特論 III) を研究室HPにて公開しているので、参照のこと。
<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kikeda/newpage11.htm>
- 連絡先・オフィスアワー 池田恵子： E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176
- 備考 集中授業

開設科目	体育学特論 III	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	上地 広昭				

- 授業の概要 行動科学の観点から、健康行動としての運動行動の継続性 (以下、アドヒアランス) について講ずる。
- 授業の一般目標 運動行動のアドヒアランスに関する理論・モデルについて理解し、基礎的統計法の習得および学術論文の読解を行う。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 運動行動のアドヒアランスに関する基礎知識を理解する。 思考・判断の観点： 独自の観点から運動行動のアドヒアランスに関して理解する。 関心・意欲の観点： 運動行動のアドヒアランス研究に関する文献を自主的に検索し、読み進める。
- 連絡先・オフィスアワー uechi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	体育学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	三好洋二・池田恵子・上地広昭				

- 授業の概要 現代スポーツの中から主要な問題を取り上げ、それに関わるこれまでの文献の講読をとおして理解を深める。
- 授業の一般目標 体育学特論I・II・IIIの学習をふまえた上で、現代スポーツの中から主要な問題を取り上げ、それに関わるこれまでの文献の購読を通して理解を深める。
- 授業の計画(全体) 三人の教官がそれぞれの専門分野から、現代スポーツの主要な問題を取り上げ、それに関わる文献購読とディスカッションを行う。
- 連絡先・オフィスアワー 三好洋二：研究室162番室 E-mail:y Miyoshi@yamaguchi-u.ac.jp 池田恵子：研究室176番室 E-mail:kikeda@yamaguchi-u.ac.jp 上地広昭：研究室166番室 E-mail:uechi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	運動学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	曾根涼子				

●授業の概要 運動を生理学（主に心肺機能系）の面から捉え、運動の効果および発現機序などについて論じる。／検索キーワード 運動、心肺機能

●授業の一般目標 運動を生理学（主に心肺機能系）の面から捉え、運動の効果および発現機序などについて理解することを目標とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 運動を生理学（主に心肺機能系）の面から捉え、運動の効果および発現機序などについて説明できる。 思考・判断の観点：1. 心肺機能系に対する各種運動の効果や発現機序について説明できる。 関心・意欲の観点：1. 心肺機能系に対する各種運動の効果や発現機序について関心を持つ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 ガス交換

第 3 回 項目 呼吸筋

第 4 回 項目 運動時の換気亢進

第 5 回 項目 呼吸の化学調節

第 6 回 項目 酸素摂取動態

第 7 回 項目 末梢での酸素利用

第 8 回 項目 二酸化炭素動態

第 9 回 項目 自律神経と筋循環系

第 10 回 項目 自律神経と心腎臓

第 11 回 項目 運動時の血圧調節

第 12 回 項目 動脈血管

第 13 回 項目 毛細血管

第 14 回 項目 運動時の血管抵抗調節と一酸化窒素

第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合）2/3 以上出席が単位認定の最低必要条件である。

●教科書・参考書 教科書：新運動生理学（下巻）、宮村、真興交易医書出版部、2001 年／参考書：必要に応じて紹介する。

●メッセージ 基本的な生理学的知識が必要である。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先：教育学部 101-1 あるいは 101-2（083-933-5389）、sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 9 時～12 時

開設科目	運動学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	曾根涼子・某				

●授業の概要 運動学特論（主に心肺機能系）の発展として、自己研究課題を選び、それについて理解を深める。／検索キーワード 運動学、心肺機能

●授業の一般目標 運動学特論（主に心肺機能系）の発展として、自己研究課題を選び、それについて理解を深め、教育指導の素養を養う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 運動時における心肺機能系の反応および調節機序について理解を深める。 思考・判断の観点：1. 運動の種類による運動時の心肺機能系の反応および調節機序の違いを説明できる。 関心・意欲の観点：1. 運動時における心肺機能系の反応および調節機序について関心を持つ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 心肺機能系に関する研究課題の設定1
- 第3回 項目 心肺機能系に関する文献講読I
- 第4回 項目 心肺機能系に関する実験I
- 第5回 項目 心肺機能系に関する実験結果のまとめI
- 第6回 項目 心肺機能系に関する研究課題の設定II
- 第7回 項目 心肺機能系に関する文献講読II
- 第8回 項目 心肺機能系に関する実験II
- 第9回 項目 心肺機能系に関する実験結果のまとめII
- 第10回 項目 心肺機能系に関する研究課題の設定III
- 第11回 項目 心肺機能系に関する文献講読III
- 第12回 項目 心肺機能系に関する実験III
- 第13回 項目 心肺機能系に関する実験結果結果のまとめIII
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回

●成績評価方法（総合）2/3以上出席が単位認定のための最低必要条件である。

●教科書・参考書 教科書：文献を使用する。

●メッセージ 運動学特論IIを履修していることが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先：教育学部 101-1 あるいは 101-2（083-933-5389）、sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日9時～12時

開設科目	体力学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	森田俊介				

- 授業の概要 運動を行動体力からとらえ、体力・健康づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を紹介し、解説する。
- 授業の一般目標 健康・体力づくり、体力測定法、トレーニング法に関する国内・外の論文を受講者が読み、理解したうえで発表する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：体力づくり、トレーニング法、体力測定法にゆいて生理・生化学的に理解できる。思考・判断の観点：体力づくり、トレーニング法、体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、自分の課題研究との関連を思考できる。関心・意欲の観点：体力づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、自分の課題研究の関心を高めることができる。技能・表現の観点：体力づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、まとめて発表する能力を高めることができる。
- 授業の計画（全体） 授業ごとに受講者が読んだ論文の内容を紹介し、議論を通して理解を深める。
- メッセージ 自分の課題を早急に考えて、関連する論文を読破すること
- 連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385

開設科目	体力学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	杉浦崇夫				

- 授業の概要 運動を行動体力の面から捉え、トレーニング法について、特に骨格筋の生化学的特性から論じる。
- 授業の一般目標 最新の論文を講読することにより骨格筋の生化学的特性を理解し、骨格筋の生化学的变化からトレーニングの特性を理解する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 骨格筋の生化学的特性やトレーニングによる変化を説明できる。
 思考・判断の観点： 骨格筋の生化学的特性について機能と関連づけて考えることができる。 関心・意欲の観点： 当該分野における最新の知見を得ることに努める。 技能・表現の観点： 最新の文献について、背景等も含めて発表することができる。
- 授業の計画（全体） 紹介された文献について担当者を決め、担当者がその内容について関連する分野を含めて発表する。
- 教科書・参考書 参考書： 授業時に紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail takahito@yamaguchi-u.ac.jp,

開設科目	学校保健特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	友定保博				

●授業の概要 学校保健研究（特に保健教育）に関する文献を購読し、研究課題の設定と研究方法論の学習の観点から、各自が選択した研究論文を集団検討します。

●教科書・参考書 参考書：新版 保健の授業づくり入門, 森 昭三ほか, 大修館書店, 2002年

開設科目	学校保健特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	友定保博				

- 授業の概要 子どもの健康管理や健康相談活動の進め方を学習します。子ども・青年の健康や発達にかかわる教育実践・臨床事例をとりあげ、検討します。できるかぎり自己の体験を相対化した事例を記録し報告しますが、公表された実践記録・臨床事例を読み込み、子ども理解や対応の原則、発達課題を考えていきます。（内地研修の養護教諭の先生にも参加していただく予定です）

開設科目	健康処方特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	塩田正俊				

●授業の概要 各ライフステージにおける健康づくりのあり方について、生活習慣とくに運動との関わりから、これまでの研究成果をふまえて論じる。

●授業の一般目標 各ライフステージにおける健康づくりのあり方について、生活習慣とくに運動との関わりを理解し、生活習慣改善の方策を考える。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：各生活習慣病の原因について理解し、生活習慣改善の方策を説明することができる。思考・判断の観点：生活習慣の異常、改善がどのような変化をもたらすか推論することができる。関心・意欲の観点：生活習慣と疾病の関連について関心を持ち、各ライフステージ毎にその方策を自ら考える姿勢が見られる。技能・表現の観点：生活習慣と疾病の関連について解説し、各ライフステージ毎にその方策を考え指導できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 健康の成立要因とその背景
- 第2回 項目 疾病構造の変遷
- 第3回 項目 健康生活とリスクファクター
- 第4回 項目 各生活習慣と健康
- 第5回 項目 児童生徒の生活習慣と健康（運動負荷時の反応）
- 第6回 項目 中高年者の生活習慣と健康（運動不足と血液性状）
- 第7回 項目 身体不活動、栄養過多と身体機能変化
- 第8回 項目 体位変換角度と循環動態
- 第9回 項目 ストレスと休養
- 第10回 項目 暑熱環境ストレスと絶食ストレス
- 第11回 項目 健康処方（運動と栄養の効果）
- 第12回 項目 肥満
- 第13回 項目 糖尿病
- 第14回 項目 高血圧
- 第15回 項目 喫煙と健康

開設科目	健康処方特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	丹信介				

●授業の概要 健康の維持増進という点からみた生活習慣、なかでも身体活動と食生活に関する日常生活における評価の仕方と具体的改善方法に関して演習、実習形式で授業を行う。後半は、健康と生活習慣に関する文献をもとに、ディスカッションを行う。／検索キーワード 健康 生活習慣 行動科学

●授業の一般目標 健康の維持増進という点からみた生活習慣、なかでも身体活動と食生活に関する日常生活における具体的な評価の仕方と具体的改善方法に関して、演習、実習をまじえた授業を通じて理解すると共に、それを実践できる能力を身につける。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 健康の維持増進のために必要な身体活動量1 内容 文献購読
- 第2回 項目 健康の維持増進のために必要な身体活動量2 内容 文献購読
- 第3回 項目 身体活動量の評価方法1
- 第4回 項目 身体活動量の評価方法2
- 第5回 項目 身体活動量促進のための方法1
- 第6回 項目 身体活動量促進のための方法2
- 第7回 項目 健康の維持増進のために必要な食生活の在り方 内容 文献購読
- 第8回 項目 食生活の評価方法1
- 第9回 項目 食生活の評価方法2
- 第10回 項目 食生活・食行動改善のための方法
- 第11回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション1
- 第12回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション2
- 第13回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション3
- 第14回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション4
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合）小テスト／授業内レポート＝20％未満 宿題／授業外レポート＝30％ 授業態度や授業への参加度＝20％未満 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品）＝30％ 出席＝欠格条件

●教科書・参考書 教科書：授業時にプリントを配布する。／参考書：授業時に指示する。

●連絡先・オフィスアワー 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12:50~14:20

開設科目	保健体育科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	海野勇三				

- 授業の概要 体育・スポーツ・健康に関する教育課程および授業実践を取り上げ、科学的実証的な検討をとおして教育実践の改善を図る。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 学校教育現場、特に体育・健康教育をめぐる実践的な課題について説明できる。 思考・判断の観点： 実践的な課題の解決に向けて、実証的に取り組むことができる。
- 授業の計画（全体） 受講者が、グループまたは個人でテーマを設定して学校現場に入り込み、参加観察および実験授業等を通じて、課題とその解決の方途を探る。
- 成績評価方法（総合） 研究の計画－実施－分析－総括の全体を通じて総合的に評価する。
- メッセージ 附属学校の協力を得て授業研究を実施する関係で、一部集中開講や時間割 変更等、変則的な開講形態となる。
- 連絡先・オフィスアワー yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健体育教育支援実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	森田俊介・丹信介				

- 授業の概要 公的施設や民間運動施設において、運動の指導方法を教授する。
- 授業の一般目標 運動を通じた健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導方法を実習し、専門的な知識を理解し指導技術などを習得することを目標とする。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：運動を通じた健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導方法を実習し、専門的な知識を理解できる。レクリエーションプログラムや運動プログラムの計画・立案ができるための知識を習得できる。思考・判断の観点：実際に運動指導を行う時に、指導の方法や内容が対象者にふさわしいものかについて思考・判断できる。関心・意欲の観点：運動を通じた健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において実際に運動の指導をすることに関心を持つことができる。態度の観点：公的施設や民間運動施設において、対人関係が良好にたもつことができる。技能・表現の観点：運動を通じた健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導方法ができる。
- 授業の計画（全体） 実習先では、以下の内容を体験実習する。1. 公的施設及び民間運動施設の管理・運営の概要 2. レクリエーションプログラムや運動プログラムの計画・立案 3. 公的施設におけるレクリエーションプログラムの作成と指導 4. 公的施設及び民間運動施設における健康・体力づくりのための運動プログラムの作成と指導
- 教科書・参考書 参考書：プリント配布
- メッセージ 実習期間は1週間以上になることがある。公的施設や民間運動施設への就職を熱望する学生が望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー 電話 933-5385, 研究室 教 435-1, オフィスアワー 月・昼休み 履修上の注意

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	三好洋二				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	三好洋二				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	友定保博				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	友定保博				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	森田俊介				

- 授業の概要 体力学に関する修士論文の作成にあたり、課題に直結する国内・外の論文を紹介し、理解を深めるために基本的事項について説明する。
- 授業の一般目標 1. 課題に直結する論文を講読し、比較検討する際の基本的技法を理解する。 2. 体力学における論文課題の位置づけについて、主体的に考える姿勢を身につける。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 専門用語を正確に説明できる 思考・判断の観点： 内外の論文を講読して比較検討し、異なる結果が生じる原因を推察できる。 関心・意欲の観点： 体力学における論文課題の位置づけについて、主体的に考えることができる。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	森田俊介				

- 授業の概要 体力学に関する修士論文の作成にあたり、使用する実験装置の操作方法を教授し、必要に応じて機器の試作を指示する。また、国内外の論文を参考に予備実験の結果の妥当性を検討する。
- 授業の一般目標 体力学に関する修士論文の作成にあたり、使用する実験装置の操作方法を習得し、必要に応じて機器の試作を行う。また、国内外の論文を参考に予備実験の結果から実験方法の妥当性を検討する。また実験機器の基本原理や精度を理解する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	塩田正俊				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	塩田正俊				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	杉浦崇夫				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	杉浦崇夫				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	海野勇三				

- 授業の概要 修士論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。思考・判断の観点：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。態度の観点：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）各自が研究テーマを決定した後、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）修士論文の作成過程、および、修士論文の完成度により、総合的に判断する。
- 連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	海野勇三				

- 授業の概要 修士論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法・調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。思考・判断の観点：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。態度の観点：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）各自が研究テーマを決定した後、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）修士論文の作成過程、および、修士論文の完成度により、総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	丹信介				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	丹信介				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	曾根涼子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	曾根涼子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	池田恵子				

- 授業の概要 体育・スポーツに関わる諸テーマを設定し、歴史哲学的手法を用いてその探究に務める。課題の設定、研究動機と先行研究の関係、科学論文の方法論と章立て、体育・スポーツ研究における今日的課題と修士論文としての意味の検討、予見される結論についてが具体的取組みの指針となる。成果は修士論文中間報告会として授業時間以外にも積極的に発表を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	池田恵子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	上地 広昭				

●授業の概要 大学院における研究テーマをさらに詳細に検討するために、関連する文献を収集し、講読する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	上地 広昭				

- 授業の概要 前期の課題研究を踏まえ、実際に半年間かけて、データ収集、分析を行い、修士論文の予備的レポートを作成する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	海野勇三				

- 授業の概要 修士論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。思考・判断の観点：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。態度の観点：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）各自が研究テーマを決定した後、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）修士論文の作成過程、および、修士論文の完成度により、総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	海野勇三				

- 授業の概要 修士論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。思考・判断の観点：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考え論理的に、また、わかりやすく述べるができる。態度の観点：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）各自が設定した研究テーマにそくして、具体的な調査の方法ならびに叙述の方法について指導を行う。各自の修士論文の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）修士論文の作成過程、および、修士論文の完成度により、総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	三好洋二				

- 授業の概要 体育・スポーツに関するテーマを設定し、社会学的な視点からその探究に努める。修士論文作成に向けて、各自が設定した研究課題に関わる調査研究の方法について指導を行う。
- 授業の一般目標 各自が設定した研究課題に関わる先行研究について理解し、研究方法について学習する。新たな視点から調査研究を行い、修士論文として完成させる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：自らの研究課題に関わる先行研究について説明できる。自らの研究課題の今日的意義について説明できる。思考・判断の観点：自らの研究課題と先行研究との関係について説明できる。関心・意欲の観点：自らの研究課題のみならず、他の体育・スポーツの事象についても関心を持つことができる。態度の観点：問題意識を持って主体的に調査研究をし、研究課題に取り組むことができる。
- 授業の計画（全体）各自の研究課題に関する先行研究を検討し、そこでの問題点や課題を明らかにしていく。その上で、自らの研究課題に関わる新たな視点を獲得していく。
- 成績評価方法（総合）自らの研究課題に関わる先行研究の理解度及び自らの研究課題の意義、研究方法等について評価する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部162番室 電話：933-5376 E-mail：ymiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	三好洋二				

- 授業の概要 体育・スポーツに関するテーマを設定し、社会学的な視点からその探究に努める。修士論文作成に向けて、各自が設定した研究課題に関わる調査研究の方法について指導を行う。
- 授業の一般目標 各自が設定した研究課題に関わる先行研究について理解し、研究方法について学習する。新たな視点から調査研究を行い、修士論文として完成させる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：自らの研究課題に関わる先行研究について説明できる。自らの研究課題の今日的意義について説明できる。思考・判断の観点：自らの研究課題と先行研究との関係について説明できる。関心・意欲の観点：自らの研究課題のみならず、他の体育・スポーツの事象についても関心を持つことができる。態度の観点：問題意識を持って主体的に調査研究をし、研究課題に取り組むことができる。
- 授業の計画（全体）各自の研究課題に関する先行研究を検討し、そこでの問題点や課題を明らかにしていく。その上で、自らの研究課題に関わる新たな視点を獲得していく。
- 成績評価方法（総合）自らの研究課題に関わる先行研究の理解度及び自らの研究課題の意義、研究方法等について評価する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部162番室 電話：933-5376 E-mail：ymiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp

技術教育專修

開設科目	技術科教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	宮崎擴道				

- 授業の概要 技術教育に関する教育思潮と教育実践を歴史的観点から講究する。
- 授業の一般目標 歴史的経緯を踏まえた技術教育の理念、課題などの考察を通して、技術教育に関する的確な問題認識の把握ができ、技術科教育に求められる要件が理解できる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 技術・家庭科に関する知識・理解 思考・判断の観点： 具体的な課題の考察 関心・意欲の観点： 積極的な課題発見
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 技術教育の歴史と問題視角
- 第 3 回 項目 技術教育思潮の流れ
- 第 4 回 項目 明治の技術教育
- 第 5 回 項目 同
- 第 6 回 項目 大正期の技術教育
- 第 7 回 項目 同
- 第 8 回 項目 昭和戦前期の技術教育
- 第 9 回 項目 同
- 第 10 回 項目 同
- 第 11 回 項目 戦後の技術教育
- 第 12 回 項目 同
- 第 13 回 項目 同
- 第 14 回 項目 同
- 第 15 回 項目 総括

開設科目	技術科教育特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	宮崎擴道				

●授業の概要 技術科教育の教育方法、教材などに関する研究成果や実践事例などについての文献講読などを行う。

●授業の一般目標 技術科の授業に関する文献などの分析と討議を通して、技術科における授業のありかたや授業研究の方法論について理解を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：技術・家庭科に関する知識・理解 思考・判断の観点：具体的な課題の考察 関心・意欲の観点：積極的な課題発見

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 授業研究方法に関する授業研究論文の講読と討議
- 第3回 項目 同
- 第4回 項目 同
- 第5回 項目 評価に関する授業研究論文の講読と討議
- 第6回 項目 同
- 第7回 項目 同
- 第8回 項目 学習指導法に関する授業研究論文の講読と討議
- 第9回 項目 同
- 第10回 項目 同
- 第11回 項目 同
- 第12回 項目 教材研究に関する授業研究論文の講読と討議
- 第13回 項目 同
- 第14回 項目 同
- 第15回 項目 総括

開設科目	技術科教育支援研究 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	岡村吉永				

●授業の概要 技術科教育の特徴や性格について考察し，教材や題材の面から学習指導のあり方を検討する。

●授業の一般目標 技術科教育の目的や性格について理解し，ここで育成すべき学習内容との関連で教材および題材の意味を説明することができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 技術科の性格と特徴
- 第 2 回 項目 技術科の学習目標
- 第 3 回 項目 各分野の学習課題
- 第 4 回 項目 技術とものづくり分野の学習項目
- 第 5 回 項目 教科書分析 (ものづくり分野)1
- 第 6 回 項目 教科書分析 (ものづくり分野)2
- 第 7 回 項目 技術と情報分野の学習項目
- 第 8 回 項目 教科書分析 (情報分野)1
- 第 9 回 項目 教科書分析 (情報分野)2
- 第 10 回 項目 学習題材の選定について
- 第 11 回 項目 技術科教育における教材・教具の意味
- 第 12 回 項目 学習者を支援する教材・教具のあり方
- 第 13 回 項目 教材・教具に関する事例研究 1
- 第 14 回 項目 教材・教具に関する事例研究 2
- 第 15 回 項目 安全指導 安全指導について

開設科目	技術科教育支援研究 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	岡村吉永				

●授業の概要 技術科の教育効果を高めるためのに必要な事項, 特に教材・教具について, その具備すべき条件を明らかにするとともに, 開発や使用にあたっての課題を検討する。

●授業の一般目標 技術科における教材・教具の意味や具備すべき条件について説明することができる。また, その開発や使用にあたって留意すべき点を指摘できる。

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教科指導において教材・教具が果たす役割
- 第 2 回 項目 教材・教具が具備すべき条件
- 第 3 回 項目 教材・教具の使用または開発に際して留意すべき事項
- 第 4 回 項目 教材・教具の開発 (資料集および検討)
- 第 5 回 項目 教材・教具の開発 (提案)
- 第 6 回 項目 教材・教具の開発 (試作, 検討)
- 第 7 回 項目 教材・教具の開発 (試作, 検討)
- 第 8 回 項目 教材・教具の開発 (試作, 検討)
- 第 9 回 項目 教材・教具の開発 (中間発表, 修正点等の検討)
- 第 10 回 項目 教材・教具の開発 (試作, 検討)
- 第 11 回 項目 教材・教具の開発 (試作, 検討)
- 第 12 回 項目 教材・教具の開発 (試作, 検討)
- 第 13 回 項目 開発した教材・教具の発表, 実用に関する討議
- 第 14 回 項目 教材・教具開発の意味と重要性について
- 第 15 回 項目 まとめ

●メッセージ 技術科指導上の問題点を解決するための教材・教具の開発を想定しています。

開設科目	情報科教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	鷹岡亮				

- 授業の概要 本授業では、情報科教育の背景、内容と方法について、文献調査を行い学習する。また、情報科教育における教材開発の方法論を学ぶと同時に教材を開発する。
- 授業の一般目標 情報科教育の特徴を理解し、授業の内容と方法、さらには教材開発が主体的に実施できることを目標とする。
- 教科書・参考書 教科書：授業内で指示する。／参考書：授業内で紹介する。

開設科目	機械情報工学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	森岡弘				

●授業の概要 機械工学と電気工学の総合技術であるメカトロニクス基礎とマイコンを用いた機械システム(ロボット等)の計測・制御技術を学習する。／検索キーワード ロボット、メカトロニクス、マイコン

●授業の一般目標 ロボットを含む機械システムの設計を通して、メカトロニクスおよび情報工学の知識を総合的に習得することを目標とする。

●授業の計画(全体) 機械工学と電気工学の総合技術であるメカトロニクス基礎とマイコンを用いた機械システム(ロボット等)の計測・制御技術を学習する。。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業方法、評価方法等について説明する。

第 2 回 項目 ロボット製作の概論 内容 ロボット製作の概要を説明する。

第 3 回 項目 モータの基礎知識 1 内容 DC モータの特徴

第 4 回 項目 モータの基礎知識 2 内容 DC モータの制御方法

第 5 回 項目 モータの基礎知識 3 内容 モータ制御用 IC の使い方

第 6 回 項目 モータの基礎知識 4 内容 モータの選択方法

第 7 回 項目 電子部品の基礎知識 1 内容 回路図の基礎

第 8 回 項目 電子部品の基礎知識 2 内容 電子部品の基礎知識

第 9 回 項目 電子部品の基礎知識 3 内容 論理回路の基礎知識

第 10 回 項目 ロボットの機械部の設計 1 内容 ロボットの骨組みの設計

第 11 回 項目 ロボットの機械部の設計 2 内容 駆動部の設計

第 12 回 項目 コントローラの設計 1 内容 PIC 概要

第 13 回 項目 コントローラの設計 1 内容 PIC を使用したコントローラの設計

第 14 回 項目 コントローラの設計 1 内容 PIC を使用したコントローラの設計

第 15 回 項目 まとめ・発表 内容 これまでのまとめと受講生による成果発表

●成績評価方法(総合) 成績評価はレポート(製作品を含む)、授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。

●教科書・参考書 参考書: 作って遊べるロボット工作、後閑哲也、技術評論社

●連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・木 1, 2

開設科目	機械情報工学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	森岡弘				

●授業の概要 機械情報工学特論 I で修得した、メカトロニクスの基礎とマイコンを用いた機械システム (ロボット等) の計測・制御技術をもとにして、赤外線通信による遠隔操作可能なマイコン搭載ロボットの設計製作を行う。／検索キーワード ロボット、メカトロニクス、マイコン、情報通信

●授業の一般目標 マイコン搭載ロボットの設計製作を行い、特に機械関連のものづくりに必要となる総合的な設計製作能力を習得する。

●授業の計画 (全体) マイコン搭載ロボットの設計製作を行い、ロボット製作に必要となるメカトロニクス技術を習得する。

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業方法、評価方法等について説明する。

第 2 回 項目 赤外線通信による遠隔操作装置 1 内容 赤外線通信の方式

第 3 回 項目 赤外線通信による遠隔操作装置 2 内容 赤外線送信機の設計

第 4 回 項目 赤外線通信による遠隔操作装置 3 内容 赤外線送信機のプログラム設計 1

第 5 回 項目 赤外線通信による遠隔操作装置 4 内容 赤外線送信機のプログラム設計 2

第 6 回 項目 赤外線通信による遠隔操作装置 5 内容 赤外線送信機の製作

第 7 回 項目 各種モータの特徴と制御の基礎 1 内容 DC モータ, ステッピングモータ, ラジコンサーボの特徴

第 8 回 項目 各種モータの特徴と制御の基礎 2 内容 DC モータの PWM 制御

第 9 回 項目 マイコン搭載ロボットの設計と製作 1 内容 ロボットの機械部の設計

第 10 回 項目 マイコン搭載ロボットの設計と製作 2 内容 コントローラの設計

第 11 回 項目 マイコン搭載ロボットの設計と製作 3 内容 マイコン搭載ロボットの製作

第 12 回 項目 マイコン搭載ロボットの設計と製作 4 内容 マイコン搭載ロボットの製作

第 13 回 項目 マイコン搭載ロボットの設計と製作 5 内容 マイコン搭載ロボットの製作

第 14 回 項目 マイコン搭載ロボットの試運転 内容 製作したマイコン搭載ロボットの試運転を行う。

第 15 回 項目 まとめ 内容 これまでのまとめと受講生による成果発表

●成績評価方法 (総合) 成績評価はレポート (製作品を含む), 授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。

●教科書・参考書 参考書: 作って遊べるロボット工作、後閑哲也、技術評論社

●連絡先・オフィスアワー E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・月 1, 2

開設科目	工業材料特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	澤本章				

●授業の概要 工業用材料として用いられている非鉄金属材料（ニッケル合金、銅合金、アルミニウム合金、マグネシウム合金、すず、亜鉛合金、セラミックスなど）、非金属材料（レンガ、モルタル、皮、ゴム、プラスチック、潤滑材）及び電子材料の特徴と使用方法について解説する。／検索キーワード ニッケル、アルミニウム、銅、セラミックス、プラスチック、潤滑材、電子材料、情報機器材料、機能

●授業の一般目標 工業材料についての知識を広める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 工業材料を説明できる。 2. 工業材料を関係づける。 思考・判断の観点： 1. 工業材料を類別できる。 2. 工業材料の機能を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 工業材料の種類を討議できる。 2. 工業材料の知識の修得に寄与できる。 態度の観点： . 工業材料の効果的使用法を考える態度を養う。 2. 工業材料に関する知見を修得し、これらを使用した機器と協調できる。 技能・表現の観点： 1. 材料を有効に活用する技術を身につける。 2. 材料を使用してものを作り表現する力を育む。

●授業の計画（全体） 工業材料を中心にその特徴及び活用法について概説する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 金属材料の一般的な性質
- 第 2 回 項目 ニッケル合金
- 第 3 回 項目 銅合金
- 第 4 回 項目 アルミニウム合金 I
- 第 5 回 項目 アルミニウム合金 II
- 第 6 回 項目 マグネシウム合金
- 第 7 回 項目 チタン、すず、鉛、亜鉛
- 第 8 回 項目 セラミックス
- 第 9 回 項目 金属・セラミックス複合材料
- 第 10 回 項目 プラスチック、接着剤、潤滑剤
- 第 11 回 項目 電子材料の種類と特徴
- 第 12 回 項目 電子材料の製造法
- 第 13 回 項目 情報機器材料の種類と特徴
- 第 14 回 項目 情報機器材料の構造と役割 I
- 第 15 回 項目 情報機器材料の構造と役割 II

●成績評価方法 (総合) 出席状況 (25%)、授業中の態度 (5%)、レポート (70%) により総合評価する。

●教科書・参考書 教科書： 大学基礎、機械材料、改訂版、門間改三, 実教出版, 1991 年；教科書の他、プリントも配布する。板書にて説明も行う。／参考書： 若い技術者のための機械・金属材料、増補版、矢島悦次郎、市川理衛、古沢浩一、丸善, 1986 年；・HOW COMPUTERS WORK, Ron White(QUE)(2001)

●メッセージ ニッケル合金、銅合金、アルミニウム合金、マグネシウム合金、セラミックス、プラスチック、電子材料、情報機器材料などの種類と役割について解説します。

●連絡先・オフィスアワー 毎週木曜日、10:20～11:50、教育学研究科、技術教育専修、金属加工、264 号室、TEL/FAX：083-933-5395、 E-mail: sawamoto @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	工業材料特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	澤本章				

●授業の概要 金属材料は近代文明を支えており、構造用材料としても多く活用されている。構造用材料として使用する場合には、安全性の観点から、その機械的性質を十分に把握する必要がある。そこで、工業材料として用いられている金属材料の機械的特性（疲労、摩耗、曲げ強さ、硬さ、衝撃強さ、クリープ、非破壊検査）について概説する。また、情報機器材料、プラスチック、セラミックス複合材料の摩耗特性についても解説する。／検索キーワード 金属材料、疲労、摩耗、クリープ、硬さ、じん性、非破壊検査、情報機器、フロッピーデスク、CD

●授業の一般目標 工業材料として用いられている金属材料の機械的特性（疲労、摩耗、曲げ強さ、硬さ、衝撃強さ、クリープ、非破壊検査）を理解する。また、情報機器材料、プラスチック、セラミックス複合材料の摩耗特性についての知見を得る。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 金属材料の疲労 I
- 第 2 回 項目 金属材料の疲労 II
- 第 3 回 項目 金属材料の疲労 III
- 第 4 回 項目 金属材料の摩耗 I
- 第 5 回 項目 金属材料の摩耗 II
- 第 6 回 項目 金属材料の摩耗 III
- 第 7 回 項目 金属材料の曲げ強度
- 第 8 回 項目 金属材料の衝撃強度
- 第 9 回 項目 金属材料のクリープ
- 第 10 回 項目 金属材料の非破壊検査
- 第 11 回 項目 情報機器材料の摩耗 I
- 第 12 回 項目 情報機器材料の摩耗 II
- 第 13 回 項目 情報機器材料の摩耗 III
- 第 14 回 項目 セラミックス複合材料の摩耗及びプラスチックの摩耗
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法 (総合) 授業への出席状況 (25 %)、授業態度 (5 %)、レポート (70 %) により総合評価する。

●教科書・参考書 教科書：板書及びプリント配布により説明予定です。／参考書：大学基礎、機械材料、改訂版、門間改三、実教出版、1991 年；・摩耗機構の解析と対策：野呂瀬進（フジテクノシステム）（1992）
・HOW COMPUTERS WORK,Ron White(QUE)(2001)

●メッセージ 社会問題となっている金属疲労、金属摩耗などについても解説します。この他、金属材料の性質を把握するために、工業的に行なわれている評価方法、検査方法を知ることが出来ます。また、情報機器、プラスチック、セラミックス材料の使用にともなって生ずる摩耗についても学習します。

●連絡先・オフィスアワー 山口大学 教育学部 技術教育 金属加工 澤本章、TEL/FAX 083-933-5395
E-mail sawamoto @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	電子回路特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	古賀和利				

●授業の概要 コンピューターで時間波形を扱うための A/D 変換、D/A 変換の技術について、実際の回路作製も含めて学習する。

●授業の一般目標 コンピューターの機械語と入出力ハードウェアに関するプリント、および A/D 変換 D/A 変換の原理に関する解説書を読んで理解するとともに、実際に D/A 変換回路を作成して信号を取り込む。また、D/A 変換回路を利用し、ソフト的に A/D 変換器を実現し、コンピューターへの信号の入出力の方法を理解する

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 機械語を通してコンピューター動作の理解を深める 2. ラダー型 D/A 変換回路を理解する 3. 逐次比較型 A/D 変換の原理を理解する 思考・判断の観点： 1. D/A 変換器を通して信号を取り込むプログラムが作成できる 2. 理解した A/D 変換の原理をプログラムにより実現できる

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 機械語その 1
- 第 2 回 項目 機械語その 2
- 第 3 回 項目 入出力の原理とハード
- 第 4 回 項目 D/A 変換の原理
- 第 5 回 項目 A/D 変換の原理
- 第 6 回 項目 D/A 変換プログラムの作成その 1
- 第 7 回 項目 D/A 変換プログラムの作成その 2
- 第 8 回 項目 変換データ表示プログラムの作成
- 第 9 回 項目 D/A 変換の実験
- 第 10 回 項目 A/D 変換プログラムの作成その 1
- 第 11 回 項目 A/D 変換プログラムの作成その 2
- 第 12 回 項目 A/D 変換実験
- 第 13 回 項目 追加実験
- 第 14 回 項目 まとめ その 1
- 第 15 回 項目 まとめ その 2

開設科目	電気回路特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	古賀和利				

- 授業の概要 アナログ信号解析のためのフーリエ変換など離散信号解析手法について学習する
- 授業の一般目標 フーリエ変換、逆フーリエ変換の考え方を理解し、計算法と利用法を習得する
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 周期関数とフーリエ級数の関係を理解する 2. 非周期関数とフーリエ積分の関係を理解する 3. 畳み込み積分とフーリエ変換の関係を理解する 技能・表現の観点：ゼミで与えられた範囲のテキストを読んで内容を理解し、人に説明することができる

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 デジタル信号とデジタル表示
- 第2回 項目 複素数と三角関数の基礎
- 第3回 項目 量子化雑音
- 第4回 項目 デスクリート信号
- 第5回 項目 基本伝達関数
- 第6回 項目 フーリエ級数
- 第7回 項目 フーリエ変換
- 第8回 項目 フーリエ逆変換
- 第9回 項目 コンボリューション
- 第10回 項目 アナログ信号とデスクリート信号
- 第11回 項目 ディスクリート関数フーリエ変換
- 第12回 項目 演習その1
- 第13回 項目 演習その2
- 第14回 項目 演習その3
- 第15回 項目 まとめ

- 成績評価方法 (総合) 出席点 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は、ゼミ形式の発表内容理解度 40 点、レポートによる評価 40 点で行う。
- 教科書・参考書 教科書： 適宜コピーを配布する

開設科目	情報科学特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	永久洋治				

開設科目	情報回路網特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	葛崎偉				

●授業の概要 本科目では、ネットワーク理論に基づいて、情報ネットワークにおける通信の原理・仕組みやネットワーク構築に当たっての技術や情報ネットワークの利用に関するセキュリティについて論じる。また、実践的にコンピュータ・ネットワークの構築および管理運用を行う。

●授業の一般目標 情報ネットワークの知識やその活用に関する技術を身につけることを通して、技術教育の資質を高めることを目標とする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 グラフ・ネットワークの基本的概念
- 第 3 回 項目 ネットワークの構造と性質
- 第 4 回 項目 ネットワークアルゴリズム
- 第 5 回 項目 情報ネットワークの構成
- 第 6 回 項目 情報ネットワークのプロトコルと各種サービス
- 第 7 回 項目 情報ネットワークにおける通信経路の決定
- 第 8 回 項目 サーバとクライアントとの通信
- 第 9 回 項目 情報ネットワークのセキュリティ問題
- 第 10 回 項目 暗号の仕組みとその効果
- 第 11 回 項目 コンピュータネットワークの設計
- 第 12 回 項目 サーバの構築
- 第 13 回 項目 サーバの設定
- 第 14 回 項目 クライアントの設定
- 第 15 回 項目 総括

開設科目	情報処理特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	中田充				

- 授業の概要 詳細は，初回授業時に面談をして決定する.
- 授業の一般目標 学部の授業内容を前提として，より高度な情報処理技術の習得を目指す.

開設科目	情報社会倫理特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	林徳治				

●授業の概要 情報社会における特徴や倫理観について学び、とりわけ学校教育における情報社会の「光」と「影」について考察し、今後の教育について探究する。

●授業の一般目標 1. 情報について意味や役割について知る 2. 情報社会に求められる情報活用能力を知る 3. 情報社会におけるメディアコミュニケーションの特徴を知る 4. 情報社会における情報倫理や著作権について知る 5. 情報社会に求められる心の問題について知る

●授業の到達目標／知識・理解の観点：メディアを介したコミュニケーション能力 思考・判断の観点：論理的、批判的な思考力と判断力 関心・意欲の観点：教育メディアに対する興味関心 態度の観点：自発的、独創的に取り組む姿勢 技能・表現の観点：メディアを利用したプレゼンテーションの実施・評価を通しての実践力

●授業の計画（全体） 情報社会における特徴について、経済、社会、教育面より考察する。情報社会における今日的な課題について取り上げ、「光」と「影」の部分より分析し、その対応について考察する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報の果たす役割
- 第 2 回 項目 情報活用能力について
- 第 3 回 項目 コミュニケーション能力について
- 第 4 回 項目 プレゼンテーション能力について
- 第 5 回 項目 情報倫理と著作権
- 第 6 回 項目 情報化のネガティブな効果を克服するために
- 第 7 回 項目 企業のコミュニケーション
- 第 8 回 項目 生涯自己教育について
- 第 9 回 項目 これからの国際理解・協力
- 第 10 回 項目 教育分野における我が国のODA
- 第 11 回 項目 科学技術革新と情報社会
- 第 12 回 項目 まとめ
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●教科書・参考書 教科書：情報社会人のすすめ, 情報教養研究会, ぎょうせい, 2001 年／参考書：情報教育の理論と実践, 林徳治・宮田仁, 実教出版, 2002 年

●連絡先・オフィスアワー E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター 1 階

開設科目	電子計算機特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	古賀和利				

- 授業の概要 ノイマン型電子計算機のハードウェアを中心に、オペレーティングシステムとの関連を、ゼミ形式で学習する。
- 授業の一般目標 現在のコンピューターのプログラム実行過程のイメージをハードウェアの構造とともに理解する。

開設科目	情報処理言語特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	中田充				
<p>●授業の一般目標 C 言語以外のプログラミング言語の学習を通して、プログラミングスキルの向上と、ある言語を基準とした他の言語の学習方法の習得を目指す。学習する言語は初回の授業時に面接を行い決定する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：選択した言語でプログラムを作成することができるか。思考・判断の観点：プログラミング言語の学習方法が身についているか。</p> <p>●授業の計画（全体）初回に言語を選定し、教科書等も学生が自ら決定する。その後、その教科書をベースにして授業を進める。必要に応じて、言語の概要の紹介、教科書の候補となる文献の紹介を行う。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 言語の選定 第2回 項目 教科書の選定 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回</p> <p>●成績評価方法（総合）課題を与えるので、その課題のプログラムを選定した言語を用いて実現するレポートを課す。</p>					

開設科目	情報システム特論I	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	永久洋治				

- 授業の概要 ファジー制御について学習する
- 授業の一般目標 ファジー理論とその制御へ利用
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ファジー理論と制御に関する知識と理解 技能・表現の観点： 内容の適切な説明や表現

開設科目	情報システム特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	中田充				

●授業の一般目標 情報処理言語特論で学習した言語を用いて、なんらかの情報処理システムを構築する。それを通して、情報システムの実現における、各種課題を明らかにし、それを解決する手法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：言語の知識、情報システムの知識を持っているか？与えた条件を満たす情報システムを実現できているか？思考・判断の観点：情報システムの設計が行えるか？

●授業の計画（全体）情報処理言語特論で学習した言語を用いてデータベースや Web サーバを用いた情報システムを構築する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報処理システムとは？
- 第 2 回 項目 情報処理システムの実現方法
- 第 3 回 項目 課題の選定
- 第 4 回 項目 システムの実現
- 第 5 回 項目 システムの実現
- 第 6 回 項目 システムの実現
- 第 7 回 項目 システムの実現
- 第 8 回 項目 システムの実現
- 第 9 回 項目 システムの実現
- 第 10 回 項目 システムの実現
- 第 11 回 項目 システムの実現
- 第 12 回 項目 システムの実現
- 第 13 回 項目 システムの実現
- 第 14 回 項目 システムのプレゼンテーション
- 第 15 回 項目 予備日

●成績評価方法（総合）構築した情報システムの評価により、成績を評価する。

開設科目	情報通信ネットワーク特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	葛崎偉				

●授業の概要 本科目では、情報通信ネットワークの原理・仕組み、情報通信ネットワークの構築・管理、さらに情報通信ネットワークの運用に関するセキュリティについて論じる。また、学校現場を想定した、情報通信ネットワークの設計、構築などを行う。

●授業の一般目標 情報通信ネットワークの知識や技術を身につけさせ、ネットワーク構築の実践力を高めると同時に、学校現場で求められる情報教育の資質を高めることを目標とする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 情報通信ネットワークの構成と接続方法
- 第 3 回 項目 通信ネットワークにおける通信プロトコル
- 第 4 回 項目 インターネットの通信プロトコルとサービス
- 第 5 回 項目 T C P と U D P の通信方式
- 第 6 回 項目 I P とルーティング
- 第 7 回 項目 通信ネットワークにおけるセキュリティ問題
- 第 8 回 項目 暗号技術とその活用法
- 第 9 回 項目 通信ネットワークの構築法
- 第 10 回 項目 学校現場に即したネットワークの設計
- 第 11 回 項目 学校通信ネットワークの構築
- 第 12 回 項目 学校通信ネットワークにおけるサーバの設定
- 第 13 回 項目 生徒用クライアントの各種設定
- 第 14 回 項目 構築した学校通信ネットワークの検証
- 第 15 回 項目 総括

開設科目	グラフ・ネットワーク特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	葛崎偉				

●授業の概要 本科目では、グラフ・ネットワークの定義、性質から、グラフ・ネットワーク理論における各種問題とその解決のためのアルゴリズム設計について論じる。また、応用として、情報通信ネットワークにおける経路決定問題の紹介とその問題解決のためのアルゴリズム設計を行う。

●授業の一般目標 グラフ・ネットワークに関する理論的な知識やその応用力を身につけさせ、情報教育に必要とされている理論的な問題解決能力を高めることを目標とする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 グラフ・ネットワークの定義
- 第 3 回 項目 各種グラフ・ネットワークの紹介
- 第 4 回 項目 グラフ・ネットワークの性質および証明法
- 第 5 回 項目 無向グラフの探索法
- 第 6 回 項目 有向グラフの探索法
- 第 7 回 項目 最短、最長経路問題とそのアルゴリズム
- 第 8 回 項目 マッチング問題とその関連のアルゴリズム
- 第 9 回 項目 ネットワークフロー問題とそのアルゴリズム
- 第 10 回 項目 アルゴリズムの設計法
- 第 11 回 項目 アルゴリズムの解析法
- 第 12 回 項目 アルゴリズムの計算複雑度の算出
- 第 13 回 項目 通信ネットワークにおける経路決定問題
- 第 14 回 項目 経路決定問題のアルゴリズム設計
- 第 15 回 項目 総括

開設科目	視覚情報処理特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	熊谷武洋				

●授業の概要 マルチメディアをはじめとする各種画像を計算機上で扱うための理論や技術に関して講義を行う。加えて、実際の応用事例や作品などの鑑賞をビデオ、ネットなどの各メディア、および山口情報芸術センターにて行う。／検索キーワード ビジュアル コンピュータ 画像処理

●授業の一般目標 画像情報処理に関わる技術について学習し、最新の映像資料を鑑賞することにより、教育分野における視聴覚教材としての有用性、活用法について理解を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：講義において説明した概念を、別の用語を用いて説明できるか
関心・意欲の観点：当該分野における表現技術に関する知識欲があるか 態度の観点：積極的に自主学習、技術情報収集、作品閲覧等を行っているか

●授業の計画（全体） 講義内において説明された専門用語をキーワードにしてネットや書籍等を用いて自主学習を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 映像メディアコンテンツ事例紹介-1- 内容（映画・ゲーム・放送）

第2回 項目 映像メディアコンテンツ事例紹介-2- 内容（医療・産業）

第3回 項目 映像メディアコンテンツ事例紹介-3- 内容（教育・文化）

第4回 項目 計算機による画像処理の基礎概念

第5回 項目 視覚情報処理の歴史

第6回 項目 2次元画像のデータ表現・階調・色彩

第7回 項目 2次元画像の描画・合成・変換

第8回 項目 2次元画像処理の応用事例解説

第9回 項目 3次元画像の立体表現・立体表示

第10回 項目 3次元画像の動作表現・処理装置

第11回 項目 3次元画像の計算機言語

第12回 項目 3次元画像処理の応用事例解説

第13回 項目 教育分野における画像情報処理の有効性について

第14回 項目 教育分野における画像情報処理の活用手法について

第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 履修態度、課題達成度、学外学習等を総合的に判断し、評価を行う

●メッセージ 復習を積極的に行うこと

●連絡先・オフィスアワー Tel:083-933-5403 E-Mail:kumagai@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報産業職業特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	永久洋治				

開設科目	技術科教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	宮崎擴道				

●授業の概要 技術科教育実践上の課題に関してテーマを設定し、必要に応じて附属学校との連携をとりつつ、テーマに基づいて討議、講究する。

●授業の一般目標 技術科教育実践の課題に関する討議、講究を通して、課題を主体的に考えることができ、研究方法についての理解をする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：技術・家庭科に関する知識・理解 思考・判断の観点：具体的な課題の考察 関心・意欲の観点：積極的な課題発見

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 テーマに関連する授業研究論文および先行授業実践例の収集と整理をする。

第3回 項目 同

第4回 項目 同

第5回 項目 同

第6回 項目 資料の分析と問題点の抽出整理をする

第7回 項目 同

第8回 項目 同

第9回 項目 同

第10回 項目 授業実践上の課題の改善に向けての解決方策についてレポートと討議をする。

第11回 項目 同

第12回 項目 同

第13回 項目 同

第14回 項目 同

第15回 項目 総括

開設科目	技術科教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	岡村吉永				

- 授業の概要 技術科教育を支援するための実践的研究を行う
- 授業の一般目標 技術科の教育を行うにあたっての実践的技術を身に付ける。
- 授業の計画（全体）ものづくり学習を支援する教材・教具の開発を軸に，工具や機械の使用や I T 機器の活用等，総合的かつ実践的に学習を進めていく。

開設科目	情報科教育実践研究	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	葛崎偉				

●授業の概要 本科目では、情報機器や情報通信ネットワークを活用した情報科教育法を主眼に置き、情報及び情報技術の教育に関する課題を予め設定し、その課題を解決するための教育法を検討する。さらにPowerPoint やホームページなどを用いて、検討した教育法に関するプレゼンテーションを行う。

●授業の一般目標 情報機器や情報通信ネットワークを活用した情報科教育法の実践研究を行うことにより、情報科教育に必要な不可欠な情報の収集・処理・発信の能力を高めることを目標とする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基礎的事項のまとめ
- 第 2 回 項目 情報および情報技術の教育に関する課題の設定（1）
- 第 3 回 項目 情報および情報技術の教育に関する課題の設定（2）
- 第 4 回 項目 設定した課題を解決するための調査（1）
- 第 5 回 項目 設定した課題を解決するための調査（2）
- 第 6 回 項目 設定した課題を解決するための教育法の見直し・決定（1）
- 第 7 回 項目 設定した課題を解決するための教育法の見直し・決定（2）
- 第 8 回 項目 決定した教育法を行うための情報収集（1）
- 第 9 回 項目 決定した教育法を行うための情報収集（2）
- 第 10 回 項目 プレゼンテーションのための情報処理（1）
- 第 11 回 項目 プレゼンテーションのための情報処理（2）
- 第 12 回 項目 PowerPoint や 痢漾汙覆匹鯨儂い織塵譽璽鳴董璽轡腑鵠亮損楮複院
- 第 13 回 項目 PowerPoint や 痢漾汙覆匹鯨儂い織塵譽璽鳴董璽轡腑鵠亮損楮複押
- 第 14 回 項目 受講者同士の相互評価
- 第 15 回 項目 総括

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	古賀和利				

●授業の概要 研究室での修士論文作成に必要な画像処理に関するプログラミング技術について学習する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	古賀和利				

●授業の概要 研究室での修士論文作成に必要な画像処理に関するプログラミング技術について学習する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	中田充				

●授業の概要 修士論文のテーマに基づいた基礎演習を行う。

●メッセージ 詳細は面接の上指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	中田充				

- 授業の概要 修士論文に必要な基礎知識、基礎理論を演習をとおしてみにつける。
- 授業の到達目標／ その他の観点： 詳細は面接の上決定する。
- メッセージ 詳細は面接の上決定する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	岡村吉永				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	岡村吉永				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	葛崎偉				

- 授業の概要 修士研究における諸問題を解決するための研究を行う。
- 授業の一般目標 修士研究における諸問題の解決手法を見つける。
- 授業の計画（全体） ・修士研究における諸問題の分析を行う ・諸問題の解決のための文献調査、ゼミなどを行う ・コンピュータを使った実験や諸問題の解決手法についてのディスカッションなどを行う ・研究成果が出次第、研究会での研究発表を行う
- 成績評価方法（総合） 課題研究の過程と成果による総合評価 = 100 %

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	葛崎偉				

- 授業の概要 修士研究における諸問題を解決するための研究を行う。
- 授業の一般目標 修士研究における諸問題の解決手法を見つける。
- 授業の計画（全体） ・修士研究における諸問題の分析を行う ・諸問題の解決のための文献調査、ゼミなどを行う ・コンピュータを使った実験や諸問題の解決手法についてのディスカッションなどを行う ・研究成果が出次第、研究会での研究発表を行う
- 成績評価方法（総合） 課題研究の過程と成果による総合評価 = 100 %

家政教育專修

開設科目	家庭科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	入江和夫				

●授業の概要 現在の家庭生活の諸問題と対比しながら家庭科教育の歴史の変遷をたどり、何が家庭科に求められてきたかを考察し、これからの家庭科教育によって何がもたらされていくべきかを論究する／検索キーワード 家庭科観 家庭科教育

●授業の一般目標 戦後誕生した家庭科の内容で変遷した内容としなかった内容について理解するとともにアメリカ家庭科教科書との比較を通して、現在の家庭科教育に求められるべき要点を説明できる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：家庭科の内容の変遷と今回の学習指導要領の改訂の趣旨を説明できる。思考・判断の観点：アメリカ教科書と比較することで、現在の家庭科教科書に必要な内容を判断できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教師、生徒、父母の家庭科観 I
- 第 2 回 項目 教師、生徒、父母の家庭科観 II
- 第 3 回 項目 小・中学校学習指導要領（家庭科）はどう変わってきたか I
- 第 4 回 項目 小・中学校学習指導要領（家庭科）はどう変わってきたか II
- 第 5 回 項目 日本の家庭科教科書分析 I
- 第 6 回 項目 日本の家庭科教科書分析 II
- 第 7 回 項目 日本の家庭科教科書分析 III
- 第 8 回 項目 米国家庭科教科書の分析 I
- 第 9 回 項目 米国家庭科教科書の分析 II
- 第 10 回 項目 米国家庭科教科書の分析 III
- 第 11 回 項目 健康問題と家庭科教材 I
- 第 12 回 項目 健康問題と家庭科教材 II
- 第 13 回 項目 TV の CM と家庭科教材 I
- 第 14 回 項目 TV の CM と家庭科教材 II
- 第 15 回 項目 まとめ

●メッセージ 家庭科とはどうあるべきかを考えよう

開設科目	家庭科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	入江和夫				

- 授業の概要 家庭生活と生活環境について説明し、実験を通して課題を追求する。／検索キーワード 家庭科観 家庭科教育
- 授業の一般目標 生活の何がどのような環境汚染を導き、それが我々の健康にどのような影響を与えるのか理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：環境汚染の要因と生活環境について説明できる 思考・判断の観点：水質階級を水性生物によって判断できる。態度の観点：家庭生活を環境保全の観点から改善しようとする。
- メッセージ 家庭科とはどうあるべきかを考えよう

開設科目	家庭科教育特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	永原朗子				

●授業の概要 家庭科教育理論（目標、内容、指導計画、学習・指導方法、評価）について学習し、小・中・高等学校の家庭科実践例を考察する。／検索キーワード 家庭科教育理論 授業分析

●授業の一般目標 家庭科教育理論に基づき、小・中・高等学校家庭科の実践例を分析し、問題・課題を考察する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：家庭科教育理論を理解したか。思考・判断の観点：実践例を分析し、問題・課題を考察出来たか。関心・意欲の観点：家庭科教育理論に関心・意欲を持ち、実践例を分析したか。態度の観点：授業態度は真面目であったか。技能・表現の観点：実践例の分析方法が適切であったか。その他の観点：レポート、出席状況

●授業の計画（全体）家庭科教育理論について学習し、小・中・高等学校の授業実践例を分析した上で問題・課題を整理する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 家庭科教育理論
- 第 2 回 項目 家庭科教育理論
- 第 3 回 項目 家庭科教育理論
- 第 4 回 項目 家庭科教育理論 家庭科教育理論 のレポート提出
- 第 5 回 項目 小学校家庭科の 授業研究・分析
- 第 6 回 項目 小学校家庭科の 授業研究・分析
- 第 7 回 項目 小学校家庭科の 授業についてレ ポート提出
- 第 8 回 項目 中学校家庭科の 授業研究・分析
- 第 9 回 項目 中学校家庭科の 授業研究・分析
- 第 10 回 項目 中学校家庭科の 授業についてレ ポート提出
- 第 11 回 項目 高等学校家庭科 の授業研究・分析
- 第 12 回 項目 高等学校家庭科 の授業研究・分析
- 第 13 回 項目 高等学校家庭科 の授業について レポート提出
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合）レポート 知識・理解（家庭科教育理論） 思考・判断（実践例の分析、問題・課題の把握） 技術・表現（実践例の分析方法） 関心・意欲・態度（授業態度、家庭科教育理論への関心、授業分析への意欲）

●教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。 実践例（家庭科教育、家庭科研究など）

●連絡先・オフィスアワー 083-933-5413

開設科目	家庭科教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	永原朗子				

●授業の概要 家庭科教育特論 II で学習したことを基に授業課題を設定し、小・中・高等学校の家庭科カリキュラムと授業計画についてレポートする。／検索キーワード 家庭科教育理論 家庭科カリキュラム 家庭科授業計画

●授業の一般目標 小・中・高等学校の家庭科カリキュラムと授業計画を作成することが出来ることを目標とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：家庭科のカリキュラム構成と授業計画について理解したか。 思考・判断の観点：授業課題に沿って、小・中・高等学校の家庭科のカリキュラムと授業計画を作成することが出来たか。 関心・意欲の観点：意欲をもって家庭科のカリキュラムと授業計画作成に臨んだか。 態度の観点：授業態度は真面目であったか。 技能・表現の観点：分かりやすいカリキュラムと授業計画が作成出来たか。 分かりやすい発表であったか。 その他の観点：出席状況

●授業の計画（全体）小学校、中学校、高等学校の家庭科のカリキュラムと授業計画について学習し、授業課題に沿ったカリキュラムと授業計画をレポートする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 小学校家庭科カリキュラムと授業計画について
- 第 2 回 項目 小学校家庭科カリキュラムと授業計画について
- 第 3 回 項目 小学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表
- 第 4 回 項目 小学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表
- 第 5 回 項目 中学校家庭科カリキュラムと授業計画について
- 第 6 回 項目 中学校家庭科カリキュラムと授業計画について
- 第 7 回 項目 中学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表
- 第 8 回 項目 中学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表
- 第 9 回 項目 高等学校家庭科カリキュラムと授業計画について
- 第 10 回 項目 高等学校家庭科カリキュラムと授業計画について
- 第 11 回 項目 高等学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表
- 第 12 回 項目 高等学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表
- 第 13 回 項目 家庭科カリキュラムと授業計画の発表とまとめ
- 第 14 回 項目 家庭科カリキュラムと授業計画の発表とまとめ
- 第 15 回 項目 家庭科カリキュラムと授業計画の発表とまとめ

●成績評価方法（総合）レポート内容及び発表、出席状況を勘案して行う。 知識・理解（家庭科のカリキュラム構成と授業計画の理解） 思考・判断（授業課題に沿ったカリキュラム構成と授業計画） 関心・意欲・態度（関心をもって意欲的に取り組んでいたか） 技術・表現（分かりやすい発表・内容であったか）

●メッセージ 家庭科教育特論 II を履修していること。

●連絡先・オフィスアワー 083-933-5413

開設科目	食物学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	山田次郎				

●授業の概要 この授業では、先ず、児童・生徒の教育現場である学校教育における「食教育」の重要性について、「栄養」や「食品の安全性」など種々の観点から論述する。特に、安全性については、現在、問題になっている種々の環境汚染物質と食生活とのかかわりを検証し、学校の「食教育」において具体的にどのように学ばせればよいか、などについても討議する。／検索キーワード 個食、偏食、家族団欒、食物アレルギー、環境ホルモン、遺伝子組換え、クローン、有機スズ、ダイオキシン、

●メッセージ 文系、理系の発想で、受講しないこと。

開設科目	食物学特論演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	山田次郎				

- 授業の概要 この授業では、食物学特論 I で討議した内容から、特に「食品衛生学」関連のテーマを取り上げ、文献購読を中心に、食物学および栄養学的視点に基づいて、食品の安全性の問題を討議する。さらに、簡単な実験、演習を取り入れ、学校現場のための教材化を試みる。

開設科目	食物学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	五島淑子				

●授業の概要 食生活について、歴史的視点および比較文化の視点から論究し、現代の食生活について討議する。／検索キーワード 食物、食文化、食生活

●授業の一般目標 食の文化について内容を深め、食からみた歴史を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1 食文化とは何か、食文化研究の目的をいうことができる。 2 世界の食文化を理解する 3 食から歴史を理解する。 思考・判断の観点： 1 現在の食生活について、自分の考えを述べることができる 関心・意欲の観点： 1 食文化、食生活史に関心を持つ 態度の観点： 1 食への関心を深める

●授業の計画（全体） 食文化成立の基盤について、風土と食、海産物、農産物、肉食、乳の利用、料理の地域性、食行動等について講義する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 風土と食
- 第 3 回 項目 主食の文化
- 第 4 回 項目 魚食の文化
- 第 5 回 項目 肉食の文化
- 第 6 回 項目 乳食の文化
- 第 7 回 項目 味について
- 第 8 回 項目 料理のお国柄
- 第 9 回 項目 献立の様式
- 第 10 回 項目 食のタブー
- 第 11 回 項目 食の作法
- 第 12 回 項目 日本人の食文化
- 第 13 回 項目 日本の食文化
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 レポート

●成績評価方法（総合） レポートと出席と授業中への参加で評価する。

●連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分～17 時 40 分

開設科目	食物学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	五島淑子				

- 授業の概要 食文化・食物史に関する内外の文献の購読を行い、文献に記載された食物や料理について食物学の視点から検討する。
- 授業の一般目標 食文化・食物史に関するテーマを決めて、文献資料をまとめ、文献に記載された食物や料理について食物学の視点から検討することを目標とする。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1 テーマを決めて、江戸時代の料理書から簡単な料理を作ることができる。 関心・意欲の観点： 1 調理実習に積極的に参加する。 態度の観点： 1 実習に積極的に参加する。
- 連絡先・オフィスアワー goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16：10～17：40

開設科目	食生活科学特論	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	山田次郎				

開設科目	被服学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	星野裕之				

●授業の概要 繊維材料を構成している高分子の構造と、弾性率・強度等の物性、染色論について物理化学論に沿って論述する。

●授業の一般目標 繊維材料の構造、染色の過程について、物理化学的な視点で捉え、より専門的な学力を修得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 高分子の構造と性質を物理・化学の観点から説明できる。2. 染料染着の原理を説明できる。思考・判断の観点：繊維材料のみならず、日用品としてあるプラスチック製品についても高分子化学の視点から構造、性質について考えることができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 低分子と高分子
- 第2回 項目 繊維を構成する高分子（天然高分子と合成高分子）
- 第3回 項目 高分子の高次構造
- 第4回 項目 吸湿・吸水のメカニズム
- 第5回 項目 弾性率・強度と高分子の構造
- 第6回 項目 染料とは（天然染料と合成染料）
- 第7回 項目 浸染と捺染
- 第8回 項目 浸染における染着の原理
- 第9回 項目 染料の分類とその特徴（直接染料、酸性染料、塩基性染料）
- 第10回 項目 染料の分類とその特徴（媒染染料、分散染料、反応染料）
- 第11回 項目 染料の色と化学構造
- 第12回 項目 染色過程（拡散、吸着）
- 第13回 項目 染料と繊維の結合力
- 第14回 項目 染着平衡と染色速度
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 毎回のレポート提出および授業への取り組み方、討論の参加度で評価する。

●教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。／参考書：高強度・高弾性率繊維，高分子学会編，共立出版，1988年；高分子化学序論，岡村誠三・中島章夫・小野木重治・河合弘迪・西島安則・東村敏延・伊勢典夫共著，化学同人，1985年；染色の化学（改訂版），黒木宣彦著，槇書店，1997年；染色加工の事典，日本学術振興会繊維・高分子機能加工第120委員会編，朝倉書店，1999年；染色の物理化学，高島直一・生源寺治雄・根本嘉郎共著，丸善，1957年

●連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：教育学部300号室

開設科目	被服学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	星野裕之				

●授業の概要 繊維材料、染色についての文献を購読し、利用の拡大、リサイクル、環境汚染等の問題点について討議する。

●授業の一般目標 繊維製品の最新技術と利用の拡大を知り、環境問題に絡めて、今後繊維製品がどのように発展すべきかについて自ら考える力を身に付ける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 繊維製品のグローバルな用途について説明できる。 思考・判断の観点： 繊維製品の環境への影響を考えることができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 化合繊維産業の現状と今後の展望
- 第2回 項目 機能性繊維の新展開（消臭・抗菌繊維）
- 第3回 項目 機能性繊維の新展開（バイオミメティックス）
- 第4回 項目 バイオ技術の繊維への応用
- 第5回 項目 複合材料としての繊維の応用
- 第6回 項目 温熱的快適性を目的とした繊維の開発
- 第7回 項目 生分解性繊維の開発
- 第8回 項目 繊維の構造と物性の研究動向
- 第9回 項目 繊維製品のリサイクル
- 第10回 項目 染色加工の現状と今後の展望
- 第11回 項目 染料と水質汚染
- 第12回 項目 染色加工の革新的技術
- 第13回 項目 無水染色の新技術
- 第14回 項目 染色加工の動向
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 毎回のレポート提出、課題への取り組み方、討論の参加度で評価する。

●教科書・参考書 教科書：国内外の文献をプリントとして配布する。／参考書：ニューフロンティア繊維の世界, 本宮達也・梶原莞爾著, 日刊工業新聞社, 2000年；おろしろいバイオ新素材のはなし, 松永是・本宮達也著, 日刊工業新聞社, 1996年；環境化学（改訂版）, 西村雅吉著, 裳華房, 1998年

●連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：教育学部 300号室

開設科目	衣生活科学特論	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	星野裕之				

●授業の概要 衣生活分野に関わる今日の問題について、より広範な情報収集及びその分析等を通して、より高度な専門的学力や技術を論述する。

●授業の一般目標 繊維を構成している高分子について学び、衣料用繊維にとどまらず、日常生活にある日用品について、さまざまな領域で高分子材料が使われていることを理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：高分子の構造や反応性を説明できる。思考・判断の観点：衣料用以外に活用されている高分子材料を指摘できる。関心・意欲の観点：関連する情報を自分で収集できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 繊維と高分子
- 第2回 項目 高分子材料・高分子科学の進歩
- 第3回 項目 若い肌の秘密
- 第4回 項目 ヘアケア製品
- 第5回 項目 快適新合繊（ニューシルキー）
- 第6回 項目 形態安定加工（イージーケア製品）
- 第7回 項目 透けない繊維
- 第8回 項目 水を磨く（浄水器）
- 第9回 項目 健康ベネフィット（食物繊維飲料）
- 第10回 項目 スポーツシューズ（快適フィッティング）
- 第11回 項目 感性に訴える快適性（カーシート）
- 第12回 項目 蒸れない繊維
- 第13回 項目 熱湯でバラバラになる繊維
- 第14回 項目 吸水速乾素材
- 第15回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 毎回課題を与え、それに対するレポートと発表で評価する。

●教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。／参考書：ハイテク繊維の世界，本宮達也著，日刊工業新聞社，1999年；ニューフロンティア繊維の世界，本宮達也・梶原莞爾著，日刊工業新聞社，2000年；よくわかる新繊維のはなし，林田隆夫著，日本実業，1998年；繊維の百科事典，本宮達也ほか7名編，丸善，2002年

●連絡先・オフィスアワー E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：教育学部 300号室

開設科目	住居学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	山本善積				

●授業の概要 住居及び地域空間の問題とそれに対する計画理論を中心に講義する。これらを歴史的に追いながら、現代の生活空間における居住問題のとらえ方とその計画的な解決について考える。さらに高齢者等の居住問題を考える。

●授業の一般目標 住居・地域空間の計画理論を説明できることとあわせて、教育現場に関わる空間・環境の問題を指摘でき、解決方向を提案できることを目標とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 住居・地域空間の計画理論を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 教育に関わる環境の問題を指摘できる。 2. 問題解決の方法や方向を提案できる。 関心・意欲の観点： 1. 児童・生徒が暮らす住居・地域空間に一般的な計画理論をひきつけて考えられる。

●授業の計画（全体） 授業は次の順序ですすめる。(1) 居住地の計画理論の発展、(2) 住まいの計画理論、(3) 高齢者・障害者に求められる環境

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 空間の構成と空間計画
- 第2回 項目 住環境問題と居住地づくり
- 第3回 項目 居住地づくりの思想
- 第4回 項目 戦後の住環境問題
- 第5回 項目 戦後の居住地計画論
- 第6回 項目 住居の調査研究と計画
- 第7回 項目 住居計画の発展
- 第8回 項目 住まいと住環境の今日的課題
- 第9回 項目 高齢者等の住居問題
- 第10回 項目 高齢者・障害者の住居対策
- 第11回 項目 高齢者・障害者の地域環境問題
- 第12回 項目 住居・地域環境点検の演習
- 第13回 項目 地域環境対策の課題
- 第14回 項目 今後の地域環境づくり—主体の問題
- 第15回 項目 総合討議

●成績評価方法（総合） 演習調査とそれに基づいた考察のレポート、及び出席状況で評価する。

●教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

開設科目	住居学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	山本善積				

- 授業の概要 住居学関連の内外の文献購読や住居及び地域空間に関する調査演習を通して、生活と空間の課題について検討する。
- 授業の一般目標 各自がテーマを設定して、それに関する調査を行い、発表・討議することを通して、テーマについて理解を深めるとともに、調査の進め方、結果の考察方法、討議による理解の深め方を修得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 設定したテーマに関する先行研究や関連研究などの状況と問題を説明できる。 思考・判断の観点： 1. テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に述べることができる。 関心・意欲の観点： 1. 他の人のテーマに冠する討議にも参加し、意見を述べるができる。
- 授業の計画（全体） 各自のテーマに基づいて、ゼミ形式で行う。
- 成績評価方法（総合） 調査と結果の整理、発表と討議への参加状況、及びテーマに関する考察のレポートにより評価する。

開設科目	住生活科学特論	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	山本善積				

- 授業の概要 住生活分野に関わる今日の問題について、より広範な情報収集及びその分析等を通して、高度な専門的学力や技術の習得・蓄積を行う。
- 授業の一般目標 住生活に関わる今日の問題について、その概要や分析の方法を説明できる。また、実際に分析してみることができる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 研究テーマと関連する住生活に関する文献等の講読を通して、今日の問題の概要を理解し、それを説明できる。 思考・判断の観点： 問題の認識を深めるために、文献やデータの調査を行い、分析・考察することができる。
- 授業の計画（全体） 住生活教育に関する文献講読を中心に行う。

開設科目	保育学特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	友定啓子				

●授業の概要 幼児の心身の発達をふまえて、幼児理解の方法、保育行為論、保育記録論など保育学の基礎を学ぶ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 テキスト輪読1
- 第2回 項目 テキスト輪読2
- 第3回 項目 幼稚園参加観察1
- 第4回 項目 幼稚園参加観察1
- 第5回 項目 幼児の行動理解1
- 第6回 項目 幼児の行動理解2
- 第7回 項目 幼稚園参加観察2
- 第8回 項目 幼稚園参加観察2
- 第9回 項目 保育行為論1
- 第10回 項目 保育行為論2
- 第11回 項目 幼稚園参加観察3
- 第12回 項目 幼稚園参加観察3
- 第13回 項目 保育実践研究の方法1
- 第14回 項目 保育実践研究の方法2
- 第15回 項目 まとめ

●教科書・参考書 教科書：未定、

開設科目	保育学特論演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	友定啓子				

●授業の概要 保育現場に行き、保育実践(参加)を行い、記録をとる。観察記録を材料に、幼児の行動に含まれた感情や意思をつかみ、その行動の意味を探る。また、そのときの自分の保育行為が幼児にとってどのような意味を持つかについて考える。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 観察について
- 第 2 回 項目 テキスト購読 1
- 第 3 回 項目 テキスト購読 2
- 第 4 回 項目 幼稚園参加観察 1
- 第 5 回 項目 幼稚園参加観察 1
- 第 6 回 項目 観察記録による 演習 1
- 第 7 回 項目 テキスト購読 3
- 第 8 回 項目 幼稚園参加観察 2
- 第 9 回 項目 幼稚園参加観察 2
- 第 10 回 項目 観察記録による 演習 2
- 第 11 回 項目 テキスト購読 4
- 第 12 回 項目 幼稚園参加観察 3
- 第 13 回 項目 幼稚園参加観察 3
- 第 14 回 項目 観察記録による 演習 3
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	保育学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	友定啓子				

●授業の概要 保育学・発達心理学・認識論などの文献を購読し、保育実践記録と読み合わせることで、幼児理解の方法について考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テキスト選択検討
- 第 2 回 項目 テキスト購読・演習 1
- 第 3 回 項目 テキスト購読・演習 2
- 第 4 回 項目 テキスト購読・演習 3
- 第 5 回 項目 テキスト購読・演習 4
- 第 6 回 項目 テキスト購読・演習 5
- 第 7 回 項目 テキスト購読・演習 6
- 第 8 回 項目 テキスト購読・演習 7
- 第 9 回 項目 テキスト購読・演習 8
- 第 10 回 項目 テキスト購読・演習 9
- 第 11 回 項目 テキスト購読・演習 10
- 第 12 回 項目 テキスト購読・演習 11
- 第 13 回 項目 テキスト購読・演習 12
- 第 14 回 項目 テキスト購読・演習 13
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	家庭科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	永原朗子・入江和夫				

●授業の概要 小・中の附属学校の授業参観並びに先行授業実践例の分析を通して問題点を把握し、授業改善を図る。／検索キーワード 附属学校 授業改善

●授業の一般目標 小・中の附属学校の授業参観並びに先行授業実践例の分析を通して問題点を把握し、授業改善を図ることが出来る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：授業改善における具体的な内容について、理解できたか。 思考・判断の観点：より良い授業づくりに向けて、じっくりと考え、判断しながら授業改善ができたか。 関心・意欲の観点：より良い授業づくりに対する関心・意欲があるか。 態度の観点：授業に対して積極的に、真面目に取り組んでいたか。 技能・表現の観点：授業改善に向けて、適切に改善点を指摘することが出来たか。 その他の観点：出席状況

●授業の計画（全体）前半は、附属学校の授業参観並びに先行授業実践例を分析し、問題点を整理する。後半は、授業改善に向けて、問題・課題解決についてレポートする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 先行授業実践例の検討
- 第 2 回 項目 先行授業実践例の検討
- 第 3 回 項目 附属学校の参観授業
- 第 4 回 項目 授業改善について討議
- 第 5 回 項目 授業改善について討議
- 第 6 回 項目 改善した授業の発表
- 第 7 回 項目 改善した授業の発表
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回 項目 レポート

●メッセージ 家庭科教育の教員2人（入江先生）で担当する。

●連絡先・オフィスアワー 083-933-5413

開設科目	家庭科教育支援実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	友定啓子				

- 授業の概要 学校現場のみならず、家政教育の専門性と関わりのある他の多様な社会的現場での実践的研究をとおして、より現実的問題の把握とその対処等について討議する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	入江和夫				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	友定啓子				

●授業の概要 受講生の研究テーマに沿った文献に関する演習を行う。演習修士論文作成のための基礎的知識を得る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：自分のテーマに沿った文献を読みこなす 思考・判断の観点：文献等で得られた理解と実践上の事実をとつき合わせて考えることができる 技能・表現の観点：テーマに沿った思考過程を他者にわかるように表現できる。幼児教育等の現場で実践できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討1
第2回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討2
第3回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討3
第4回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討4
第5回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討5
第6回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討6
第7回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討7
第8回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討8
第9回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討9
第10回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討10
第11回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討11
第12回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討12
第13回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討13
第14回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討14
第15回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討15

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	永原朗子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	山田次郎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	山本善積				

- 授業の概要 各自の設定した研究テーマと研究計画をもとに、関連の先行研究の調査やその到達点のつかみ方、研究計画の具体化等について指導を行う。
- 授業の一般目標 各自の設定した研究テーマに関連する先行研究を調べ、自らのテーマについての理解を深めるとともに、研究計画を具体化して必要な調査を行う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：各自の研究テーマについての社会的な意味やこれまでの先行研究の概要、問題点を説明できる。思考・判断の観点：先行研究等を踏まえて、各自の研究テーマを明確にし、必要な研究計画を立てられる。関心・意欲の観点：研究テーマに関わる諸問題に広く関心を持ち、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）各自で先行研究を調べ、その概要、問題点を整理して発表する。これを踏まえて、研究計画を具体化し、必要な調査がすすめられるように指導する。
- 成績評価方法（総合）各自の先行研究等に関する調査と授業での発表等を総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	入江和夫				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	五島淑子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	友定啓子				

●授業の概要 受講生の研究テーマに沿った文献に関する演習を行う。演習修士論文作成のための基礎的知識を得る。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討1
第2回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討2
第3回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討3
第4回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討4
第5回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討5
第6回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討6
第7回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討7
第8回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討8
第9回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討9
第10回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討10
第11回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討11
第12回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討12
第13回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討13
第14回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討14
第15回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討15

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	永原朗子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	山田次郎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	山本善積				

- 授業の概要 修士論文の作成に向けて、各自の研究テーマに応じた調査・分析の方法等についての指導を行う。
- 授業の一般目標 各自の研究テーマに応じて、課題を解明するための調査等の方法を理解し、実際に調査等を企画・実行する。また、調査等の結果の分析方法を理解し、主体的に分析、考察を進める。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 研究課題に応じた調査・分析方法等を説明できる。 思考・判断の観点： 論理的に仮説をたてて、それを実証するための調査の在り方を述べることができる。さらに、実証に必要な分析の仕方を述べることができる。 関心・意欲の観点： 主体的に調査を企画し、分析をすすめることができる。
- 授業の計画（全体） 各自の研究テーマについて、解明する課題を明確にし、それに必要な調査・分析の方法について指導する。そして、分析方法も考慮して調査等を企画・実行する。
- 成績評価方法（総合） 研究テーマに関する課題整理、調査等の精緻さ、発表の丁寧さ、主体的な企画、分析などを総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	入江和夫				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	友定啓子				

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討1
第2回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討2
第3回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討3
第4回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討4
第5回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討5
第6回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討6
第7回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討7
第8回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討8
第9回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討9
第10回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討10
第11回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討11
第12回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討12
第13回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討13
第14回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討14
第15回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討15

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	永原朗子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山田次郎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山本善積				

- 授業の概要 各自の研究テーマに関連する社会的諸問題を調べるなど、広い視野からテーマの意味を考察し、先行研究などの学問的な面とあわせて、解明すべき課題を明確にする指導を行う。
- 授業の一般目標 研究テーマについて、社会的・学問的な観点で考察し、解明する課題を明確にする。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：各自の研究テーマに関する社会的な諸問題を調べ、その問題点を説明できる。思考・判断の観点：研究テーマの社会的な意味を考え、学問的な到達点も踏まえて解明する課題を述べることができる。関心・意欲の観点：研究テーマに関連する諸問題に広く関心をもち、問題を整理・考察することができる。
- 授業の計画（全体） 研究テーマに関連する社会的な問題を調べ、その問題点を整理する。学問的な到達点も踏まえて、自らが解明する課題を考察する。
- 成績評価方法（総合） 研究テーマを広い視野から検討して意義付けができたか、解明すべき課題を整理・考察できたかなど、総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	入江和夫				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	友定啓子				

●授業の概要 修士論文執筆の指導。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 論文執筆指導 1
- 第 2 回 項目 論文執筆指導 2
- 第 3 回 項目 論文執筆指導 3
- 第 4 回 項目 論文執筆指導 4
- 第 5 回 項目 論文執筆指導 5
- 第 6 回 項目 論文執筆指導 6
- 第 7 回 項目 論文執筆指導 7
- 第 8 回 項目 論文執筆指導 8
- 第 9 回 項目 論文執筆指導 9
- 第 10 回 項目 論文執筆指導 10
- 第 11 回 項目 論文執筆指導 11
- 第 12 回 項目 論文執筆指導 12
- 第 13 回 項目 論文執筆指導 13
- 第 14 回 項目 論文執筆指導 14
- 第 15 回 項目 論文執筆指導 15

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	永原朗子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山田次郎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	山本善積				

- 授業の概要 修士論文の作成に向けて、調査結果等の分析の深め方、論考の進め方を指導する。
- 授業の一般目標 研究テーマに応じた解明すべき課題の確定、仮設の設定とそれに基づく調査、仮設を実証する分析と総合的考察といった研究の進め方を修得する。それを修士論文に表現できる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 解明すべき課題とその解明のプロセスを説明することができる。
思考・判断の観点： 分析と考察によって、自らの知見を導くことができる。

英語教育専修

開設科目	英語科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	猫田和明				

- 授業の概要 英語教育諸領域についての知見を深めるため、文献講読を行う。文献（教科書の欄を参照）は英語教育の概論書であり、教授法、4 技能の指導、語彙・文法指導、学習者論、教材・メディア論、評価論、教師論、アクションリサーチ等幅広い分野を扱っている。／検索キーワード 英語教育、英語教授・学習
- 授業の一般目標 文献の購読を通して、英語教育諸領域における知識と思考力を高める。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 英語教育諸領域における知識を高めることができる。 思考・判断の観点： 1. 英語教育諸領域における思考力を高めることができる。 関心・意欲の観点： 1. 英語教育諸領域におけるテーマへの関心を高めることができる。 態度の観点： 1. 他人との議論を通して、自身の理解の深化を図ることができる。
- 授業の計画（全体） 受講者のうち、各回の発表担当者は文献の割り当てられた部分の内容をまとめ、20 分程度で発表する。その後、内容について受講者全員で討議し、理解を深める。
- 成績評価方法（総合） 授業内での発表、議論への参加度、レポート課題によって評価する。
- 教科書・参考書 教科書： Teaching English as a Second or Foreign Language, M. Celce-Murcia (Ed.), Heinle & Heinle, 2001 年／ 参考書： 授業内で紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	英語科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	猫田和明				

- 授業の概要 英語教育諸領域についての知見を深めるため、文献講読を行う。文献（教科書の欄を参照）は英語教育の概論書であり、教授法、4 技能の指導、語彙・文法指導、学習者論、教材・メディア論、評価論、教師論、アクションリサーチ等幅広い分野を扱っている。／検索キーワード 英語教育、英語教授・学習
- 授業の一般目標 文献の購読を通して、英語教育諸領域における知識と思考力を高める。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 英語教育諸領域における知識を高めることができる。 思考・判断の観点： 1. 英語教育諸領域における思考力を高めることができる。 関心・意欲の観点： 1. 英語教育諸領域におけるテーマへの関心を高めることができる。 態度の観点： 1. 他人との議論を通して、自身の理解の深化を図ることができる。
- 授業の計画（全体） 受講者のうち、各回の発表担当者は文献の割り当てられた部分の内容をまとめ、20 分程度で発表する。その後、内容について受講者全員で討議し、理解を深める。
- 成績評価方法（総合） 授業内での発表、議論への参加度、レポート課題によって評価する。
- 教科書・参考書 教科書： Teaching English as a Second or Foreign Language, M. Celce-Murcia (Ed.), Heinle & Heinle, 2001 年／ 参考書： 授業内で紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	英語科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	高橋俊章				

- 授業の概要 外国語としての英語教育に関する最新の論考をもとに、日本における英語教育の普遍性と独自性について考察する。
- 授業の一般目標 第 2 言語習得や 4 技能の指導等に関する最新の研究論文を簡潔に整理し、その内容を発表することが出来る。また、その内容について討論を行うことが出来る。
- 授業の計画（全体） 毎週、1～2つの第 2 言語習得や 4 技能の指導等に関する最新の研究論文を読む。担当者は、論文の内容を B 4 2 枚程度に簡潔に整理し、その内容について発表することが求められる。また、論文で取り上げられた内容について討論を行う。
- 成績評価方法（総合） 発表の内容とテストの成績によって評価を行う。
- 連絡先・オフィスアワー bld10@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語科教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	高橋俊章				

- 授業の概要 英語教育および（応用）言語学、（認知）心理学、第 2 言語習得研究等の研究成果を踏まえ、英語教材を文法、語彙、言語機能、題材文化等の観点から学習する。
- 授業の一般目標 英語教育および（応用）言語学、（認知）心理学、第 2 言語習得研究等の研究成果を踏まえ、英語教材を文法、語彙、言語機能、題材文化等の観点から分析・考察することが出来る。
- 授業の計画（全体） 英語教育および（応用）言語学、（認知）心理学、第 2 言語習得研究等の最新論文を読む。その内容に基づき、英語教材を文法、語彙、言語機能、題材文化等の観点から分析・考察する。言い換えれば、理論を当てはめれば、具体的にどのような教材でなければならないのかを検討する。
- 成績評価方法（総合） 発表の内容とテストの成績によって評価を行う。
- 連絡先・オフィスアワー bld10@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	松谷緑				

- 授業の概要 英語を通時的観点に立って観察する。どのような変化を経て今日の英語が成立したかの理解を深める。
- 授業の一般目標 英語学上の諸問題について、正しく観察し、分析するための考え方を学ぶ。言語事実を踏まえ、諸規則の綿密な観察ができること・英語を外国語として学ぶ学習者の疑問に答えられる知識と能力を培うことを目的とする。

開設科目	英語学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	松谷緑				

- 授業の概要 英語を通時的観点に立って観察する。どのような変化を経て今日の英語が成立したかの理解を深める。
- 授業の一般目標 英語学上の諸問題について、正しく観察し、分析できる。言語事実を踏まえた演習を通して、諸規則の綿密な観察ができること・英語を外国語として学ぶ学習者の疑問に答えられる知識と能力を培うことを目的とする。

開設科目	英語学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	某				

●授業の概要 英語を主として共時的視点から考察する。音韻・語形・統語といった文内文法的特徴、及び会話の含意・談話・社会における言語使用などの文外文法的特徴を明らかにする。

●教科書・参考書 教科書：プリント各種

●備考 集中授業

開設科目	英語学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	前田満				

●**授業の概要** この授業でとり上げるのは、英語のモダリティ表現（法助動詞、仮定法など）の意味および用法に関わる諸問題である。モダリティ表現は話者の主観的見方や感情などを伝達するために用いられるという点で、ともすると行間には現れない話者の「ところ」を知るうえでカギとなる表現である。随所で、日本語のモダリティ表現を参照することによって、言語の性質や英語の文法の理解を深めるとともに、日本語と英語の文化的・社会的相違点などを浮き彫りにしてみたい。

●**授業の一般目標** この授業では、英語学の専門書を読解することによって、英語学の諸概念を学ぶのと同時に、英語の読解力の涵養もめざしている。まず、英語においてモダリティ表現がどのように使われているかを理解し、それを通じて自らの英文法の知識を深めてゆくことが求められる。さらに、日本語との比較により、英文法学習における新たな視点を得られるよう配慮したい。また、原文の専門書を読みこなす英語の「感覚」を身につけることも目標に含まれており、さらに、学生諸君の授業をプレゼンによって進め、プレゼンテーション能力の涵養も狙っている。

●**授業の到達目標**／知識・理解の観点：英語においてモダリティ表現がどのように使われているかを理解し、それを通じて自らの英文法の知識を深めてゆくことが求められる。思考・判断の観点：英語のモダリティについて学んだことを読解や作文など現実の英語使用の場面に生かすための応用力が求められる。また、言語学用語については、まずは英語学辞典などを用いて自ら調べ、授業のプレゼンに備えること。関心・意欲の観点：意欲を持って授業に参加し、授業の主題に関心をもっていただきたい。態度の観点：業に集中し、課された課題に十分な努力を払うこと。技能・表現の観点：授業のプレゼンやレポートをとおして表現力を高めること。

●**授業の計画（全体）** 授業は基本的にテキストにそって行いが、必要であれば、他の資料などを用いて内容を補足する。まず、授業のきっかけとして、言語学で考えられているモダリティの概念をテキストおよびその他の資料を用いて概説する。英語において様々なモダリティがどのように表現されるかを学ぶ。最後に、英語と日本語のモダリティ表現を比較し、さらにモダリティ表現が現実の社会において果たす役割について考える。

●**授業計画（授業単位）**／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 演習 (1)
- 第 3 回 項目 演習 (2)
- 第 4 回 項目 演習 (3)
- 第 5 回 項目 演習 (4)
- 第 6 回 項目 演習 (5)
- 第 7 回 項目 演習 (6)
- 第 8 回 項目 演習 (7)
- 第 9 回 項目 演習 (8)
- 第 10 回 項目 演習 (9)
- 第 11 回 項目 演習 (10)
- 第 12 回 項目 演習 (11)
- 第 13 回 項目 演習 (12)
- 第 14 回 項目 演習 (13)
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** この授業では、おもに期末レポート、授業時間内に行うプレゼンおよび出席状況によって評価を行う。

●教科書・参考書 教科書：プリントを活用する。／参考書：プリントを活用する。

開設科目	英米文学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	武井暁子				

- 授業の概要 Charles Dickens, Oliver Twist を読む／検索キーワード イギリス小説, チャールズ・ディケンズ
- 授業の一般目標 ディケンズ特有のユーモアと社会批判を理解する 論文の書き方を習得する
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： Oliver Twist の特質、主題を理解する 思考・判断の観点： ディケンズが生きたヴィクトリア朝の社会問題を理解する 技能・表現の観点： 理解した内容をレポートする
- 授業の計画（全体） ディケンズの生涯について概略を述べた後、担当者は 1 章分の人物関係とストーリーの概略、面白いと思った点などを発表する。毎回 2 章ずつ読み、ディスカッションする
- 成績評価方法 (総合) 授業中の発表+ディスカッション+学期末に 6,000-8,000 字の論文提出
- 教科書・参考書 教科書： Oliver Twist, C h a r l e s Dickens, P e n g u i n／ 参考書： 授業中に指示
- メッセージ 担当者は授業当日に分担箇所をレジюмеにして出席者に配る or パワーポイントによるプレゼンテーションをする。ディスカッションでは積極的に発言すること。

開設科目	英米文学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	武井暁子				

- 授業の概要 前期に続き Charles Dickens, Oliver Twist を読む／検索キーワード イギリス小説, チャールズ・ディケンズ
- 授業の一般目標 ディケンズ特有のユーモアと社会批判を理解する 論文の書き方を習得する
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： Oliver Twist の特質、主題を理解する 思考・判断の観点： ディケンズが生きたヴィクトリア朝の社会問題を理解する 技能・表現の観点： 理解した内容をレポートする
- 授業の計画（全体） ディケンズの生涯について概略を述べた後、担当者は 1 章分の人物関係とストーリーの概略、面白いと思った点などを発表する。毎回 2 章ずつ読み、ディスカッションする
- 成績評価方法（総合） 授業中の発表+ディスカッション+学期末に 6,000-8,000 字の論文提出
- 教科書・参考書 教科書： Oliver Twist, C h a r l e s Dickens, P e n g u i n／ 参考書： 授業中に指示
- メッセージ 担当者は授業当日に分担箇所をレジюмеにして出席者に配る or パワーポイントによるプレゼンテーションをする。ディスカッションでは積極的に発言すること。

開設科目	英米文学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	中村幸士郎				

- 授業の概要 英文学の華と言われるロマン派の詩人達や英詩の歴史的流れを概観しながら、特にロマン派の代表的詩人の一人、P. B. Shelley の珠玉の詩を詳細に鑑賞し、その内容・詩情・言語表現がどのように融合され統一されて、どのような優れた芸術性を生み出しているかを探求する。／検索キーワード 英詩の鑑賞。ロマン派の詩人達。詩形。言葉のイメージと表現法。英詩の音読。
- 授業の一般目標 1. 英詩に対する理解を深め、楽しめるようになる。 2. 英詩の読み方や鑑賞の方法の基本を習得する。 3. 英語の授業にどのように生かせるかを考える。 4. 広く文学論を自ら修得できるよう具体的目標を立て努力する。
- 授業の計画（全体） イギリスロマン派の詩人の詩をテキストに沿って演習形式で読み進める。最初は詩の読み方を詳しく解説する。各詩人の伝記的背景、詩の特色と思想、個々の詩の分析と鑑賞について、それぞれレポートを作成し、発表してもらう。
- 成績評価方法 (総合) 授業中の演習、3回のレポートの成績で評価。出席は2／3以上。
- 教科書・参考書 教科書：プリント多数／参考書：教室で指示
- メッセージ 英詩を楽しもう。英詩読解と鑑賞の基本を習得しよう。表現の微妙さや味わいを自分のものにしよう。
- 連絡先・オフィスアワー 9 3 3－5 4 2 4 木曜日 17：00～18：00

開設科目	英米文学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	中村幸士郎				

- 授業の概要 前期に続いて、特に P. B. Shelley や他のロマン派の詩人達の珠玉の詩を詳細に鑑賞し、その内容・詩情・言語表現がどのように融合され統一されて、どのような優れた芸術性を生み出しているかを探求する。／検索キーワード 英詩鑑賞、詩形、ロマン派の詩人達、P.B. Shelley、詩の言葉と表現、日本の詩や俳句との比較
- 授業の一般目標 1. 英詩に対する理解を一層深め、十分に鑑賞できる能力を修得する。 2. 英詩の読み方や鑑賞方法のレベルを高める。 3. 英語の授業にどのように生かせるかを考える。 4. 広く文学論を自ら修得できるよう具体的目標を立て努力する。
- 授業の計画（全体） イギリスロマン派の詩人の詩をテキストに沿って演習形式で読み進める。必要に応じて他の詩人の詩を取り入れ、比較対照的に学習する。各詩人の詩の特色と思想、この詩人の詩の分析と鑑賞について、一層レベルの高いレポートを作成し、発表してもらおう。お互いに発表内容に関して論評し合い、より一層深い理解が得られるように毎回努力する。
- 成績評価方法（総合） 授業中の演習、3回のレポートの成績で評価。出席は2／3以上。
- 教科書・参考書 教科書：プリント多数／参考書：教室で指示
- メッセージ 英詩を楽しもう。英詩の音読と英語の音読教育との関係について考えよう。言葉の持つ魅力について様々な角度から考えよう。
- 連絡先・オフィスアワー 933-5424 木曜日17:00～18:00

開設科目	英米文学特論 III	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	増田勉				

- 授業の概要 大学院に相応しい高度の内容を学ぶ。
- 授業の一般目標 英文学について知識を広め、深める。
- 授業の計画（全体） 最初の授業で述べる。
- 成績評価方法（総合） 授業での発表、レポート、試験等の評価を総合して判断。
- 教科書・参考書 教科書：未定
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部 2 階研究室 933-5425 E-mail:masuda@yamaguchi-u.ac.jp 火曜日
16:00-17:30

開設科目	英米文学特論演習 III	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	増田勉				

- 授業の概要 大学院に相応しい高度の英文を読む。
- 授業の一般目標 高度の英文の読解力を養う。
- 授業の計画（全体） 最初の授業で述べる。
- 成績評価方法（総合） 授業での発表、レポート、試験等の評価を総合して判断。
- 教科書・参考書 教科書：未定
- 連絡先・オフィスアワー 教育学部 2 階研究室 933-5425 E-mail:masuda@yamaguchi-u.ac.jp 火曜日
16:00-17:30

開設科目	比較文化学特論	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	北西功一				

●授業の概要 文化人類学における異文化理解のあり方について学ぶ。具体的には Conformity and Conflict という欧米の大学で使われている文化人類学の教科書を読み進めていく。／検索キーワード 文化相対主義

●授業の一般目標 文化人類学における異文化理解の基礎である文化相対主義を理解し、また文化相対主義に基づいた異文化理解を実践する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： Culture, Cultural Relativism, Native Realism, Ethnocentrism などの文化人類学の概念を理解する。 思考・判断の観点： 文化相対主義に基づいて、異文化について考えることができる。 関心・意欲の観点： 異文化理解に関心を持つ。 態度の観点： 異文化を持つ人たちに対して偏見を持たずに接することができるようになる。

●授業の計画（全体） まず、文化、文化相対主義、自民族中心主義といった概念を説明する。次に、具体的な民族誌的記述などに基づいて異文化理解の実践例を学ぶ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Culture and Ethnography 1
- 第 2 回 項目 Culture and Ethnography 2
- 第 3 回 項目 Eating Christmas in the Kalahari 1
- 第 4 回 項目 Eating Christmas in the Kalahari 2
- 第 5 回 項目 Shakespeare in the Bush 1
- 第 6 回 項目 Shakespeare in the Bush 2
- 第 7 回 項目 Lessons from the Field 1
- 第 8 回 項目 Lessons from the Field 2
- 第 9 回 項目 Language and Communication
- 第 10 回 項目 Homo grammatics
- 第 11 回 項目 The Sapir-Whorf Hypothesis 1
- 第 12 回 項目 The Sapir-Whorf Hypothesis 2
- 第 13 回 項目 Ecology and Subsistence
- 第 14 回 項目 Economy and Globalization
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法（総合） 期末レポートと授業時における参加度に基づいて評価する。

●教科書・参考書 教科書： Conformity and Conflict, J. Spradley & D.W. McCurdy, Pearson Education Inc., 2003 年；教科書は適宜コピーして渡す。

●メッセージ 英語の教科書を読んでもらうこととなりますから、それなりの心構えをしておいてください。

●連絡先・オフィスアワー kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 教育学部 2 階 266 号室 オフィスアワー 随時

開設科目	比較文化学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	小粥良				

●授業の概要 テリー・イーグルトンの『文化の概念』を読み、討議する。テーマを決めて、調査・分析を行い論述する。

●授業の一般目標 文化について、人文・社会学系の学問で、現在どのようなことが問題とされているかを知る。文化に対する普遍主義的な立場とアイデンティティー・ポリティクスなどの個別主義的な立場の間の争点について洞察を深め、自身の文化研究に対する立脚点を模索する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：イーグルトンの著書で論じられている「文化」概念の歴史的展開と、現在の様々な文化に対する見解を理解する。思考・判断の観点：イーグルトンの著書の内容を、今日の日本における「文化」を巡る言説と結びつけて論述することができる。関心・意欲の観点：文化についての様々な言説を文献、インターネットで積極的に調査することができる。態度の観点：英語のテキストを、常に授業前にきちんと下調べし、丹念に読んで考察して行くことができる。与えられた課題に積極的に取り組むことができる。技能・表現の観点：難解な英文テキストをきちんと解釈して、読みこなすことができる。修士課程のレベルにふさわしい分析的・客観的な論述を行うことができる。

●授業の計画（全体） テリー・イーグルトンの『文化の概念』を読み進めていく。毎回、訳を提出してもらい、その内容について討議する。その都度、指示を与え調査する課題を出す。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第2回 項目 テキストの読解 と討議
- 第3回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第4回 項目 テキストの読解 と討議
- 第5回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第6回 項目 テキストの読解 と討議
- 第7回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第8回 項目 テキストの読解 と討議
- 第9回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第10回 項目 テキストの読解 と討議
- 第11回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第12回 項目 テキストの読解 と討議
- 第13回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第14回 項目 テキストの読解 と討議
- 第15回 項目 レポート提出

●教科書・参考書 教科書：The Idea of Culture, Terry Eagleton, Blackwell Publishers, 2000年；教科書は当初、初めの部分をコピーして配布する。なお、日本語の翻訳は出ていない。／参考書：レイモンド・ウィリアムズ『キーワード辞典』（晶文社）

●メッセージ テキストは英文なので、指定された箇所を事前にしっかり読んでおくこと。

●連絡先・オフィスアワー 小粥研究室（国際理解教育資料室向かい）木曜日 16：00－17：00

開設科目	英語科教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	高橋俊章・猫田和明				

- 授業の概要 外国語としての英語教育における授業内容、方法、学習者、教具、評価などの観点から 英語科授業研究を行う
- 授業の一般目標 特定なテーマ（リスニング、文法など）に関して、実際の教材を用い、様々な観点（指導内容、指導方法、学習者要因、教具の利用方法、評価方法など）から分析し、考察することが出来る。
- 授業の計画（全体） 前年度までに学んだ理論的知識に基づき、特定なテーマ（リスニング、文法など）に関して、実際の教材を用い、様々な観点（指導内容、指導方法、学習者要因、教具の利用方法、評価方法など）から分析し、考察を行う。 理論的枠組みを簡潔に発表した後、毎週異なる観点から考察を行う。
- 連絡先・オフィスアワー bld10@yamaguchi-u.ac.jp nekoda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語科教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	中村幸士郎他				

- 授業の概要 学校あるいは地域社会、団体等において外国語および当該外国語圏の文化について指導教官の指導のもとで教育体験をする。あるいは実地に研修を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	高橋俊章				

- 授業の概要 修士論文作成に直結する課題について、それぞれの専門分野の高度な研究を行う。具体的には・個別テーマに関する文献を読む・個別テーマに関する討議、・修士論文の構成や（実験等を行う場合）調査の実施方法等に関するアドバイス等
- 授業の一般目標 英語教育のテーマに関する文献調査能力、調査や実験の企画・実施及び分析能力を身につける。また、論理的な論文執筆能力を身につける。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 修士論文で取り上げる英語教育の研究テーマに関係する基本的な知識を身につけている。 関心・意欲の観点： 先行研究や調査等において意欲的に取り組む。 態度の観点： これまで、明らかになっていなかった点を探求しようとし、得られた知見を今後の英語教育に応用しようとする態度を持つ。 技能・表現の観点： 文献調査の結果に基づいて、論理的で分かりやすい発表を行う。
- 授業の計画（全体） 英語教育のテーマに関する文献調査を行う。また、文献調査に基づいて、論理的で分かりやすい発表を行う。英語教育のテーマに関する文献調査を行う。
- 成績評価方法（総合） 課題研究における発表の内容によって評価を行う。
- 連絡先・オフィスアワー bld10@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	高橋俊章				

●授業の概要 修士論文作成に直結する課題について、それぞれの専門分野の高度な研究を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	高橋俊章				

●授業の概要 修士論文作成に直結する課題について、それぞれの専門分野の高度な研究を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	高橋俊章				

●授業の概要 修士論文作成に直結する課題について、それぞれの専門分野の高度な研究を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	猫田和明				

●授業の概要 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を書くために必要な指導を行う。（受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。）／検索キーワード 英語教育研究

●授業の一般目標 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を書くための活動を行う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。 思考・判断の観点：1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。2. 自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 態度の観点：1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 技能・表現の観点：1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。

●授業の計画（全体） 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20～30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第2回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第3回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第4回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第5回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第6回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第7回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第8回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第9回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第10回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第11回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第12回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第13回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第14回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第15回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議

●成績評価方法（総合） 論文作成への布石となる授業内での発表内容と論文作成に向けて取り組む姿勢を評価する。

●連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	猫田和明				

●授業の概要 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を書くために必要な指導を行う。（受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。）／検索キーワード 英語教育研究

●授業の一般目標 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を書くための活動を行う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。 思考・判断の観点：1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。2. 自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 態度の観点：1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 技能・表現の観点：1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。

●授業の計画（全体） 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20～30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第2回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第3回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第4回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第5回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第6回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第7回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第8回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第9回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第10回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第11回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第12回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第13回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第14回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
 第15回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議

●成績評価方法（総合） 論文作成への布石となる授業内での発表内容と論文作成に向けて取り組む姿勢を評価する。

●連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	猫田和明				

●授業の概要 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を書くために必要な指導を行う。（受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。）／検索キーワード 英語教育研究

●授業の一般目標 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を書くための活動を行う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。 思考・判断の観点：1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。2. 自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 態度の観点：1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 技能・表現の観点：1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。

●授業の計画（全体） 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20～30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第2回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第3回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第4回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第5回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第6回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第7回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第8回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第9回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第10回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第11回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第12回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第13回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第14回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第15回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議

●成績評価方法（総合） 論文作成への布石となる授業内での発表内容と論文作成に向けて取り組む姿勢を評価する。

●連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	猫田和明				

●授業の概要 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を書くために必要な指導を行う。（受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。）／検索キーワード 英語教育研究

●授業の一般目標 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を書くための活動を行う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。 思考・判断の観点：1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。2. 自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 態度の観点：1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 技能・表現の観点：1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。

●授業の計画（全体） 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20～30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第2回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第3回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第4回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第5回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第6回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第7回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第8回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第9回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第10回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第11回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第12回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第13回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第14回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議
第15回 項目 論文指導 内容 各自のテーマに沿った発表と討議

●成績評価方法（総合） 論文作成への布石となる授業内での発表内容と論文作成に向けて取り組む姿勢を評価する。

●連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	増田勉				

●授業の概要 課題に即して指導。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	増田勉				

●授業の概要 課題に即して指導。論文指導。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	増田勉				

●授業の概要 課題に即して指導。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	増田勉				

●授業の概要 課題に即して指導。論文指導。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	松谷緑				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	松谷緑				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	松谷緑				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	松谷緑				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	前田満				

●授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	前田満				

●授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	前田満				

●授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教員	前田満				

●授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教員	小粥良				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教員	小粥良				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	小粥良				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教員	小粥良				